

授 業 内 容

2022年度

横浜女子短期大学

目 次

教 養 科 目

§ 1. 教養科目

キリスト教の精神Ⅰ	1-3
キリスト教の精神Ⅱ	4-6
教養演習	7・8
保育総合演習	9-11
哲学	12・13
日本国憲法	14・15
心理学	16・17
生物学	18・19
情報機器の操作	20・21

§ 2. 外国語

英語Ⅰ	23・24
英語Ⅱ	25・26

§ 3. 保健体育

体育実技	27-29
体育講義	30・31

専 門 教 育 科 目

§ 4. 専門教育科目

保育原理	33-35
教育原理	36・37
保育者論	38・39
カリキュラム論	40・41
特別支援教育の基礎と方法	42-45
障害児保育	46-49
社会福祉	50・51
子ども家庭福祉	52-55
子ども家庭支援論	56-59
子育て支援	60・61
社会的養護Ⅰ	62-64
社会的養護Ⅱ	65-67
子どもの保健	68・69
子どもの健康と安全	70・71
子どもの食と栄養A	72・73

子どもの食と栄養B	74・75
乳児保育Ⅰ	76・77
乳児保育Ⅱ	78・79
保育の心理学（発達）	80-82
保育の心理学（学習）	83-85
子ども家庭支援の心理学	86・87
子どもの理解と援助	88・89
教育相談	90・91
保育内容総論	92・93
保育内容研究	94-96
健康	97・98
健康の指導法	99-101
人間関係	102-104
人間関係の指導法	105-108
環境	109・110
環境の指導法	111・112
言葉	113-116
言葉の指導法	117-120
音楽表現	121・122
音楽表現の指導法	123・124
造形表現	125・126
造形表現の指導法	127・128
子どもの生活と遊びⅠ	129・130
子どもの生活と遊びⅡ	131・132
子どもの生活と遊びⅢ	133-135
保育方法論	136・137
保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	138-141
保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	142-145
保育・教職実践演習（幼稚園）	146-148
保育実習Ⅰ	149・150
保育実習Ⅱ	151・152
保育実習Ⅲ	153
保育実習指導Ⅰ	154-157
保育実習指導（Ⅱ）	158-160
保育実習指導（Ⅲ）	161・162
教育実習	163・164
教育実習指導	165-167

§ 1. 教養科目

授業科目名 キリスト教の精神 I (教養科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態： 講義 単位数： 1 単位 開講期： 1 学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
授業の概要						
<p>入学式から卒業式までの（一年間に及ぶ）、一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育学生として、目の前の人間とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わっていくべきかを考えさせる機会をもつ。</p> <p>また、聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きているのか、その手本をどこに見出すのか、ということを考えさせる機会をもつ。『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくる。</p>						
授業の到達目標						
<p>聖書からキリスト教における隣人愛について学び、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神について深く見詰め、考える機会をもつことで、一人の人間として、保育者を目指す学生として、どのように人と生きるのか、子どもとともにあるべきかを深く理解することができる。</p>						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1 (①②③), DPI-2 (①②③), DPII①, DPII②						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	入学式（4月1日）	<p>この授業に臨むに当たっては、日頃より、自分一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心を持ち、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がける。</p> <p><u>事前学習</u>：入学前教育や入学生連絡説明会での導入学習時の説明でふれられた、建学の精神の「愛と奉仕」の精神について自分なりに考察する機会をもつ（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：当該日程に参加後は、その時の講話等について、各自で振り返り、日々の生活に、キリスト教の精神を可能な限り活かしていけるように取り組む（1時間）。</p>				
第2回	<u>聖書からの学び①</u> （松川牧師）	<p><u>事前学習</u>：シラバスから、一年間の学びを確認し理解する。聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：授業で学んだこと、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、それを次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>				
第3回	<u>聖書からの学び①</u> （松川牧師）	<p><u>事前学習</u>：聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：授業で学んだこと、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるよう考えながら、まとめておく（1時間）。</p>				
第4回	月例集会（4月25日）	<p><u>事前学習</u>：聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：説教の内容を理解する。内容を振り返り、可能な限り実践に努める（1時間）。</p>				
第5回	<u>聖書からの学び②</u> （松川牧師）	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p>				

		事後学習：聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。
第6回	聖書からの学び②（松川牧師）	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。 事後学習：授業、聖書から学んだことを振り返り、可能な限り日々の生活に活かせるように考えながら、まとめておく（1時間）。
第7回	月例集会（5月23日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第8回	聖書からの学び③（松川牧師）	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。 事後学習：聖書から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。
第9回	聖書からの学び④（松川牧師）	事前学習：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。 事後学習：聖書から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで日々の生活に活かせるように考えながら、まとめておく（1時間）。
第10回	月例集会（6月27日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第11回	前期終業集会（8月1日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第12回	後期始業集会（9月27日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：これまでの説教の内容を振り返りながら、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第13回	月例集会（11月）（11月7日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第14回	クリスマス集会（12月21日）	事前学習：クリスマスの内容を聖書から読み取り、理解を深めておく（1時間）。 事後学習：クリスマス礼拝時の説教の内容を振り返り、内容の理解を深める（1時間）。
第15回	新年集会（1月10日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：新年で心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
テキスト ギデオン協会より贈呈される新約聖書、讚美歌集		

参考書・参考資料等

日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。

学生に対する評価

参加姿勢・態度（60%）と課題・レポート（40%）の総合評価

実務経験

大船ルーテル教会牧師（松川和義）

実務経験を活かした教育内容

教会の牧師として（広く一般の方に向けての説教の経験も活かし）、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について平易に教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげるものとする。

授業科目名 キリスト教の精神Ⅱ (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之 松川 和義 滝口 節子
	必修	必修	必修	開講期：2学年 通年		

授業の概要

「キリスト教の精神Ⅰ」での1年間にわたる学びに引き続き、さらに2年次での（1年間に及ぶ）一連の集会における学長のことば・牧師の説教を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わり行動していくべきかを深く考察し学ぶ。

また、聖書とその説教を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きており、その手本をどこに見出すのか、ということをも深く考察し学ぶ。『愛と奉仕』の精神を日々実践していくきっかけをつくる。

授業の到達目標

「キリスト教の精神Ⅰ」での学びを踏まえて、キリスト教における隣人愛について考える機会を重ねることで、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神について更に理解を深めていき、一人の人間として、保育者として、どのように隣人と生きるのか、子どもとともにあるべきかについてさらに深い理解を形成し、その理解にもとづいて、「愛と奉仕」に積極的に取り組むことができるようになる。

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1 (①②③), DPI-2 (①②③), DPII①, DPII②

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	月例集会（4月25日）	この授業に臨むに当たっては、日頃より、自分一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心を持ち、日々のニュースに目を向けるとともに、人の支えに感謝する日々を送るように心がける 事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第2回	月例集会（5月23日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで、それを可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第3回	月例集会（6月27日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第4回	前期終業集会（8月1日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：これまでの説教の内容を振り返りながら、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。
第5回	後期始業集会（9月27日）	事前学習：聖書を熟読しておく（1時間）。 事後学習：後期の開始に当たり心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。

第6回	月例集会（11月7日）	<p><u>事前学習</u>：聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：説教から学んだことを振り返り、感謝の気持ちで、それを可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。</p>
第7回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第8回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第9回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第10回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第11回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義から学んだことを振り返り、可能な限り自分の生活に活かしていけるように考えるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第12回	松川牧師集中講義	<p><u>事前学習</u>：前回の内容を振り返り、聖書を熟読する（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：講義の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努めるとともに、次回の授業内容につなげるためまとめておく（1時間）。</p>
第13回	クリスマス集会（12月21日）	<p><u>事前学習</u>：クリスマスの内容を聖書から読み取り、理解を深めておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：クリスマス礼拝時の説教の内容を振り返り、内容の理解を深める（1時間）。</p>
第14回	新年集会（1月10日）	<p><u>事前学習</u>：聖書を熟読しておく（1時間）。</p> <p><u>事後学習</u>：新年で心を新たにしながら、説教の内容を振り返り、理解を深め、可能な限り日々の生活に活かせるように考え、実践に努める（1時間）。</p>
第15回	卒業式（3月15日）	<p><u>事前学習</u>：2年間の自己の日々の生活を振り返りながら、建学の精神である「愛と奉仕」の精神の基礎が果たしてどれだけ自分の中に根付いてきているのかを省察してみる（1時間）。</p>

		<p>事後学習：学校生活を締めくくる本日程の参加後は、その時の講話等の内容をしっかりと振り返り、キリスト教の「愛と奉仕」の精神を自己の心により深く刻み込み、今後の日々の生活に、それを可能な限り活かしていけるように取り組み努力していく。</p>
<p>テキスト 新約聖書、讚美歌集</p>		
<p>参考書・参考資料等 日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳</p>		
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 『愛と奉仕』の精神を包括するキリスト教の精神を涵養することの意義、それが人生を支え、人生の潤いを与えてくれること、日々実践している自分を見いだせるように、授業に相当する日程を通じて様々な角度から繰り返し、振り返りを促す働きかけを学びのフィードバックとして行う。</p>		
<p>学生に対する評価 参加姿勢・態度（60%）と課題・レポート（40%）の総合評価</p>		
<p>実務経験 大船ルーテル教会牧師（松川和義）</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容 教会の牧師としての経験より、聖書を用いて、キリスト教の隣人愛について教示し、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神の理解へとつなげる。</p>		

授業科目名 教養演習 (教養科目)	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	[学術] ・ 実務	担当教員名 全専任教員
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 通年		
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者養成における「初年次教育」の充実を図るため、「全体授業」と「ゼミ」(少人数)の授業を行う。 ・1年次を対象としたゼミの授業を実施し、きめ細かい学習支援・生活支援・実習支援等を行う。 ・ゼミ授業は、全専任教員が担当し、共通のプログラムを実施する。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者になるための2年間の学びの目標や課題をもち、意欲的に学習に臨む力をつける。 ・学生は少人数のゼミ形式で教員のきめ細かい指導、支援により保育者になるための意欲を高める。 ・学生としての必要な基礎力、言語表現スキル、実習生としての常識、マナー等を身につける。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPII①②③④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	[全体] 修養会「保育者になるための学び」			事前学習：学生便覧 p.3 を読む(30分) 事後学習：講演内容レポートを書く(30分)		
第2回	[全体→ゼミ] 前期ガイダンス(授業内容、評価方法等) ⇒各ゼミで 自己紹介、「あなたが学ぶ学校とは」「あなたはどんな人ですか」(pp.10~13)			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)		
第3回	[全体→ゼミ] キャリアガイダンス①(養成校2年間の目標と将来つきたい職業・仕事) ⇒各ゼミで 「将来の進路」「キャリアデザインシート～なりたい自分の姿」(pp.14~16)			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)		
第4回	[ゼミ] 学生生活のデザイン、自己管理しよう(pp.16~23)			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)		
第5回	[全体→ゼミ] 「短大での学び、授業を受けるマナー、情報モラル」 教員からの話 ⇒各ゼミで (pp.27~32)			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)		
第6回	[全体→ゼミ] 「マナーや言葉づかい」 教員からの話 ⇒各ゼミで ロールプレイの実施			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)		
第7回	[全体→ゼミ] キャリアガイダンス②(「就職ガイド」配布、説明 / 秋季特別研修の説明) ⇒各ゼミで			事前学習：3回の内容の復習をする(30分) 事後学習：秋季特別研修の課題を実施(30分)		
第8回	[全体] 秋季特別研修事前学習			事前学習：7回の内容を復習する(30分) 事後学習：秋季特別研修の課題の実施(30分)		
第9回	[全体] 秋季特別研修			事前学習：8回の内容を復習する(30分) 事後学習：秋季特別研修の課題の実施(30分)		
第10回	[全体] 履修カルテ(自己評価)の説明・実施			事前学習：これまでの学びを振り返る(30分) 事後学習：学びの課題を明確にする(30分)		

第 11 回	[全体→ゼミ]「図書館オリエンテーション」(pp. 40～42) / ゼミごとのレポート課題説明 ⇒ 各自図書館で資料を探す。	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：選択した資料を熟読する(30分)
第 12 回	[ゼミ] 各自レポートを作成・発表後提出	事前学習：レポートの下書きをする(30分) 事後学習：学んだことと今後の課題をまとめる(30分)
第 13 回	[ゼミ] 言語表現の学び(わかりやすい文章の書き方、基礎的な漢字の読み書き) (pp. 44～53)	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)
第 14 回	附属幼稚園クリスマス会見学	事前学習：子どもにとっての行事の意味を調べる(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)
第 15 回	[全体] 初年次の振り返り(授業の取り組み、自己診断など) (pp. 132～134) キャリアガイダンス③(「就職ガイド」持参) / 定期試験の連絡・注意事項等 ※(第12～14回目について) 全体を大きく2つのグループに分けて、 ●一つのグループは「第12→第13→第14」の順で、 ●もう一つのグループは「第14→第12→第13」の順で授業を展開する。	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：振り返りレポートを書く(30分)
<p>テキスト</p> <p>谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018年</p> <p>亀谷美代子著『シリーズ 福祉に生きる 68 平野 恒』大空社、2015年</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「学生便覧 2022年度 横浜女子短期大学」、「実習テキスト 横浜女子短期大学」、「就職ガイド 2022年度 横浜女子短期大学」他</p>		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <p>理解度を確認するための課題については、授業時に解説を行ったうえで返却する。演習で取り扱う提出物については、随時フィードバックする。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に積極的に取り組む姿勢・態度(60%) ワークブックや課題等の提出物(40%)</p>		

授業科目名 保育総合演習 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
	必修	必修	必修	開講期： 2学年 通年		各専任教員
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・学生主体の実践的学習をゼミ形式で行い、教員からのフィードバックにより保育・幼児教育への理解を深める。 ・ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力を高める。 ・進路選択に向け、外部講師による就職ガイダンス説明会を行う。 ・就職活動に向け、キャリア支援担当教職員による具体的な指導を行う。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学びを土台として、社会人としての基礎と保育者になるために必要な資質・能力を身につける。 ・自分を理解し、将来について考え、進路選択決定に向けて見通しを持った生活を送る。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPⅡ①②③④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	キャリアガイダンス① 履修カルテの記入			<ul style="list-style-type: none"> ・「学生便覧」p.80～81を読み、本学のキャリア支援について理解しておく。(事前学習30分) ・就職に向けての現在の自分の考えや課題をまとめる。(事後学習30分) 		
第2回	ゼミ形式の学習活動(ホームグループ)			<ul style="list-style-type: none"> ・各ゼミ担当教員の指示に従い、予習や事前準備を行う。また、授業後学習した内容を復習し、再度担当教員の指導を仰ぐ。(事前学習30分、事後学習30分) 		
第3回	横浜市幼稚園協会説明会キャリアガイダンス			<ul style="list-style-type: none"> ・事前に横浜市幼稚園協会発行の冊子を読み、幼稚園の機能や保育所との違いなどを調べておく。(事前学習30分) ・ガイダンス終了後に新たな気づきや感想を書き、今後の就職活動につなげる。(事後学習30分) 		
第4回	就職模擬試験 -1-			<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す上での心構えや学習面で努力していること、学生生活のこと等800字程度の文章を書けるよう、練習しておく。(事前学習30分) ・自分の書いた文章を振り返り、誤字脱字や文法等の間違いがなかったか振り返る。(事後学習30分) 		
第5回	キャリアガイダンス② 履歴書の書き方 他			<ul style="list-style-type: none"> ・事前に履歴書の項目を確認し、授業内で正しく記入できるよう準備しておく。(事前学習30分) ・ゼミ担当の教員による事後指導を経て、内容を理解した上で修正する。(事後学習30分) 		
第6回	就職模擬試験結果 -2- ・作文の添削振り返り、修正			<ul style="list-style-type: none"> ・専門業者の添削が入った試験用紙を各自で修正する(事前学習30分) ・修正後に専任教員の指導を受け、必要に応じて再度、修正作業を行う。(事後学習30分) 		

第7回	キャリア ガイダンス③ 「就職ガイド」配布	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度版「就職ガイド」p.6～9を読み就職活動の流れを把握しておく。(事前学習 30分) ・配布された2022年度版「就職ガイド」を見直し、今後の自分の進路について考える。(事後学習 30分)
第8回	本学関連園就職説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の関連施設についてホームページや大学案内を読んで理解しておく。(事前学習 30分) ・各関連施設の特色や機能の違いをまとめる。(事後学習 30分)
第9回	横浜市保育士就職ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の機能や幼稚園との違いなどを調べておく。(事前学習 30分) ・ガイダンス終了後に新たな気づきや感想を書き、今後の就職活動につなげる。(事後学習 30分)
第10回	キャリア ガイダンス④ 求人票について 他	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する各自治体主催の「就職フェア」や「就職説明会」の情報を収集し、参加園や開催の形式等を把握しておく。(準備 30分) ・実際に興味のある園を検索して求人票の見方や内容を確認する。(事後学習 30分)
第11回	特別研修	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示により、活動が効率よく実施できるようテーマについて調べたり必要物品を揃えるなど準備をする。(事前学習 30分) ・研修を振り返って、レポートを作成し、テーマに沿ってグループでディスカッションする。(事後学習 40分)
第12回	キャリア ガイダンス⑤ これからの就職活動について 他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席・提出物・就職に対する意志等、自己を振り返り、評価して課題点を明確におく。(事後学習 30分) ・就職に向けての準備を具体的に計画し、スケジュールを立てる。(事後学習 30分)
第13回	キャリア ガイダンス⑥ 就職活動の心得(就職フェア、登録、留意点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のキャリアガイダンス時点と比較し、課題点が改善されているか自己評価しておく。(事前学習 30分) ・就職活動における心得、注意事項を再確認し、就職活動に役立てる。
第14回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ)	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門ゼミ指導教員の指示に従い、保育者としての専門性を高めるための学習活動を実施する。
第15回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ)	〃
第16回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ)	〃
第17回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ)	〃
第18回	ゼミ形式の学習活動(専門ゼミ)	〃
第19回	卒業内定者への注意事項、卒業後の住所、内定先研修の予定の記入、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・内定先の住所や代表者、研修日程などを正確に把握しておく(事前学習 30分)

		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに自分のやるべきこと、課題を見出し、スケジュールを立て、実施する。 (事後学習 30分)
第 20 回	卒業生対象 応援メッセージ講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、社会人として、また保育者として自分の生き方や抱負をまとめる (事前学習 30分) ・講演を聞いて感想をまとめる (事後学習 30分)
<p>テキスト</p> <p>谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』一藝社、2018年</p> <p>「横浜女子短期大学 就職ガイド 2021 年度」「横浜女子短期大学 就職ガイド 2022 年度」</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ゼミ指導教員が指示する。</p>		
<p>課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解や進路選択に関する授業での課題や提出物については、授業時の解説やホームグループ担当教員の指導により、フィードバックを行う。 ・専門ゼミについては、それぞれのテーマに応じてフィールドワークや課題等に取り組み、担当教員の指導のもとフィードバックを行う。 		
<p>学生に対する評価</p> <p>授業に取り組む姿勢 60%、ゼミ形式の学習活動の成果 20%、提出物 20%</p>		

授業科目名 哲学 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 富山 豊
	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期： 1学年 前期		
授業の概要 友人同士の意見の対立や将来担当する児童同士の揉め事、家族内のトラブルなどの身近な出来事から、脳死と臓器移植などの医療倫理、社会の中の差別や偏見、それらに関わる様々な法制度の問題まで、具体的な事例を議題として取り上げて議論する。議論のヒントとして歴史上の哲学者たちの学説も紹介するが、それらを覚えることが目的ではなく、賛成・反対それぞれのメリット・デメリットを論理的に検討する練習を重視する。						
授業の到達目標 様々な哲学的・倫理的問題について、「ある意見を支持する理由がどれくらい正当な理由になっているか」、「隠れた前提が潜んでいないか」を粘り強く論理的に考えることができる。具体的な事例についても、自分が賛成・反対のどちらかを感覚的に決めつけてしまうことを避け、異なる意見にもそれなりの言い分がないか、寄り添って耳を傾けることができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPII①						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	イントロダクション 授業の進め方と、大まかな内容について説明する。	事前に授業内容をよく読み、どのようなことが考えられるか考えておく(2時間)、イントロダクションで取り上げた題材について自分の意見・疑問点を整理する(2時間)。				
第2回	ルールを守る意義 杓子定規にルールを守ることが正しくない場合はないだろうか。	事前に第一回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第3回	少数者の権利 みんなの利益のために少数派に我慢を強いるのは正しいだろうか。	事前に第二回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第4回	バレない悪事 被害者も気がつかない完全犯罪は、そもそも悪ではないのだろうか。	事前に第三回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第5回	個人の自由とお節介 明らかに本人のためにならないことでも、周囲が止めるのは自由の侵害か。	事前に第四回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第6回	誠実さの意味 守ることで誰も得をしない状況になってしまったとしても、約束は守るべきか。	事前に第五回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第7回	情と正義 家族や親しい友人への情によって判断が左右されるのは、正義に反することだろうか。	事前に第六回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる(2時間)。				
第8回	[前半の振り返り]第2-7回の授業について振り返りと小テスト	前回までの内容を振り返り、不明な点を明確にしておく(2時間)、小テストの解説を踏まえ、意見が変わるか吟味する(2時間)。				
第9回	差別ってなんだろう 正当な基準で人を「区別」することと不当な「差別」の違いは何か。	事前に第七回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)、授業内で挙げた				

		具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第10回	男女差別を考える（1） 日本社会の慣習・法制度に根強く残る性差別について考えてみる。	事前に第九回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第11回	男女差別を考える（2） 性差別に対抗する様々な制度のメリットとデメリットを考えてみる。	事前に第十回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第12回	差別問題の多様性 少数者や弱者への差別にはどのようなものがあるだろうか。	事前に第十一回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第13回	法と国家 これまで議論して来た問題を、法制度の側面から考えてみる。	事前に第十二回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第14回	命と倫理 これまでに扱えなかった命と医療をめぐる倫理的問題について取り上げる。	事前に第十三回配布資料を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）、授業内で挙げた具体例を考えながら、賛成・反対様々な立場に立ってその理由を考えてみる（2時間）。
第15回	[後半の振り返り]第9－14回の授業についての振り返りと小テスト	前回までの内容を振り返り、不明な点を明確にしておく（2時間）、小テストの解説を踏まえ、意見が変わるか吟味する（2時間）。
テキスト		
指定しない。		
参考書・参考資料等		
授業全体に深く関わり推薦できるものとして、 ジェームズ・レイチェルズ 他 著『新版 現実をみつめる道徳哲学』 晃洋書房 他、各回の進度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
各回の課題等での疑問点や誤りやすい点については次回授業や次回配布資料で解説する。		
学生に対する評価		
授業への参加度および授業内提出物（40%）と授業内小テスト（60%）による総合評価。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 川添 啓明
日本国憲法 (教養科目)	選択 必修	必修	選択 必修	開講期： 1学年 前期		
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・各回のテーマに沿って日本国憲法の条文・制度の内容やその趣旨などを学習します。 ・各回のテーマに沿って社会生活上発生する具体的諸問題を事例（主に裁判例）として取り上げ、問題が発生する背景事情や裁判所の見解などを学習し、現実の社会における憲法の姿を検討します。 ・適宜実務家としての知見に基づき日本国憲法のみならず法学一般に関する時事的な問題を取り入れます。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の理念を理解し、幼児教育者として、また、社会人として、適切な人権感覚を習得すること。 ・日本国憲法が現実の社会においてどのような機能を果たしているかを理解し、説明することができること。 ・社会問題や日常発生する諸問題について、自ら習得した知識と関連付けて検討し、自らの意見や見解を表明し、他者と議論することができること。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPI-1, DPI-2, DPII①						
定期試験						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		
第1回	保育科で憲法を学ぶ意味とは？ ・ガイダンス ・憲法概論			【事前】テキストの「第1章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布資料等による復習（2時間）。		
第2回	憲法が今の形になった理由とは？ ・憲法成立に至る経緯 ・憲法の特徴や基本原理等			【事前】テキストの「第2章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第3回	人権は誰のもの？ ・人権享有主体性 ・私人間適用			【事前】テキストの「第3章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第4回	個人の尊厳、幸福追求権、公共の福祉とは？ ・新しい人権・ ・人権の制約等			【事前】テキストの「第4章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第5回	法の下での平等とは？ ・差別と区別 ・両性の平等			【事前】テキストの「第5章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第6回	精神的自由とは？その① ・思想・良心の自由 ・信教の自由			【事前】テキストの「第6章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第7回	精神的自由とは？その② ・表現の自由 ・学問の自由			【事前】テキストの「第7章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。		
第8回	経済的自由とは？ ・職業選択の自由等 ・財産権			【事前】テキストの「第8章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。		

		【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第9回	人身の自由とは？ ・適正手続 ・刑事手続上の権利等	【事前】別途授業前に配布する資料（テキストに該当箇所なし）を一読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第10回	生存権とその具体化とは？ ・生存権の性質 ・生存権の具体化	【事前】テキストの「第9章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第11回	教育を受ける権利とは？ ・学習権 ・義務教育等	【事前】テキストの「第10章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第12回	働く人の権利とは？ ・労働基本権 ・労働者の権利の具体化	【事前】テキストの「第11章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第13回	統治の仕組みとは？ ・天皇、国会、内閣等 ・参政権	【事前】テキストの「第12章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第14回	司法とは？ ・裁判所 ・違憲立法審査等	【事前】テキストの「第13章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
第15回	平和主義とは？ ・憲法9条の問題 ・全体のまとめ	【事前】テキストの「第14章」を通読し、関係する条文等を確認（2時間）。 【事後】該当する回のレジュメや配布物等による復習（2時間）。
テキスト ・橋本勇人編集『保育と日本国憲法』株式会社みらい		
参考書・参考資料等 ・芦部信喜 高橋和之補訂『憲法』（第7版）岩波書店 ・別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ』、『憲法判例百選Ⅱ』（第7版）有斐閣 ・その他各回の進捗や学生の関心に応じて適宜紹介します。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・講義で取り扱う提出物については、授業時間内で講評等のフィードバックを行います。		
学生に対する評価 ・授業学習に関して積極的に取り組む姿勢や態度（30%）、筆記試験（70%）の総合評価。		
実務経験 ・弁護士		
実務経験を活かした教育内容 ・講義全般にあたり、理論のみならず実務上の留意点や関係する法制度等を紹介します。 ・裁判例等の解説にあたり、実務家としての知見を踏まえて解説します。 ・実務家として裁判実務や時事問題を織り交ぜることにより、単に「学問」としての憲法ではなく、社会において生きる法として憲法および法学全般の素養を習得することを目指します。		

授業科目名 心理学 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 小林 聡子
	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期：1学年 前期		

授業の概要

本講義では人の心、そして自分自身を理解するために役に立つ心理学的知見を紹介していく。前半では、人間の心理を理解するための基礎的知識として、感覚、知識、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」、「パーソナリティ」とは何かについて学ぶ。後半では、人の発達がどのように生物学的、心理的、社会的要素によって影響を受けているか、発達精神病理学的視点から総合的に学ぶ。また、精神科にて心理臨床に従事してきた担当教員により、ストレスとコーピング、人の“不適応”についての理解、また援助の実際について学ぶ。

授業の到達目標

実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を学ぶことにより、幅広い観点から柔軟に人間の心理や行動を捉えることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1, DPI-2, DPII③

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	ガイダンス・心理学入門（心とは何か、人間の心と脳、意識とは、死とは）	事前学習：心理学について自分の知りたいことについてまとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第2回	人間の感覚と知覚のしくみ（知覚の恒常性、錯覚は脳のどこにあるのか、慢性疼痛とは）	事前学習：視覚、聴覚など自分の感覚について疑問に思うことをまとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第3回	記憶（記憶の過程、メカニズム、偽りの記憶、抑圧された記憶とは）	事前学習：「偽りの記憶」について調べ、まとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第4回	学習（学習の基本型、学習理論、メタ認知を学習にいかすには）	事前学習：「パプロフの犬」について調べ、まとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第5回	言語・思考（こころにおける言語の役割、言語と思考の関連）、乳児とメディア	事前学習：子どもにメディアを見せることについて自分の考えをまとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第6回	感情・知能、世界で注目されている“非認知能力”とは	事前学習：「非認知能力」について調べて、まとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第7回	パーソナリティ① 個人差の測定（性格検査①の実施と自己分析）	事前学習：「心理検査」の種類について調べてまとめておく（2時間） 事後学習：行ったパーソナリティ検査の結果について自分の考えをまとめておく
第8回	パーソナリティ② 個人差の測定（性格検査②の実施と自己分析）	事前学習：「心理検査」を行う意義について調べてまとめておく（2時間） 事後学習：行ったパーソナリティ検査の結果について自分の考えをまとめておく

第9回	パーソナリティ③ パーソナリティの概念、子どもの性格を決定するものは何か	事前学習：性格に影響する要因について自分の考えをまとめておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第10回	ストレス、健康、コーピング（ストレスとどう付き合うか）	事前学習：「ストレス」の意味について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第11回	心理障害の理解および援助の実際（大人の不適応）	事前学習：大人の心理障害について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第12回	心理障害の理解および援助の実際（子どもの不適応）	事前学習：子どもの心理障害について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第13回	認知と社会性の多面的発達①（乳幼児期～児童期）	事前学習：ピアジェの発達理論について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第14回	認知と社会性の多面的発達②（青年期～老年期）	事前学習：エリクソンの発達理論について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
第15回	発達の病理（リスクと脆弱性と弾力性）	事前学習：「レジリエンス」について調べておく（2時間） 事後学習：プリントを見返し、わからなかった点を調べ、ポイントを整理する（2時間）
テキスト 長谷川寿一 他著 『はじめて出会う心理学 第3版』有斐閣		
参考書・参考資料等 適宜、授業内で紹介する		
学生に対する評価 授業感想シートの提出および参加態度 30%、レポート課題 70%		
実務経験 精神科クリニックおよび大学相談室、教育相談センター、公立学校にて、心理臨床（カウンセリング、心理検査）に従事。（臨床心理士・公認心理師）		
実務経験を活かした教育内容 実際に精神科医療にて、心理検査およびカウンセリングに従事してきた教員より、自己理解および他者理解のために役立つ心理学を身近な例や臨床例を提示しながら、わかりやすく提供する。		

授業科目名 生物学 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 梅原 正美
	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期：1学年 前期		
授業の概要 自然環境の中で生きる生物の生活を知り、自然環境の大切さを知る。また、季節に合った植物の栽培や採取を通して、生長や構造、さらに食するまでの意識を深める。						
授業の到達目標 季節に合わせた身近な動・植物を教材に取り入れ、採取、飼育、栽培、料理等を行い、自然に対する興味関心を深め、生物の基礎知識を習得する。また、得られた知識を利用して、生きる力を発揮し、生活を豊かなものにできる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容(各々2時間)				
第1回	ガイダンス 生物について幅広く知る	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料を使い、生物の知識を深めておく。 授業で得られた知識を、わかり易くまとめる。 				
第2回	梅や桜の特徴および生態を知り、桜の香水を作るまでを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 梅と桜の違い(構造や種類)を調べておく。 桜の花(10g)・無水エタノール(50ml)・スプレーヤー(100ml)を持参する。 桜の香水や茶などを作ってみる。 				
第3回	ツクシの生態を知り、採取から料理して食するまでを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ツクシの生態や構造を調べておく。 つくし(50g)を持参する。 ツクシの栽培や料理を行ってみる。 				
第4回	ヨモギの生態を知り、採取から料理して食するまでを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ヨモギの生態や構造を調べておく。 ヨモギの葉(50g)を持参する。 ヨモギ団子を作り、食してみる。 				
第5回	植物の生態を知る(単子葉類と双子葉類の違い、道管と師管の役目、葉毛の有無など)	<ul style="list-style-type: none"> 草木の種類わけの方法を調べておく。 身近な植物を採取し、標本を作ってみる。 				
第6回	ナス・ジャガイモの種類や栽培から食すまでを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ナスやジャガイモの特徴と種類を調べて、好きな種類の各々1個を持参する。 3種類以上のジャガイモを料理して、でんぷん質の違いや味の違いを知る。 				
第7回	トマト、ピーマン、キュウリ、スイカの種類や栽培から食すまでを学ぶ。 さらに、断面から種の付き方・配列を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の特徴や種類を調べておく。 トマト、ピーマン、キュウリの各々1個を持参する。 カービングナイフを使って、スイカをデコレーションしてみる。 				
第8回	梅ジュースとヨモギ団子を作り、その料理方法と食した感想を各々発表し、ディベートを行う	<ul style="list-style-type: none"> 梅ジュースとヨモギ団子をつくり、飲食した感想と料理方法をレポートにまとめる。 梅ジュースから梅エキスをつくる。 				
第9回	さつま芋、落花生の生態を知り、栽培から食すまでを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 芋の種類や落花生の生態を調べておく。 里芋の葉や長芋の葉に表面に触れて、構造を知る。 				
第10回	食物連鎖や炭素循環について学び、身近な食物連鎖の図を作成する	<ul style="list-style-type: none"> 食物連鎖と炭素循環について調べておく。 食物連鎖に伴う、エネルギー循環の図を作成してみる。 				
第11回	3歳未満児が興味を持つ、アリ、ダンゴムシ、ミミズなどの生態や飼育方法について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> アリやダンゴムシを飼育してみる。 庭や園庭にいる昆虫を5種類発見する。 				

第12回	3歳以上児が興味を持つ、カブトムシ、クワガタムシ、セミの生態や採取・飼育方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・クワガタやカブトムシ採取、飼育する。 ・飼育した昆虫を観察し、特徴を知る。
第13回	危険な動・植物について	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる危険な動植物を調べる。 ・身近にいる危険な動植物を採取、観察する。
第14回	川や海の生物について	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物の特徴を調べておく。 ・身近な海洋生物を採取、観察する。
第15回	保育における「生物」に触れる重要性についてのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生物に触れる意味を考えておく。 ・身近な生物に触れてみる。
<p>テキスト</p> <p>授業内で、必要な資料配布。</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『生物図録（視覚でとらえるフォトサイエンス）』 鈴木 孝仁 監修 数研出版</p> <p>『昆虫（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版</p> <p>『保育内容のアイデア』 西海聡子 編著 萌文書林</p> <p>『親子で楽しむ しぜんあそび図鑑』 チャイルド本社</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(40%)と レポート試験(60%)の総合評価</p>		
<p>実務経験</p> <p>保育園の園長 日本保育学会の会員</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>実務経験の中で、体験した事例を提示・活用し、保育に携わろうとする者へのスキルを具体的に向上させる。</p>		

授業科目名 情報機器の操作 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 小野目 如快
	選択 必修	必修	選択 必修	開講期： 1 学年 前期 又は 後期		
授業の概要 昨今のパソコンの低価格化とインターネットの発達により、様々な場所でパソコンの操作を求められることが多くなっている。しかし、パソコンの理解は実際に機器に触れての操作が必須である。本講座では、演習をとおして、Windows の基本操作や、ワープロ、表計算の利用方法等を学習する。						
授業の到達目標 コンピュータの基本操作を十分理解し、保育現場での様々な作業に応用できるようになる。特に、Office ソフトを用いた以下の操作ができるようになることを目標とする。 ・ Word を用いて各種文書やグラフィクスが活用できる ・ Excel を用いて図表の作成等ができる ・ PowerPoint を用いた発表資料の作成ができる						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	Windows の基本操作 ガイダンス、電源の ON, OFF、各種アプリの起動方法	【事前学習】自宅に PC があれば、そのスペックについて、調べておくこと (30 分程度) 【事後学習】課題をまとめながら、タイピングの練習をしておくこと。(30~60 分)				
第2回	ファイル操作 エクスプローラによるファイル操作方法	【事前学習】ファイル操作について、あらかじめテキストに目を通しておくこと (30 分程度) 【事後学習】課題をまとめながら、ファイル操作法について復習すること。(30~60 分)				
第3回	ワープロ① Word の基本編集	【事前学習】できるだけ、タッチタイピング (キーボードを見ないでタイプすること) できるように練習しておくこと。(60 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				
第4回	ワープロ② Word の書式設定	【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。(30 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				
第5回	ワープロ③ Word の文書作成	【事前学習】Word の「挿入」リボンの各ボタンを確認しておくこと (30 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				
第6回	ワープロ④ Word の表作成	【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。(30 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				
第7回	ワープロ⑤ Word で地図作成	【事前学習】あらかじめテキストに目を通しておくこと。(30 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				
第8回	ワープロ⑥ Word でのオブジェクト処理	【事前学習】Web で希望のイラストがすぐに検索できるようにしておくこと (30 分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30~60 分)				

第9回	ワープロ⑦ Wordでの文書デザイン検定	【事前学習】日本情報処理検定協会の文書デザイン検定について調べてみること。(30分程度) 【事後学習】文書デザイン検定の過去問にチャレンジしてみること。(30～60分)
第10回	プレゼンテーション PowerPointを利用した紙芝居作成	【事前学習】プレゼンテーションの効果的な方法について、あらかじめ調べておくこと。(30分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30～60分)
第11回	表計算① Excelの基本入力と編集	【事前学習】文字データと数値データの違いについて調べておくこと。(30分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30～60分)
第12回	表計算② Excelによるグラフ作成	【事前学習】Excelの「挿入」リボンのグラフグループにどのような種類のグラフが用意されているか調べておくこと。(30分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30～60分)
第13回	表計算③ Excelによるデータベース処理	【事前学習】データベースとは?Webを利用して調べておくこと。(30分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30～60分)
第14回	表計算④ Excelでの日時処理、シリアル値、条件付き書式	【事前学習】日付/時刻関数における「シリアル値」について、あらかじめ調べておくこと。(30分程度) 【事後学習】課題を含め、テキストの章末問題を出来るだけやってみること。(30～60分)
第15回	表計算⑤ Excelでの表計算検定	【事前学習】日本情報処理検定協会の表計算検定について調べてみること。(30分程度) 【事後学習】表計算検定の過去問にチャレンジしてみること。(30～60分)
テキスト 小野目如快 著『Office2016で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版		
参考書・参考資料等 必要により、別途説明用資料を授業内で配布。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 授業内で課題として提出したレポートは、採点して、次回の授業で返却する。		
学生に対する評価 毎回課題を課す(100%)		

§ 2. 外 国 語

授業科目名 英語 I (外国語)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 2 単位 開講期： 1 学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 北本洋子
授業の概要 保育園の生活を題材にしたストーリーを読み、読解のポイントを確認しながら内容を理解する。 保育現場に密着した語彙を学ぶ。語句の並べ替えや穴埋めで口語文を作り、対話練習をする。 英語を聞いて課題を解くリスニング練習や基本的な文法の復習をおこなう。						
授業の到達目標 保育の現場で、英語による子どもへの言葉かけや保護者への情報伝達ができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPI④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	ガイダンス 授業の進め方、自己紹介			(事前)教科書の「はしがき」を読む(30分) (事後)音声ダウンロード機能を使って英語 音声を聴く準備をする(30分)		
第2回	L1 新学期	初対面のあいさつ、園の人々と設備		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第3回	L2 登園	登園時の会話、家族、人物描写		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第4回	L3 室内遊び	室内遊びと玩具、欠席の電話連絡		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第5回	L4 砂遊び・園庭	外遊びの指導、園庭の遊具と 身近な植物		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第6回	L5 けんか	ゲームの指導、様々な行為とけんか		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第7回	L6 昼食	昼食時の指導と会話、食材や食器		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第8回	文法のおさらい1(1) 一般動詞			(事前)解説を読み、例題を解く(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第9回	文法のおさらい1(2) be 動詞			(事前)解説を読み、例題を解く(30分) (事後)宿題の問題を解く。(30分)		
第10回	L7 着替え	衣類や持ち物についての連絡		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第11回	L8 昼寝	トイレの指導、衣類と持ち物		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第12回	L9 病気	病気への対処、身体各部の名称		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		
第13回	L10 緊急連絡	保護者への緊急連絡、気持ちと 様子		(事前)ストーリーを下読みし、読解のポイン トを書く。語句の意味を調べる(30分) (事後)宿題の問題を解く(30分)		

第 14 回	文法のおさらい 2 (1) be 動詞の疑問文・否定文	(事前) 解説を読み、例題を解く (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 15 回	文法のおさらい 2 (2) 一般動詞の疑問文・否定文	(事前) 解説を読み、例題を解く (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 16 回	L11 行事の案内 行事の案内状、電話連絡	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 17 回	L12 運動会 さまざまな運動	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 18 回	L13 散歩 1 (1) 付近の建物や施設	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 19 回	L13 散歩 1 (2) 場所の表現	(事前) 位置関係の表現を覚える (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 20 回	L14 散歩 2 道案内	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 21 回	L15 お絵かき 色々な形、作業の指示	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 22 回	L16 工作 文房具、作業の指示	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 23 回	文法のおさらい 3 (1) 場所の前置詞	(事前) 解説を読み、例題を解く (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 24 回	文法のおさらい 3 (2) 時の前置詞	(事前) 解説を読み、例題を解く (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 25 回	L17 降園 降園時の会話、クラスからのお知らせ	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 26 回	L18 連絡帳 連絡帳の記入、乳児室の物品	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 27 回	L19 家庭調査書 家庭調査書の書式、園行事	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 28 回	L20 園だより 年間行事と園だよりの書き方	(事前) ストーリーを下読みし、読解のポイントを書く。語句の意味を調べる (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 29 回	文法のおさらい 4 疑問詞を使った疑問文	(事前) 解説を読み、例題を解く (30 分) (事後) 宿題の問題を解く (30 分)
第 30 回	復習とまとめ	(事前) これまでの学習を振り返る (30 分) (事後) これまでの学習を振り返る (30 分)
テキスト		
森田和子 著『新・保育の英語』三修社		
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に配付する。		
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 数課ごとに「振り返りテスト」を行い、返却時に注意点等を解説する。		
学生に対する評価 「振り返りテスト」の成績 80%、受講態度 (授業や予習・復習への取り組み) 20%		

授業科目名 英語Ⅱ (外国語)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 北本洋子
	選択			開講期： 2学年 通年		

授業の概要

海外旅行に必要な語彙を学ぶ。
海外旅行でしばしば出会う表現を学び、発音練習、会話練習をおこなう。
旅行中によく見かけるパンフレットや書類などから必要な情報を読み取る練習をする。
ビデオ教材も併用し、旅の雰囲気を感じながら、聞き取りや会話の練習をする。

授業の到達目標

海外旅行の色々な場面で、英語を使って質問や依頼をし、必要な情報や協力を得ることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1, DPI-2, DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	ガイダンス、旅の準備をしよう	(事前) 教科書の「はしがき」を読む (30分) (事後) 音声ダウンロード機能を使って英語音声を聴く準備をする (30分)
第2回	機内にて	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第3回	(ビデオ) 飛行機に搭乗する	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第4回	(ビデオ) 機内サービスを受ける	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第5回	到着と入国審査	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第6回	(ビデオ) 入国手続きをする	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第7回	(ビデオ) 税関を通る	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第8回	両替をしよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第9回	ホテルにチェックインしよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第10回	ホテル内の施設を利用しよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第11回	食事をしよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第12回	(ビデオ) ホテルで朝食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第13回	(ビデオ) ファーストフードの店で昼食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第14回	(ビデオ) レストランで夕食をとる	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第15回	まとめ	(事前) これまでの学習を振り返る (30分) (事後) これまでの学習を振り返る (30分)
第16回	観光に行こう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)

第17回	会話を楽しもう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第18回	ショッピングをしよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第19回	(ビデオ) デパートで服を買う	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第20回	(ビデオ) お土産を買う	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第21回	体調を崩してしまったら	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第22回	街を歩いてみよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第23回	(ビデオ) 観光案内所を訪れる	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第24回	(ビデオ) バスに乗る	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第25回	(ビデオ) タクシーに乗る	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第26回	(ビデオ) 道を尋ねる	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第27回	ホテルをチェックアウトしよう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第28回	帰途にて	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第29回	旅について話そう	(事前) 単語の意味を調べる (30分) (事後) 学習した表現を覚える (30分)
第30回	まとめ	(事前) これまでの学習を振り返る (30分) (事後) これまでの学習を振り返る (30分)
<p>テキスト Diane H. Nagatomo、村瀬文子 著 『<i>Simply Traveling—Communication Anytime, Anywhere!</i> (場面別フレーズで学ぶ はじめての海外英会話)』 金星堂</p>		
<p>参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に配付する。</p>		
<p>課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 毎回「おさらいミニクイズ」を口頭または筆記でおこない、授業内で答え合わせや解説をする。</p>		
<p>学生に対する評価 授業内の活動 (70%) 「おさらいミニクイズ」の成績 (30%) この授業では、積極的に声を出し練習することが求められる。</p>		

§ 3. 保 健 体 育

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実技 単位数：1単位	學術	担当教員名
体育実技 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期：1学年 通年	実務	堀内弓子 佐久間博子
授業の概要 本授業では、生涯を通してスポーツやダンスに親しむ資質や能力を培うとともに、健康な体づくりを実践する。ペアあるいはチームで協力して運動を行い、一体感・達成感を味わうことで仲間と共に体を動かす楽しさを知る。そして、子どもの運動遊びとして取り上げられている活動について、実技を通してそのねらい、展開方法、そして安全上の留意点などについて理解していく。子どもが身体を動かす楽しさを十分に感じながら動くことができる活動づくりのために、まずは自らが楽しんで活動に取り組むことから始め、指導できる技術の獲得を目指す。						
授業の到達目標 1. 自分の体力を評価し、実践可能な運動プログラムを計画し習慣化することができる。 2. 様々な運動のルールを理解し、楽しみながら運動を実践できる。 3. 様々な運動遊びや活動のねらいを知り、留意点について理解し、実践することができる。 4. 子どもが主体的に運動や遊びに取り組むための環境づくりや援助をすることができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPI-1, DPI-2, DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	前期授業のオリエンテーション 自分の体力の現状を知り、改善が必要な点を明確にする。（体力測定実施）	事前準備：高校生活に比して、生活習慣や運動量、体力、体格の変化などを自己評価しておく。 事後学習：体力測定の結果を踏まえて体力における改善点を明確にし、日常生活でできる運動を習慣的に実施できるよう計画する。				
第2回	体操・リズム運動① 正しい姿勢、動きの基本動作を学ぶ。その他子どもの好きな遊び紹介	事前学習：教科書 p. 6～53 の子どもの基本的な運動のイラストを見て、イメージをつけておく。 事後学習：教科書を振り返り、授業で実践した動きの正式名称や動き方を復習する。				
第3回	体操・リズム運動② リズムに合わせてからだを動かす楽しさを味わう。	事前準備：並足や駆け足に適した曲、子どもが「楽しい」と感じる曲を考えておく。 事後学習：「動き」に対する「音楽」の効果について授業を振り返る。				
第4回	体操・リズム運動③ 体幹を大きく使って、大きくのびのびと動く。	事前準備：体をしなやかに動かせるよう、ストレッチをしておくこと。 事後学習：体を大きく動かすポイントをまとめておく				
第5回	体操・リズム運動④ 他者の動きを観察し、自らの動きを正す。	事前学習：教科書の組運動について調べておく。 事後学習：自分の動きを振り返り、自宅のできる運動を継続しておく。				
第6回	体操・リズム運動⑤ 音楽のリズムを感じながら楽しくからだを動かす。	事前準備：体を十分動かせるようストレッチや膝関節の屈伸運動をおこなっておく。				
第7回	子どもの発育発達に合わせたあそび① ～2, 3歳児が楽しめる運動あそびの実践～	事前学習：教科書 p. 98～101 を読み、2, 3歳児の運動機能の発達について調べておく。				
第8回	子どもの発育発達に合わせたあそび② ～4, 5歳児が楽しめる運動あそびの実践～	事前学習：教科書 p. 98～101 を読み、4, 5歳児の運動機能の発達について調べておく。				

第9回	伝承あそびを楽しむ① 受け継がれる運動あそびの楽しさを知り、体験する。	事前学習：「伝承遊び」について調べておく。
第10回	伝承あそびを楽しむ② 子どもと楽しめる伝承あそびをグループごとに考え、発表する。	事前準備：発表に向けて、グループ内で話し合っておく。
第11回	遊具を使って楽しむ運動あそび。	事前学習：教科書で取り上げている「遊具」について調べておく。
第12回	基本体操① ラジオ体操第一。身体各部位と運動方法を理解する。	事前学習：教科書 p. 89～93 を読み、実践してみる。 事後学習：体操の順番や動きのつながりを正確に動けるよう練習する。
第13回	基本体操② グループ練習を行うことで、正しい動きを習得する	事前学習：動きのポイントを押さえておく。 事後学習：体操の順番や動きのつながりを正確に動けるよう練習する。
第14回	基本体操③ 基本体操で学んできたことの総まとめと評価。	事前準備：ラジオ体操第一を正確に動けるよう練習しておく。 事後：正確に動けなかった個所を練習する。
第15回	3 か月前後の体力の変化を観察し、自己評価を行う。(体力測定実施)	事前準備：3 か月間の体育実技の授業を通して自分の生活習慣や、体力の変化について振り返っておく。 事後学習：3 か月前後の体力測定の結果を比較、自己分析し、今後の課題を明確にする。
第16回	後期授業のオリエンテーション / 歌って体操「歩く」運動(テキスト、以下(ア)とする)p6～7 / 運動大型遊具の設定と遊び	事前準備：運動ができるように体調を管理し、準備をしておくこと。 事後学習：授業体験をテキストと資料を読んで実践し、自分のからだを知り、楽しむための工夫をする。
第17回	歌って体操「歩く」運動(テキスト、以下(ア)とする)p7～8 素材遊具(新聞紙)遊び	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：授業体験を自ら実践することで、動き方の工夫やコツを見出し、心躍る気持ちを味わい、子どもと遊ぶ場面に生かす方法を考える。
第18回	「跳ぶ、回る、走る」運動(ア)p15. P19-22 / 子どもの表現遊び サッカー① 基本技能を習得する / 「蹴る」運動(ア)p41～46	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：授業体験を実践し、苦手な運動がある場合、スローステップの意識で少しずつ積み重ねると達成感が得られる体験を子どもと遊ぶ場面に生かす
第19回	「走る、とぶ、回る、投げる、捕る」運動(ア)p22～24, 28, 30 子どもの表現遊び サッカー② ゲームの進行・運営の方法を学ぶ / ルールのある遊び(ア)p47～48	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：授業体験を実践し、運動に挑戦する意欲を育むための環境づくりの大切さを知る。また、体験した動作の他に動き方の種類がないか調べて行う。
第20回	サッカー③ ゲームの分析～作戦を立てる(ア)p47～48	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：ゲームを分析して作戦を立てて実践できたか、進行・運営を自主的に行えたかを振り返り、ボール1つで沢山の友達と一緒にできる遊び方を調べる。
第21回	サッカー④ ゲームの分析～作戦を立てる	事前準備：調べた遊びを仲間と一緒に実践できるように準備する 事後学習：ゲームを分析して実践することで得られる達成感が次への取り組みへの意欲につながったか確認する。
第22回	「投げる」運動(ア)p32～38 「走る、跳ぶ、回る、投げる・捕る・蹴る」運動(ア)p32; 素材遊具(ビニール袋)遊び	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：ドッジボールにつながる遊びを調べる。

	「投げる、捕る」運動：ドッジボール①	
第23回	「投げる、捕る」運動：ドッジボール② 「打つ、つく」運動(7)p39, 40: ソフトバレーボール① 子どもの身体表現	事前準備：調べた遊びを仲間に伝えて実践できるよう準備する 事後学習：子どもと楽しむため、どのような環境づくりや言葉かけの工夫が必要か考える。
第24回	ソフトバレーボール② 子どもの身体表現	事前準備：考えた環境を準備して遊びを盛り上げる言葉かけを入れて実践してみる。 事後学習：子どもと楽しめる身体表現遊びを調べる。
第25回	「押す、引く」運動(7)p49, 50, 53, 54 / 上肢・上体の遊び / 子どもの身体表現 「ぶらさがる、振る、回る」運動(7)p72~74 ; 固定遊具の遊び(鉄棒・肋木)	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：鉄棒と他の遊具を組み合わせて遊ぶ方法を考える
第26回	「押す、引く」運動(7)p51, 52, 55~58 / 上肢・上体の遊び / 身体表現(2) 「ぶらさがる、振る、回る」運動(7)p75~77; 固定遊具の遊び(鉄棒・肋木) グループ発表	事前準備：テキストの該当箇所を読み、考えた遊びを発表する準備をする。 事後学習：発表された遊びから学んだことを保育で活かす方法を考える。
第27回	子どもの身体表現発表 マットの設定と実践:(7)p. 60-66 /	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：実践した経験からわかったことや子どもと行う際のアレンジを考える。
第28回	跳び箱、平均台の設定と実践 跳箱(7)p67-71, 平均台(7)p8, 13	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：実践した経験からわかったことや子どもと行う際のアレンジを考える。
第29回	巧技台の設定と実践(7)p80 / 「跳ぶ」運動 縄を使って(7)p24-27	事前準備：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：実践した経験からわかったことや子どもと行う際のアレンジを考える。
第30回	縄跳び発表 道具を使って「打つ」運動; バドミントン 後期のまとめ	事前準備：発表に向けて得意な跳び方を見つけて練習しておく 事後学習：授業の到達目標に向かって学び、自己評価し、どんな力がついたか確認する。
テキスト 橋本妙子・堀内弓子著『こどもの運動あそび』啓明出版		
参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 実技授業の中で行ったことを自分で実施し、健康体力づくりに役立てる。 実技で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。 授業内実技テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(50%)と運動技術課題やレポート課題等の提出物(50%)の総合評価		
実務経験 堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)		
実務経験を活かした教育内容 授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	学術	担当教員名
体育講義 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	実務	堀内弓子 佐久間博子

授業の概要

健康の維持増進に必要な知識の習得と日常生活における実践力を養う。さらに、身体の仕組みとその働きおよびトレーニング方法について生理学的な側面から学修する。

授業の到達目標

- ・自らの健康度を高めていくため、生活習慣（運動、食事、休養）を見直し、自主的に改善していくことができる。
- ・運動の必要性や効果的な運動方法を知り、実践できる。
- ・身体の仕組みや機能を知り、健康維持増進のための運動やスポーツを実践できる知識を習得する。
- ・けがの予防や応急処置の必要性を理解し、実践できる。

ディプロマポリシーとの関連

DPI-1, DPI-2, DPI④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	ガイダンス 健康になるためのライフスタイル 自らの健康をコントロールし、改善していく方法を学ぶ	事前学習：現在の生活習慣を振り返り、どのような生活が望ましいかを考える。(30分) 事後学習：配布資料を基に、自らの生活習慣の改善点を考える。(30分)
第2回	運動と食事 適切な食生活の習慣とは	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：現代日本人の栄養の状態やバランスに比較して自らの食生活を見直す。(30分)
第3回	飲酒と喫煙のからだへの影響 飲酒・喫煙の急性と慢性の影響	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：飲酒や喫煙の体への影響について知らなかったことを振り返り、今後の自分の生活を考える。(30分)
第4回	運動と休養 積極的休養となる運動を知る	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：適切な休養のとり方を知り、自分の生活に生かす方法を考える。(30分)
第5回	生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響(1) 高血圧に対する運動の予防効果	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：高血圧に対する運動の予防効果を知り、自らの生活へどのような運動を取り入れていくことが大切なのかを考える。(30分)
第6回	生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響(2) 2型糖尿病・メタボリックシンドロームと運動習慣の関係 健康に生きるために必要な運動の習慣について学ぶ	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：2型糖尿病・メタボリックシンドロームに対する運動の予防効果を理解し、生涯にわたって健康的な生活をしていくための運動習慣について考える。(30分)
第7回	生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響(3) 三大死因(心疾患・脳血管障害・悪性新生物)と運動習慣の関係	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：日本人の三大死因と運動習慣との関係を理解し、適切なライフスタイルを考える。(30分)
第8回	健康づくりのための身体活動基準および運動指針 基準・指針・メッツ表を参考に自分の運動プログ	事前学習：配布資料を読む。(30分)

	ラム作成	事後学習：自分の健康を維持・向上させるための運動プログラムを考える。(30分)
第9回	骨の仕組みとその働き ・からだの主な骨の仕組みを理解し、その働きについて学習する。 ・体力測定結果を振り返り、自己の体力を分析する。	事前学習：高校の時に学習した「体の構造」を復習しておく。(30分) 事後学習：配布資料を見直し、復習する。(30分)
第10回	骨格筋の仕組みとその働き ・からだの主な骨格筋の役割とメカニズムを理解する。	事前学習：「骨格筋」について調べておく。(30分) 事後学習：骨と骨格筋の機能について復習する。(30分)
第11回	「体力」を考える ・生命を維持していくためのからだの防衛能力と、積極的に仕事をしていくからの行動力を学ぶ。 ・附属幼稚園の体育指導を事例に挙げ、「多様な運動」についての必要性を学ぶ。	事前学習：自分の子どもの頃の「外遊び」について振り返り、まとめておく。(30分) 事後学習：子どもにとっての身体活動の必要性について理解したことをまとめる。(30分)
第12回	運動が体と心に及ぼす影響 ・からだの適応力と免疫力	事前学習：配布資料を事前に読んでおく。(30分) 事後学習：授業で学んだことをまとめる。(30分)
第13回	トレーニング(運動)の進め方 ・運動を安全に、かつ効果的に継続していくための知識を習得する。	事前学習：配布資料を事前に読んでおく。(30分) 事後学習：日常生活における運動の質と量について自己分析、評価する。(30分)
第14回	けがの予防と応急処置 ・適切な応急処置(RICE処置、三角巾の使用法)の理解と実践	事前学習：配布資料を事前に読んでおく。(30分) 事後学習：三角巾の使い方を復習する。(30分)
第15回	これまでの学びの振り返り・確認 ・2回の体力測定の結果を比較し、変化を考察する ・まとめのテスト	事前学習：すべての配布資料を読み、疑問点があれば質問できるよう準備する。(60分) 事後学習：この授業で学んだ生活習慣や健康、運動等について、今後の課題を明確にし、改善に努める。(30分)
テキスト なし。説明用参考資料を授業内で配布。		
参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行った上で返却する。 ・講義で取り扱う提出物については、評価をしたのちにフィードバックをし、再確認する。		
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(30%)とレポート試験(70%)の総合評価		
実務経験 堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)		
実務経験を活かした教育内容 講義の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。		

§ 4. 專門教育科目

授業科目名 保育原理 (専門教育科目)	卒業	幼児	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		

授業の概要

保育の営みは、子どもを大切に考えることから始まる。この授業では、保育の意義目的、なぜ、保育が必要なのかということを考える。また、保育・幼児教育が日本の国の中でどのように位置づけられ、どのような法制度の中で行われているのかについて講義する。さらに、保育・幼児教育の基本事項である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の概要と構造について学習する。あわせて諸外国や日本の保育の歴史や思想から保育観や子ども観について知識を広げていく。まとめとして現在の日本の保育や子どもをめぐる諸課題について講義する。

授業の到達目標

- ・保育の理念や概念について学び、保育の意義と目的について理解している。
- ・日本の保育に関する法制度について学び、多様な保育と子育て支援とのつながりについて理解している。
- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における保育の基本と構造を理解し、具体的な保育実践と関連づけることができる。
- ・諸外国や日本の保育の歴史や思想を学び、保育の理解や自らの保育観、子ども観につなげることができる。
- ・現在の日本の保育や子どもをめぐる諸課題について関心をもち、よりよい保育実践へとつなげることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	保育の概念—保育とはどのようなものだろう—	【事前学習】保育という言葉からイメージすること①子どもの立場②保育者の立場、二つの立場から考えてみる(事前学習2時間)。 【事後学習】「保育」という言葉の意味や概念を自分で辞書などを用いて調べてみる。また、保育によく使われる用語についても復習すること(事後学習2時間)。
第2回	保育の理念—子どもの権利と保育—	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』p20~34までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解する。特に、「児童の権利に関する条約」については、授業プリントの復習に加え、自分でも文献やインターネット等で調べてみる(事後学習2時間)。
第3回	創設者 平野恒の保育観、子ども観に学ぶ	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』p8~19までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業内容を復習するとともに、『シリーズ生きる68 平野恒』亀谷美代子著大空社を読み、創設者平野恒の保育観、子ども観について理解を深めること(事後学習3)

		時間)。
第4回	保育に関する法令及び制度(1)保育にかかわる関係法令	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ-』p70~78 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること(事後学習2時間)。
第5回	保育に関する法令及び制度(3)保育の実施体系	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ-』のp21の図表について、復習をし、理解しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること(事後学習3時間)。
第6回	保育における養護と教育	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ-』p91~92 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること(事後学習2時間)。
第7回	幼稚園教育要領における保育の基本	【事前学習】『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 p.10~21「幼児期の特性と幼稚園の役割」についてあらかじめ目を通しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館の p.26~40「幼稚園教育の基本」を授業内容と合わせて復習すること(事後学習2時間)。
第8回	保育所保育指針における保育の基本原則	【事前学習】『保育所保育指針解説』p.17~18 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解する。特に「保育所保育指針」の第1章総則に書かれている重要語句については、しっかりと復習すること(事後学習2時間)。
第9回	保育所保育指針における保育の構造	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ-』p87~92 までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること(事後学習2時間)。
第10回	乳児の保育、1歳以上3歳未満の保育	【事前学習】『保育所保育指針解説』p370~380 を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、「保育内容」のねらい及び内容を理解すること(事後学習2時間)。
第11回	3歳以上児の保育	【事前学習】『保育所保育指針解説』p.380~387 を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと(事前学習2時間)。

		【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること（事後学習2時間）。
第12回	幼児期において育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	【事前学習】『幼稚園教育要領解説』p.50～53を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること（事後学習2時間）。
第13回	諸外国の保育の思想と歴史	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ -』p.53～57までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること（事後学習2時間）。
第14回	日本の保育の思想と歴史	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ -』p.36～50を読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること（事後学習2時間）。
第15回	日本の保育の現状と課題	【事前学習】テキスト『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ -』p.58～67までを読み、深く学びたいこと、疑問点等を整理しておくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】授業時に配布したプリント等を復習し、授業内容をしっかりと理解すること（事後学習2時間）。
<p>テキスト 『保育学のはじめの一步 - おさなごにまなぶ -』佐藤寛之、二階堂邦子、石山直樹、鶴野澤武美、平松美保子、本田幸 著 学校法人白峰学園横浜女子短期大学</p>		
<p>参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』 『シリーズ福祉に生きる 68 平野 恒』 亀谷美代子著 大空社 * その他、適宜授業内で資料を配布する。</p>		
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。</p>		
<p>学生に対する評価 定期試験(50%)、レポート課題(30%)、授業に対して取り組む姿勢(20%)、の総合評価</p>		
<p>実務経験 幼稚園教諭</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容 授業内で理論と保育実践が結びつくように、テキスト内の事例や具体的エピソードを活用した授業を行う。</p>		

授業科目名 教育原理 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	[学術] ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 前期		
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の必要性, 目的, 教育と福祉, 生涯学習社会, インクルーシブ教育などの教育の基礎的事項, ・日本国憲法, 教育基本法, 学校教育法などの教育の法制度, ・今日の幼児教育に影響を与えている, 開発主義を中心とした教育の思想, ・OECDによる国際比較教育統計や新しい学力観の影響, 新しい学習指導要領や幼稚園教育要領等の内容とその方向性など今日の教育動向, について学習する。 						
授業の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義・必要性, 目的, 子ども家庭福祉との関わり等について理解することができる。 2. 教育の法制度について理解することができる。 3. 教育の思想の概要について理解することができる。 4. 教育の動向について理解することができる。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII①						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前学習・事後学習の内容		
第1回	I. 教育の基礎論① (「教育」の意味とその必要性) 授業ガイダンス			事前学習: 「もし教育が何も受けられなかったなら、 どうなるか」を自分なりに考察してみる(2時間) 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、 ポイントを確認・整理する(2時間)		
第2回	教育の基礎論② (教育の目的, 子ども家庭福祉との関係, 幼児教育の特質)			事前学習: 幼児期の教育と学齢期の教育の基本的 な違いについて、自分なりに考えてみる(2時間), 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、 ポイントを確認・整理する(2時間)		
第3回	教育の基礎論③ (教育の新潮流: 生涯学習社会, インクルーシブ教育)			事前学習: 「インクルーシブ教育」について、簡単 でよいので自分なりに調べてみる(2時間), 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、ポ イントを確認・整理する(2時間)		
第4回	II. 教育の法制度① (教育・福祉の法制度の体系, 日本国憲法の概要)			事前学習: 日本国憲法について中高で学んだ内容 を復習してみる(2時間), 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、 ポイントを確認・整理する(2時間)		
第5回	教育の法制度② (教育基本法の概要とその重要条文)			事前学習: 教育基本法について、簡単でよいので自 分なりに調べてみる(2時間), 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、 ポイントを確認・整理する(2時間)		
第6回	教育の法制度③ (学校教育法の概要と 特に幼稚園に関する条文の理解)			事前学習: 幼児教育の「五領域」とは何か、簡単で よいので自分なりに調べてみる(2時間), 事後学習: 授業のプリント、ノート等を見返し、 ポイントを確認・整理する(2時間)		
第7回	ここまでの授業内容のまとめと補足事項 (「まとめプリント1」配布)			事前学習: これまでの学習内容のポイントに目を 通してみる(2時間), 事後学習: 「まとめプリント1」の内容をしっかりと 学習する(2時間)		

第8回	学習理解度の確認（確認テスト1）／ 教育の思想① （注入主義と開発主義，ルソー）	事前学習：「まとめプリント1」の内容を再度学習する（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
第9回	Ⅲ. 教育の思想② （ルソー以前の教育思想， 開発主義のルソー，ペスタロッチ， フレーベル）	事前学習：「フレーベル」について、簡単でよいので自分なりに調べてみる（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
第10回	教育の思想③ （新教育運動，大正自由教育運動， デューイ，モンテッソーリ，倉橋惣三）	事前学習：「モンテッソーリ」について、簡単でよいので自分なりに調べてみる（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
第11回	Ⅳ. 教育の動向① （OECDの国際比較教育統計， PISAの新学力観，非認知能力への注目）	事前学習：「OECDとはどんな国際機関か」を、簡単でよいので自分なりに調べてみる（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
第12回	教育の動向② （中教審答申と改訂された学習指導要領， 幼稚園教育要領）	事前学習：「主体的・対話的で深い学び」とは何かを、自分なりに調べてみる（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
第13回	ここまでの授業内容のまとめと補足事項 （「まとめプリント2」配布）	事前学習：これまでの学習内容のポイントに目を通してみる（2時間）， 事後学習：「まとめプリント2」の内容をしっかりと学習する（2時間）
第14回	学習理解度の確認 （確認テスト2，課題小作文 DVDを視聴）	事前学習：「まとめプリント2」の内容を再度学習する（2時間）， 事後学習：「まとめプリント1」に再度目を通す（2時間）
第15回	全授業内容に関するまとめと補足説明	事前学習：「まとめプリント1」と「まとめプリント2」の内容に一通り目を通す（2時間）， 事後学習：授業のプリント、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する（2時間）
テキスト 特定の文献をテキスト指定しない。 講義に必要な資料は、プリントやスライドを用いて、随時、配布または公開する。		
参考書・参考資料等 現代の幼児教育、保育、子育て等に関する諸問題への関心を高めるために、新聞・雑誌・インターネット上の記事などを随時活用する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テスト等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。		
学生に対する評価 授業への参加度（30%），授業内確認テスト（40%），課題小作文（30%）により総合評価する。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	學術	担当教員名
保育者論 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 2学年 前期	実務	野津 直樹

授業の概要

本授業では、“保育者とは何か”を命題として、学生一人一人が目指していきべき保育者像を追究していきます。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを交えながら講義を進めていきます。内容としては、保育者の役割、保育者の制度的な位置付け、保育者の専門性について学び、保育者として求められる専門的な知識や技術について理解を深めます。また、園・施設の教職員、保護者と協力しながら、さらには地域社会との協働・連携を得ながら子どもたちと関わっていくことの重要性についても学んでいきます。また、保育者の専門性の向上及びキャリア形成の意義についても学習します。以上の学びから、2年次の現在、あらためて“自分がなぜ、保育者になりたいのか、どのような保育者を目指していくのか”について深く考えていきます。

授業の到達目標

次の3つを学習成果とすべく、授業構成を行っています。

- ①保育者（幼稚園教諭・保育士等）の役割を言える
- ②主体性（自ら考え、自ら動く）のある保育者として備えるべき考え方を身に付ける
- ③保育者の葛藤がどう保育者としての成長を支えているのか、説明できる

以上の学びから、“保育者とは何か”という命題の元、“自分がなぜ、保育者になりたいのか、どのような保育者を目指していくのか”を深く、深く考えていきましょう。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画表

※（）内は事前学習を行う章です。

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション…授業の目的・概要の説明等、保育者とは何か、保育者像を探る（第1章）	事前学習：テキスト内“はじめに”＋第1章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第2回	保育士と幼稚園教諭、保育教諭について（第1章）	事前学習：第1章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第3回	保育士と幼稚園教諭、保育教諭の制度的位置付け、（第6章）	事前学習：第6章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第4回	保育者の倫理、保育者の資質・能力、保育者の専門性、人権・社会問題への配慮（第7章）	事前学習：第7章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第5回	保育者の専門性 ①幼稚園教諭の仕事と役割（第2章）	事前学習：第2章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第6回	保育者の専門性 ②保育士の仕事と役割、保育教諭の仕事と役割（第3章、第4章）	事前学習：第3章・第4章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する（2時間）
第7回	保育者の専門性 ③保育者の一日（第2章、第3章、第4章）	事前学習：第2章を熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間）。事後学習：授業内

		容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第8回	保育の現代的な問題、子どもの最善の利益、守秘義務(第5章、第8章)	事前学習:第5章・第8章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第9回	保育者の協働、関係機関との協働(第11章、第12章)	事前学習:第11章・第12章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第10回	保育者の葛藤と成長①(第9章、第13章)	事前学習:第9章・第13章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第11回	保育者の葛藤と成長②、チーム保育(第9章、第13章)	事前学習:引き続き第13章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第12回	保育における省察(第10章)	事前学習:第10章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第13回	保育者として働くということ(第14章)	事前学習:第14章を熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
第14回	主体的な保育者を目指して①(第15章)	事前学習:第15章を熟読し、不明な点を明確にしておく+授業内発表に向けて準備を行う(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する+授業内発表を控えている学生はその準備を行う(2時間)。
第15回	主体的な保育者を目指して②(第15章)	事前学習:第15章を熟読し、不明な点を明確にしておく+授業内発表に向けて準備を行う(2時間)。事後学習:授業内容、自作ノートを参照しながら不明な点を明確にし、ポイントを整理する(2時間)
テキスト 『保育者論～主体性のある保育者を目指して』野津直樹・宮川萬寿美編著 萌文書林		
参考書・参考資料等 『保育所保育指針解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 毎授業内において小テストを実施する。これに対するフィードバックは次回の授業時間にて行う。質問や感想に対しても同様に行う。提出物についても授業時間内でフィードバックを行う。		
学生に対する評価 授業に関して積極的に取り組む態度・授業後の小テスト(70%)、提出物(30%)の総合評価にて行う。		
実務経験(実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。) 幼稚園において教務主事として従事していた経験あり。		
実務経験を活かした教育内容(実務経験をもとに、関連する授業を行っている場合は必ず記載して下さい。) 幼稚園にて経験した様々なエピソードを、よりリアルに学生へお伝えします。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術	担当教員名
カリキュラム論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	平澤 順子
授業の概要 保育所等の実務経験のある担当教員により、保育の場における計画の意義と役割を体験的事例などから学ぶ。また、幼稚園や保育所にある、入園から終了までの保育の教育課程及び全体的な計画の意義と内容について理解を深めるとともに、それに基づく指導計画の重要性についても学び、それらを通して就学前の生活や学びが就学後に関連性があることを知る。						
授業の到達目標 1) 教育課程・全体的な計画及びそれに基づく指導計画の意義と内容について理解し、説明できる 2) 指導計画の作成の基本を知り、立案が出来るようになる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表						
回数	内容・方法					
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・保育における計画の変遷 			事前学習 :事前配布のプリントを熟読しておく(2時間) 事後学習 :現代の計画に至った経緯を整理し、説明できるようにする(2時間)		
第2回	保育の基本(1):乳幼児期にふさわしい生活			事前学習 :前期の全学習を振り返り、乳幼児期のふさわしい生活をまとめておく(2時間) 事後学習 :乳児・幼児のふさわしい生活を整理し、説明できるようにする(2時間)		
第3回	保育の基本(2):発達に適した環境とそれを通しての総合的な学び			事前学習 :各年齢に適した環境を具体的な例を挙げて考えておく(2時間) 事後学習 :総合的な学びについて説明できるように整理しておく(2時間)		
第4回	保育の基本(3):一人ひとりの発達の個人差と集団の中での学び			事前学習 :集団での活動場面とそこでの必要な保育者の援助を考えておく(2時間) 事後学習 :計画を立案する際、発達の個人差への配慮の必要性をまとめておく(2時間)		
第5回	教育課程と全体的な計画の意義と役割			事前学習 :幼稚園と保育園の機能の違いを考え、まとめておく(2時間) 事後学習 :配布された教育課程と全体的な計画を比較し、違いを整理しておく(2時間)		
第6回	保育における指導計画の種類とその役割			事前学習 :配布プリントを熟読し、計画の種類と要点をまとめておく(2時間) 事後学習 :計画の種類別に機能と役割を整理しておく(2時間)		
第7回	幼稚園の教育の特徴			事前学習 :実習を振り返り、幼稚園のデイリープログラムを書く(2時間) 事後学習 :幼稚園の機能と役割を整理し、まとめておく(2時間)		

第8回	幼稚園の指導計画	事前学習：計画の項目の種類、書き方等気づいたことを列挙しておく（2時間） 事後学習：幼稚園の指導計画の種類と位置づけを整理しておく（2時間）
第9回	保育所の特徴と指導計画： ・0～3歳未満児を中心に	事前学習：0～3歳未満児の運動機能、言語発達等を調べ、整理しておく 事後学習：乳児の3つの視点の導入理由と各々の項目を整理しておく（2時間）
第10回	保育所の特徴と指導計画： ・3～5歳児を中心に	事前学習：3～5歳児の運動機能、言語発達などを調べ、整理しておく（2時間） 事後学習：以上児と未満児の計画の違いを整理しておく（2時間）
第11回	指導計画の作成の基本とその方法	事前学習：保育者の援助とは何かを考えておく（2時間） 事後学習：各項目の書き方等、基本的な書き方の要点を押さえておく（2時間）
第12回	指導計画の実際： 各項目の書き方の型を参考に活動の一部を立案する	事前学習：各項目の書き方、基本的な書き方の要点を再確認しておく（2時間） 事後学習：文章から各項目に該当するものを読み取り、計画書に起こすことで計画の書き方に慣れる（2時間）
第13回	指導計画の実際： ・凡例を基に指導案作成を考える	事前学習：配布された計画書を、書き方の基本的事項に照らし合わせ、問題点をあぶり出しておく（2時間） 事後学習：各項目の要点を押さえておく（2時間）
第14回	指導計画の実際： ・幼児対象	事前学習：提示された対象年齢の発達面を押さえておく（2時間） 事後学習：環境構成の重要性を確認し、表記の仕方を確認しておく（2時間）
第15回	幼稚園・保育園と小学校との連携	事前学習：配布されたプリントを熟読しておく（2時間） 事後学習：幼保小の連携で必要事項をまとめ、説明できるようにする（2時間）
テキスト 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 千葉武夫、那須信樹編集、教育・保育カリキュラム論、中央法規、以上の他は随時授業の中で紹介する		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。		
学生に対する評価 総合評価：レポート（30%）、講義の参加態度（20%）、試験（50%）		
実務経験 保育所の保育士、認定こども園の保育士		
実務経験を活かした教育内容 指導計画を立案し、それに基づくロールプレイの演習も取り入れ、実務経験を活かした視点からアドバイスをを行うことで実践への即戦力に繋げていく		

授業科目名 特別支援教育の基礎と方法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名 米澤 巧美
	選択	必修	/	開講期：2学年 通年		
授業の概要 <p>障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害）について、その特性と支援の方法を解説する。発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。地域における保健・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。視聴覚教材を用いて障害をもつ子どものイメージがもてるようにし、さまざまな事例を紹介する。</p> <p>以上により、通常のクラスにも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもが授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>						
授業の到達目標 <p>障害を持つ子どもを保育するうえで、「障害」が特性と環境との相互関係による「状態像」であることを正しく知り、理解できる。さまざまな障害の特性について理解し、発達状態や障害特性に応じた保育が実践できるための準備性を培うことができる。障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・福祉・教育機関との連携についての理解を深め、保育の協働を学ぶことができる。</p> <p>具体的には、以下の8つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している ②発達障害や軽度知的障害を始めとする特別の支援を必要とする子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している ③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている ④発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする子どもに対する支援の方法について例示することができる ⑤「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している ⑥特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している ⑦特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している ⑧その他特別の教育的ニーズのある子どもの学習上・生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している 						
ディプロマポリシーとの関連						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	なぜ特別な支援が必要なのか (1) 障害とはなにか	<p>毎回の授業内容について、テキストの該当部分もとに予習時間（2時間）を確保すること。そして、事後学習として配布資料および演習ワークを見返し、ポイントを整理すること（2時間）。</p> <p>施設実習などで出会う障害をもつ子どもや行動の気になる子どもに対し、関心をもって観</p>				

		察し、その子どもの特性や行動の背景、保育の方法、自分の関わり方について考えるようにすること。毎回、演習ワークを実施するので、質問や発言などの積極的な授業参加が望まれる。 事前学習：テキストの該当部分（3P-15P） 事後学習：配布資料
第2回	なぜ特別な支援が必要なのか（2）障害児と保育について	事前学習：テキストの該当部分（16P-20P） 事後学習：配布資料
第3回	発達を理解する（1）合理的配慮を理解する	事前学習：テキストの該当部分（24P-27P） 事後学習：配布資料
第4回	発達を理解する（2）発達の領域と発達検査について	事前学習：テキストの該当部分（29P-34P） 事後学習：配布資料
第5回	発達の違いを理解する（1）発達検査の結果から	事前学習：テキストの該当部分（34P-39P） 事後学習：配布資料
第6回	発達の違いを理解する（2）発達を支援すること	事前学習：テキストの該当部分（39P-42P） 事後学習：配布資料
第7回	障害の特性を理解する（1）肢体不自由	事前学習：テキストの該当部分（44P-45P） 事後学習：配布資料
第8回	障害の特性を理解する（2）知的障害	事前学習：テキストの該当部分（46P-47P） 事後学習：配布資料
第9回	障害の特性を理解する（3）視聴覚障害	事前学習：テキストの該当部分（48P-49P） 事後学習：配布資料
第10回	障害の特性を理解する（4）病弱・重症心身障害・言語障害	事前学習：テキストの該当部分（50P-54P） 事後学習：配布資料
第11回	障害の特性を理解する（5）ASD（自閉スペクトラム症）	事前学習：テキストの該当部分（56P-61P） 事後学習：配布資料
第12回	障害の特性を理解する（6）ADHD（注意欠如・多動症）・LD（限局性学習症）	事前学習：テキストの該当部分（64P-67P） 事後学習：配布資料
第13回	支援方法を理解する（1）心の支援	事前学習：テキストの該当部分（70P-77P） 事後学習：配布資料
第14回	支援方法を理解する（2）発達論による支援	事前学習：テキストの該当部分（80P-86P） 事後学習：配布資料
第15回	第1～14回までの学習内容の振り返り 事例の紹介とグループワーク	事前学習：前期の配布資料および演習ワークの内容を振り返る 事後学習：配布資料
第16回	支援方法を理解する（3）-1 行動・コミュニケーションの支援	事前学習：テキストの該当部分（88P-90P） 事後学習：配布資料
第17回	支援方法を理解する（3）-2 ケーススタディ①環境調整による支援	事前学習：テキストの該当部分（92P-96P） 事後学習：配布資料
第18回	支援方法を理解する（4）-1 環境調整による支援	事前学習：テキストの該当部分（98P-99P） 事後学習：配布資料

第19回	支援方法を理解する (4) -2 構造化された支援と その実際	事前学習：テキストの該当部分 (99P-108P) 事後学習：配布資料
第20回	支援方法を理解する (5) -1 周囲の人との連携	事前学習：テキストの該当部分 (110P- 111P) 事後学習：配布資料
第21回	支援方法を理解する (5) -2 横のつながりと縦の つながり	事前学習：テキストの該当部分 (113P- 122P) 事後学習：配布資料
第22回	支援の方法を考える実践ワーク (1) 支援の実際	事前学習：テキストの該当部分 (124P- 131P) 事後学習：配布資料
第23回	支援の方法を考える実践ワーク (2) 特性に合わせ た支援の実際	事前学習：テキストの該当部分 (131P- 135P) 事後学習：配布資料
第24回	個別の教育支援計画をつくる (1) 個別の教育支援 計画とは	事前学習：テキストの該当部分 (138P- 141P) 事後学習：配布資料
第25回	個別の教育支援計画をつくる (2) 個別の教育支援 計画と検証 (記録)	事前学習：テキストの該当部分 (141P- 142P) 事後学習：配布資料
第26回	ケーススタディ②感覚支援について	事前学習：テキストの該当部分 (144P- 148P) 事後学習：配布資料
第27回	ケーススタディ③社会的コミュニケーションにつ いて	事前学習：テキストの該当部分 (144P- 148P) 事後学習：配布資料
第28回	保護者支援と今後の課題 (1) 特別な支援を必要と する子どもの親の気持ち	事前学習：テキストの該当部分 (152P- 153P) 事後学習：配布資料
第29回	保護者支援と今後の課題 (2) 保護者支援の実際例	事前学習：テキストの該当部分 (154P- 160P) 事後学習：配布資料
第30回	まとめ 第16~29回の学習内容の振り返り、グル ープワーク	事前学習：後期の配布資料および演習ワー クの内容を振り返る 事後学習：配布資料
テキスト		
星山麻木編著 『障害児保育ワークブック-インクルーシブな保育・教育をめざして』 萌文書林 ※説明用の資料を授業内で適宜配布する		
参考書・参考資料等		
尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 『よくわかる障害児保育』 ミネルヴァ書房		
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法		
毎回の授業資料の冒頭で、全体としてのフィードバックを行う。演習ワークを毎回実施し、次回授業時間内で 講評等のフィードバックを行う。個別に必要な場合は、メールでフィードバックを行う場合もある。		
学生に対する評価		
授業学習 (特に毎回の演習ワーク) に関して積極的に取り組む姿勢・態度・(70%)、授業の演習内容のリア クションペーパーの内容 (30%) の総合評価		

実務経験

社会福祉士（国家資格）・臨床発達心理士（連合学会認定資格）

知的障害および発達障害者支援事業に従事（生活介護・就労継続B型・就労移行支援・入所支援・相談支援）

発達障害者地域支援マネジャーとして横浜市内180事業所への訪問コンサルテーションの実施

埼玉県立上尾特別支援学校特別非常勤講師（巡回相談および助言指導）

実務経験を活かした教育内容

自閉スペクトラム症を中心とした発達障害児者に対する根拠ある包括支援プログラム（TEACCH Autism Program）とその展開の実践を教授する。具体的には、心理教育アセスメントの活用と構造化された臨床発達支援、そしてライフステージを縦断する本人中心主義による社会資源との連携の実際を、実践記録（画像および映像資料）を用いることで、リアリティある教育内容を提供する。

授業科目名 障害児保育 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本眞幸
	選択		必修	開講期： 2学年 通年		

授業の概要

- ・ 障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。
- ・ 各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害など）について、その特性と支援の方法を学ぶ。
- ・ 発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。
- ・ 障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。
- ・ 地域における保健・医療・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。

授業の到達目標

- ・ 障害児を保育するうえで、「障害」そのものを正しく理解し説明できる。
- ・ 「インクルーシブ保育」の考え方を正しく理解し説明できる。
- ・ 様々な障害の特性について理解し、発達状態や障害特性に応じた保育の実践に向けて必要な基本的理解や態度・姿勢が身につく。
- ・ 障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・医療・福祉・教育機関との連携についての理解を深め、保育の協働の実践に向けての基本的な意識や態度・姿勢が身につく。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	授業ガイダンス 1. 障害児保育・特別支援教育とは 1-1) なぜ障害児保育を学ぶのか 1-2) 「障害がある」とは	事前学習： テキストの該当箇所（12～17ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第2回	1-3) 障害のある子どもへの保育とは 1-4) 障害児保育の歴史の変遷	事前学習： テキストの該当箇所（18～22ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第3回	2. 障害児保育・特別支援教育の基本 2-1) 発達の見方と気になる発達の評価	事前学習： テキストの該当箇所（23～35ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第4回	2-2) 障害児保育・特別支援教育の対象と支援の場 2-3) 障害児保育の現在（インクルージョン・合理的配慮）	事前学習： テキストの該当箇所（36～38ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第5回	3. 障害の理解と保育1 3-1) 知的障害の理解と保育	事前学習： テキストの該当箇所（37～50ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第6回	4. 障害の理解と保育2 4-1) 肢体不自由・重症心身障害の理解と保育 4-2) 聴覚障害の理解と保育	事前学習： テキストの該当箇所（51～64ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）
第7回	4-3) 視覚障害の理解と保育 4-4) 言語障害の理解と保育	事前学習： テキストの該当箇所（65～76ページ）に目を通す（1時間） 事後学習： 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する（1時間）

第8回	5. 障害の理解と保育3 5-1) 気になる子どもと発達障害 5-2) 自閉症スペクトラム障害の理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所 (87~95 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第9回	5-3) 学習障害の理解と保育 5-4) 注意欠陥・多動性障害の理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所 (96~105 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第10回	6. 発達が気になる子どもの理解と保育 6-1) 身体感覚の隔たりと不器用さ 6-2) 自己有能感を育む	事前学習: テキストの該当箇所 (77~86 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第11回	7. 多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 7-1) 多様な支援を必要とする子ども 7-2) 外国につながる子どもの理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所 (106~110 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第12回	7-3) 子どもの貧困の理解と保育 7-4) 病弱児の理解と保育	事前学習: テキストの該当箇所 (110~114 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第13回	ここまでの授業内容のまとめ (「まとめプリント1」配布)	事前学習: これまでの学習内容のポイントに大まかに目を通す(1時間) 事後学習: 「まとめプリント1」の内容をしっかりと学習する(1時間)
第14回	学習理解度の確認 (確認テスト1、課題小作文) 補足事項の説明	事前学習: 「まとめプリント1」の内容を再度学習する(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第15回	前期授業のまとめと補足説明	事前学習: 前期授業で印象に残った内容、興味・関心のあった内容を振り返る(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第16回	これまでの学びを振り返って (障害とは、障害児保育の基本、種々の障害) 後期授業の展開予定	事前学習: 「まとめプリント1」に再度目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第17回	8. 子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価 8-1) 保育の計画の作成 8-2) 個別の指導計画(個別計画)の作成	事前学習: テキストの該当箇所 (116~130 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第18回	9. 個々の発達をうながす生活やあそびの環境 9-1) 子どもの自発性と保育の環境 9-2) 外界とかかわる基盤の力 9-3) 外界とのかかわりの拡がり	事前学習: テキストの該当箇所 (131~142 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第19回	10. 他者とかかわりと育ちあい 10-1) 子どもの世界を広げる保育者の関わり 10-2) 集団保育における配慮	事前学習: テキストの該当箇所 (143~154 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第20回	11. 職員間の協力関係 11-1) 職員間で協力してかわる 11-2) 情報共有の方法	事前学習: テキストの該当箇所 (155~165 ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)

第21回	12. 家庭および関係機関との関係 12-1) 保護者や家庭に対する支援	事前学習: テキストの該当箇所 (168~174ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第22回	12-2) 地域の専門機関との連携	事前学習: テキストの該当箇所 (174~181ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第23回	13. 障害のある子どもの早期発見と支援 13-1) 健康診査制度の理解	事前学習: テキストの該当箇所 (182~187ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第24回	13-2) 発達相談と療育資源の理解	事前学習: テキストの該当箇所 (187~193ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第25回	14. 障害のある子どもの就学に向けての支援 14-1) 障害のある子どもの就学先の理解 14-2) 要録等と進学にかかわる連絡協議 14-3) 就学相談説明会と個別の就学相談	事前学習: テキストの該当箇所 (194~205ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第26回	15. 障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題 15-1) 医療・保健の現状と課題 15-2) 園と専門機関の連携による福祉・教育支援	事前学習: テキストの該当箇所 (208~213ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第27回	16. 支援の場の広がりをつながり 16-1) 発達が気になる子どもの早期支援の例 16-2) ライフステージを見通した支援	事前学習: テキストの該当箇所 (214~221ページ) に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第28回	ここまでの授業内容のまとめ (「まとめプリント2」配布)	事前学習: これまでの学習内容のポイントに大まかに目を通す(1時間) 事後学習: 「まとめプリント2」の内容をしっかりと学習する(1時間)
第29回	学習理解度の確認 (確認テスト2、課題小作文)	事前学習: 「まとめプリント2」の内容を再度学習する(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
第30回	全授業内容のまとめと補足説明	事前学習: 「まとめプリント1」、「まとめプリント2」に目を通す(1時間) 事後学習: 配布プリント、ノート等を見直し、ポイントを確認・整理する(1時間)
テキスト 前田泰弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林、2019年 ※説明用のプリント、資料を授業内で適宜配布する		
参考書・参考資料等 小橋明子監修、小橋拓真編著『障がい児保育』中山書店、2019年 公益財団法人児童育成協会監修、西村重稀・水田敏郎編集『障害児保育 基本保育シリーズ⑩』中央法規、2019年		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テスト等については、授業時に解説を行つたうえで返却する。		

学生に対する評価

授業に積極的に取り組む姿勢・態度（30%）、授業内確認テスト（30%）、課題作文（20%）、授業内の課題（20%）の総合評価

実務経験

（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士）

実務経験を活かした教育内容

授業科目名 社会福祉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 スティーヴン・トムソン
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		

授業の概要

保育サービスは、社会福祉の大切なサービスの一つであることに基づき、社会福祉の基本的事項として、その理念、歴史、実施体制、法制度の概要について学習する。また、社会福祉の専門職として、子どもとその保護者への支援を職務とする保育士の役割に着目しながら、相談援助や権利擁護の基本的な考えや方法を学ぶ。また、今日における社会福祉の動向や課題について考える。

授業の到達目標

- ・現代社会における社会福祉のもつ基本的な意義と歴史的変遷について説明できる
- ・社会福祉政策における子ども家庭支援の分野について説明できる
- ・社会福祉の実施機関について説明できる
- ・社会福祉におけるソーシャルワークについて説明できる
- ・日本における子どもの貧困問題について説明できる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	ガイダンス、社会福祉とは何か 社会福祉の思想と現実、基本的人権と子どもの権利 ⇒ 教科書、1～9ページ	事前学習：シラバスの内容を確認し、今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第2回	子ども家庭支援と社会福祉 現代社会と子ども家庭支援、児童福祉法における子ども家庭支援、保育と子ども家庭支援 ⇒ 教科書、9～17ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第3回	社会福祉の歩み ① 第2次世界大戦以前(明治期以前、明治期、大正期から昭和前期) ⇒ 教科書、19～23ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第4回	社会福祉の歩み ② 第2次世界大戦後から高度経済成長期、低経済成長と福祉見直し ⇒ 教科書、23～25ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第5回	社会福祉の歩み ③ 社会福祉基礎構造改革とその後の展開 ⇒ 教科書、25～31ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第6回	社会保障及び関連制度 国民生活と社会保障、社会保障を構成する制度、社会保障制度の機能、子どもを育てている世帯 ⇒ 教科書、39～48ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間) 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する(2時間)
第7回	社会福祉の制度と法体系	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する(2時間)

	社会福祉の制度と法律、日本における法体系と日本国憲法、社会福祉の法体系 ⇒ 教科書、49～58 ページ	事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第8回	前半授業の総括 第1～7回目の学習内容の振り返り・確認 (小試験を行い、内容の解説を行う)	事前学習：第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する（2時間） 事後学習：配られたプリントを熟読する（2時間）
第9回	社会福祉の実施機関 福祉の行政機関、福祉の民間団体・組織、社会福祉施設の役割 ⇒ 教科書、69～83 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第10回	社会福祉の担い手 高まる専門性への期待、行政機関で働く児童福祉専門職、関連分野の福祉専門職 ⇒ 教科書、83～91 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第11回	ソーシャルワークの理論・方法 ① ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの理論・視点 ⇒ 教科書、93～104 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第12回	ソーシャルワークの理論・方法 ② ソーシャルワークの意義と機能、ソーシャルワークの対象と実践課程、ソーシャルワークの方法 ⇒ 教科書、104～122 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第13回	子どもの貧困と保育 日本に貧困は存在するのか、子どもの貧困の現状と対策、貧困問題に対する保育者の役割 ⇒ 教科書、138～151 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第14回	地域社会の推進と社会福祉 地域とは何か、社会福祉基礎構造改革と地域福祉の推進、地域福祉推進の主体とあり方 ⇒ 教科書、181～194 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第15回	後半授業の総括 第9～14回目の学習内容の振り返り・確認	事前学習：第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する（2時間） 事後学習：配られたプリントを復習し、試験に備える（2時間）
テキスト		
井元真澄・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会福祉』ミネルヴァ		
参考書・参考資料等		
『保育福祉小六法 2021年版』（株）みらい		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う ・期末試験について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う 		
学生に対する評価		
授業に取り組む姿勢・態度（20%） 小試験（40%） 期末試験（40%）の総合評価		

授業科目名 子ども家庭福祉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		石山 直樹

授業の概要

今日の子どもとその家族が直面している生活問題とその社会的背景をふまえて、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスの全体像を把握していきます。また、社会福祉の専門職として、保育所以外にもさまざまな施設・機関などで子どもとその家族とかわる保育士に求められる役割を理解していきます。そして、保育士を目指すにあたって「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断ができるようになることを目指していきます。

授業の到達目標

- ・子どもとその家族を取り巻く社会環境の現状を正しく理解し、その特徴を説明することができる。
- ・時代とともに変化している子どもとその家族が抱える生活問題を正しく理解し、社会的背景と関連付けて説明することができる。
- ・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉制度やサービスの実施体制の現状を正しく理解し、その内容を説明することができるとともに、課題についても述べるができる。
- ・子どもがもつ権利ならびに今日の社会における子ども家庭福祉の意義についての正しい理解をもとに、今日そしてこれからの社会における保育士の役割について考察することができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・子ども家庭福祉の理念と、子どものもつ権利について 	<p>【事前学習】(2時間) テキスト(序章・第3章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】(2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、子どものもつ権利について整理し、理解を深める。</p>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景(少子化問題を中心に) 	<p>【事前学習】(2時間) テキスト(第1章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】(2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、わが国における少子化問題の現状と社会的背景について整理し、理解を深める。</p>
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその家族を取り巻く社会環境および子どもと家族のライフスタイルの変化とその背景 	<p>【事前学習】(2時間) テキスト(第2章・第14章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】(2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、今日の子どもとその家族が直面している生活問題について整理し、理解を深める。</p>
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史 	<p>【事前学習】(2時間)</p>

		<p>テキスト（第4章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、日本の子ども家庭福祉の歴史について整理し、理解を深める。</p>
第5回	・子ども家庭福祉に関する法制度と行財政	<p>【事前学習】（2時間） テキスト（第5章・第6章第3節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、子ども家庭福祉に関する法制度について整理し、理解を深める。</p>
第6回	・子ども家庭福祉にかかわる社会福祉施設・機関と専門職者	<p>【事前学習】（2時間） テキスト（第6章第1～2節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、子ども家庭福祉に関する各施設の目的・対象者および専門職者について整理し、理解を深める。</p>
第7回	・子ども家庭福祉の現状と課題① （子育て支援と保育サービス）	<p>【事前学習】（2時間） テキスト（第7章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、保育サービスならびに待機児童問題について整理し、理解を深める。</p>
第8回	・子ども家庭福祉の現状と課題② （子どもに対する虐待問題への対応策）	<p>【事前学習】（2時間） テキスト（第9章第1節）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、児童虐待問題とその対応策について整理し、理解を深める。</p>
第9回	・子ども家庭福祉の現状と課題③ （社会的養護を必要とする子どもに対する援助）	<p>【事前学習】（2時間） テキスト（第10章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。</p> <p>【事後学習】（2時間） テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、社会的養護を必要とする子どもに対する援助について整理し、理解を深める。</p>
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～9回授業の学びの振り返りと学びの確認（中間テスト） ・子ども家庭福祉の現状と課題④（非行傾向および心理的な不安定さを抱える子ども） 	<p>【事前学習】（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～9回までの学習内容を整理する。 ・テキスト（第12章）を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。

	もに対する援助)	【事後学習】 (2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、非行傾向および心理的な不安定さを抱える子どもに対する援助について整理し、理解を深める。
第11回	・第1～9回授業の学びの振り返りと学びの確認(中間テスト)の解説 ・子ども家庭福祉の現状と課題⑤(障がいをもつ子どもとその家族に対する援助)	【事前学習】 (2時間) テキスト(第11章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】 (2時間) ・中間テストの結果を振り返り、理解が不十分であったと考えられる箇所について、学びを再整理する。(必要に応じてレポート作成) ・テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、障がいをもつ子どもとその家族に対する援助について整理し、より一層理解を深める。
第12回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑥(配偶者からの暴力(DV)に関する対応策)	【事前学習】 (2時間) テキスト(第9章第2節)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】 (2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、配偶者からの暴力(DV)・デートDVについて整理し、理解を深める。
第13回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑦(ひとり親家庭に対する援助)	【事前学習】 (2時間) テキスト(第13章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】 (2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、ひとり親家庭の生活とひとり親家庭に対する支援について整理し、理解を深める。
第14回	・子ども家庭福祉の現状と課題⑧(母子保健・子どもの健全育成に関するサービス)	【事前学習】 (2時間) テキスト(第8章)を熟読して、今回の授業内容について予備知識を得る。 【事後学習】 (2時間) テキストおよび授業時に使用したプリント・参考資料をもとに、母子保健・子どもの健全育成に関するサービスについて整理し、理解を深める。
第15回	・諸外国の子ども家庭福祉の動向について ・まとめ ～これからの子ども家庭福祉と保育士の社会的役割について～	【事前学習】 (2時間) 第1回～第14回授業までの学習内容を整理する。 【事後学習】 (2時間) これまでの学習内容を総括し、これからの社会で求められる子ども家庭福祉サービスおよび保育士の役割を整理する。
テキスト		

比嘉真人監修、石山直樹・岡本眞幸・田家英二編『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論〔第2版〕』株式会社みらい

参考書・参考資料等

保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法2022年版』株式会社みらい
二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』横浜女子短期大学
※必要に応じて、授業内でその他の参考書・参考資料を紹介します。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・中間テストについては、授業内で全体を対象とした解説を行ったうえで返却します。
- ・その他の課題の内容などについては、授業内で全体を対象にフィードバックを行います。
- ・上記2項目に加え、事後学習で不明な点が生じた場合など、必要に応じて個別のフィードバックも行います。

学生に対する評価

中間テスト(筆記試験) (45%)、期末レポート (40%)、授業に取り組む姿勢と参加度 (15%)

授業科目名 子ども家庭支援論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 石山 直樹
	選択		必修	開講期：1学年 後期		
授業の概要						
<p>子どもとその家族、そして両者を取り巻く社会環境についての理解など、「子ども家庭福祉」の授業での学習内容を基盤として、子どもとその家族がともに生活を営む場である「家庭」に対する支援を展開するにあたって求められる知識・技術と、援助者としての姿勢・態度を習得していきます。そして、社会や個々の家庭の状況を踏まえつつ、保育士として「子どもの最善の利益」を尊重した子ども家庭支援を実践できるための基礎力を身につけていきます。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> 今日の社会における子育て家庭に対する支援の意義と目的を捉えたうえで、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方について、説明することができる。 個々の子育て家庭がもつ多様な子育て支援に関するニーズを的確に捉え、そのニーズに応えるための適切な支援方法を考える（子ども家庭福祉に関する法制度、サービス、施設、機関、団体などの的確に結びつける）ことができる。 今後の子育て家庭を取りまく社会の状況を見通して、保育士が行う子ども家庭支援に期待される役割や課題を述べることができる。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII②, DPII④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション（授業内容と授業の展開方法、評価方法などに関する説明） 「家族」と「家庭」とは／「家族」「家庭」と子どもの育ち 	<p>【事前学習】（2時間） 参考書やインターネットなどを一切使用せずに、「家族」と「家庭」という言葉の意味を考える。（辞書に載せる解説文のようなイメージで文章化する）</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「家族・家庭がもつ子育てに関する機能」を整理し、理解を深める。</p>				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における子ども家庭支援の意義と必要性 	<p>【事前学習】（2時間） 『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論〔第2版〕』第1～2章を熟読し、わが国の子どもを取り巻く社会環境について復習する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「今日の日本における子ども家庭支援の意義と必要性」を整理し、理解を深める。</p>				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 保育・幼児教育の場における子ども家庭支援の目的と機能 	<p>【事前学習】（2時間） 『保育福祉小六法2022年版』および『保育所保育指針解説』を用いて、保育所がもつ子ども家庭支援の役割と機能を整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「保育の場で子ども家庭支援を行う意義と</p>				

		必要性」を整理し、理解を深める。
第4回	・子育て支援、次世代育成支援に関する施策の推進と「子ども・子育て支援新制度」について	<p>【事前学習】（2時間） 『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論〔第2版〕』第7章を熟読し、わが国における少子化・次世代育成支援施策の流れを捉える。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「子ども・子育て支援新制度の概要」を整理し、理解を深める。</p>
第5回	・保育所・保育士の専門性を活かした子ども家庭支援	<p>【事前学習】（2時間） 『保育所保育指針解説』をもとに、保育士のもつ専門性についてまとめる。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「保育士のもつ専門性を活かした子ども家庭支援のあり方」を整理し、理解を深める。</p>
第6回	・子ども家庭支援を実践する保育士に求められる姿勢	<p>【事前学習】（2時間） 『シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 実践に活かす社会福祉』第5章を熟読し、「バイステックの7原則」について整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「保育士として子ども家庭支援を実践する際の姿勢」を整理し、理解を深める。</p>
第7回	・子ども家庭支援の内容と対象（相談援助技術の活用(前半)）	<p>【事前学習】（2時間） 『シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 実践に活かす社会福祉』第5章を熟読し、「ケースワークの展開過程」について整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「相談援助技術（ケースワーク）の展開過程の概略」を整理し、理解を深める。</p>
第8回	・子ども家庭支援の内容と対象（相談援助技術の活用(後半)）、子ども家庭支援に活かす記録技法	<p>【事前学習】（2時間） 第7回授業時のプリントおよび各自のまとめをもとに、「ケースワークの展開過程」について再確認する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「ケースワークの展開過程の詳細（各段階の留意点）および記録技法のポイント」を整理し、理解を深める。</p>
第9回	・第1～8回授業の学びの振り返りと確認（中間テスト） ・子ども家庭支援における社会資源の活用・開発、行政機関・施設などとの連携	<p>【事前学習】（2時間） 第1～8回授業時のプリントおよび各自のまとめをもとに、ここまでの授業における学びを整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「子ども家庭支援における社会資源活用の意義」を整理する。</p>

第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～8回授業の学びの振り返りと確認（中間テスト）の解説 ・子どもの育ちの喜びの共有（その意義と実践方法） 	<p>【事前学習】（2時間） 『保育所保育指針解説』をもとに、子どもの育ちの喜びの共有の意義をまとめる。</p> <p>【事後学習】（2時間） 中間テストの結果を振り返り、理解が不十分であったと考えられる箇所について、学びを再度整理する。（必要に応じてレポート作成）</p>
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の家庭の状況に合わせた支援の展開 	<p>【事前学習】（2時間） 『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論』第11・13・14章をもとに、ひとり親家庭、障がい児をもつ家庭、貧困状態にある家庭、外国籍家庭の状況を整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「家庭の状況に合わせた支援の具体的ポイント」を整理し、理解を深める。</p>
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等を利用する子どもとその家族に対する支援 	<p>【事前学習】（2時間） 第11回授業時に配付する課題（事例：保育所を利用する子どもとその保護者との関わり）に取り組む。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「保育所を利用する子どもとその家族に対する支援の具体的ポイント」を整理し、理解を深める。</p>
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども家庭支援の推進における保育士の役割 	<p>【事前学習】（2時間） 第12回授業時に配付する課題（事例：保育所における地域で生活する子どもとその保護者との関わり）に取り組む。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「保育所における地域の子育て家庭に対する支援の具体的ポイント」を整理し、理解を深める。</p>
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童とその家族に対する支援 	<p>【事前学習】（2時間） 第13回授業時に配付する課題（事例：児童養護施設における家庭支援）に取り組む。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「要保護児童とその家族に対する支援の具体的ポイント」を整理し、理解を深める。</p>
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ（子ども家庭支援の課題と将来展望） 	<p>【事前学習】（2時間） 第1～14回までの学習内容を整理する。</p> <p>【事後学習】（2時間） 授業時に使用したプリントなどをもとに、「これからの社会における保育士による子ども家庭支援の意義と役割」を整理し、理解を深める。</p>

テキスト

特に指定しません。毎回プリントを配付して授業を行います。

参考書・参考資料等 ※末尾に◆のついたものを事前学習で主に使用します。

- ・比嘉真人監修、石山直樹・岡本眞幸・田家英二編『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論〔第2版〕』株式会社みらい（1年次前期「子ども家庭福祉」のテキスト）◆
- ・井元真澄・坂本健編著『シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 実践に活かす社会福祉』ミネルヴァ書房（1年次前期「社会福祉」のテキスト）◆
- ・厚生労働省編『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館◆
- ・保育福祉小六法編集委員会『保育福祉小六法2022年版』株式会社みらい◆
- ・石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 保育と子ども家庭支援論』株式会社みらい

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・中間テストについては、授業内で全体を対象とした解説を行ったうえで返却します。
- ・その他の課題などについては、授業においてその内容に関する全体を対象としたフィードバックを行います。
- ・上記2項目に加え、事後学習で不明な点が生じた場合など、必要に応じて個別のフィードバックも行います。

学生に対する評価

中間テスト(筆記試験)および期末課題(レポートなど) (70%)、授業内課題(レポートなど) (15%)、授業に取り組む姿勢と参加度 (15%)

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術	担当教員名
子育て支援 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 後期	実務	ステイーブン・トムソン 石山 直樹
授業の概要						
<p>保育士の行う子育て支援（すなわち保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者や地域住民に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援）について、その特性と具体的な展開を学ぶ。</p> <p>また、保育士の行う子育て支援（保育相談支援）について、実践的な事例等の検討を通して具体的に学ぶ。</p>						
授業の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う子育て支援（保育相談支援）について、その特性と展開を理論的かつ具体的に理解することができる。 2. 保育士の行う子育て支援について、その支援の内容、方法・技術を理論的かつ具体的に理解することができる。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII②, DPII④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	授業ガイダンス(担当教員の分担箇所, 評価方法等の明示) / 保育士の行う子育て支援の意義 ⇒ 教科書、18～28 ページ	事前学習: シラバスの内容を確認し、今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第2回	子どもの権利と子育て支援 ⇒ 教科書、30～40 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第3回	保育の専門性と子育て支援 ⇒ 教科書、42～50 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第4回	子育て支援の展開過程 ⇒ 教科書、54～65 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第5回	子育て支援における計画・記録・評価 ⇒ 教科書、70～84 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第6回	保護者との信頼関係の構築 ⇒ 教科書、88～99 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				
第7回	保護者の理解とかわり方 ⇒ 教科書、102～117 ページ	事前学習: 今回のテキスト箇所を熟読する (30分) 事後学習: プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する (30分)				

第8回	地域資源の活用と関係機関との連携・協力 ⇒ 教科書、120～127 ページ ⇒ レポート ① 提出	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第9回	保育所の特性を生かした保護者への支援 ⇒ 教科書、132～143 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第10回	特別な支援を必要とする保護者への支援 ⇒ 教科書、146～159 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第11回	問題・課題のある保護者への支援 ⇒ 教科書、162～173 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第12回	保育所における子育て支援 事例：育児不安になった保護者への支援 ⇒ 教科書、178～184 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第13回	保育所における子育て支援 事例：仕事と育児の両立で悩む保護者への支援 ⇒ 教科書、184～190 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第14回	保育所における子育て支援 事例：育児不安がある父子家庭への支援 ⇒ 教科書、190～195 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
第15回	児童発達支援センター（障害児の通所施設）における子育て支援 事例：知的障害のある子どもの母親への支援 ⇒ 教科書、198～206 ページ ⇒ レポート ② 提出	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（30分） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（30分）
<p>テキスト</p> <p>小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集『演習・保育と子育て支援』（株）みらい、2019年 その他、毎回の講義でプリントや資料等を配布する。</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・才村純ほか編著『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房、2019年 ・吉田真理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』萌文書林、2019年 ・佐藤博之他編著『保育・教職実践演習 ―子どもによりそう保育とその学びの総合性―（第2版）』2020年 		
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>理解度を確認するための演習課題等については、可能な限り授業内にてフィードバックする。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度（20%）、授業内の課題（40%）、レポート（40%）により総合的に評価する。</p>		

授業科目名 社会的養護 I (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーヴン・トムソン
	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 後期		
授業の概要 現代社会では、親や家庭環境の問題により家族と生活していない子どもたちがいる。これらの子どもたちは施設養護や家庭養護などの社会的養護を受けている。社会的養護の歴史、社会的養護の仕組み（制度）、社会的養護の実施体系、社会的養護の理念、施設養護の原理、子どもの保護理由、保育士や児童指導員による支援、子どもの権利擁護、自立支援などについて学ぶ。						
授業の到達目標 ・社会的養護とは何かを説明できる ・社会的養護のあゆみ（歴史）の大筋を説明できる ・社会的養護の基本原則を説明できる ・児童相談所における養護相談の受け入れから子どもの施設措置・里親委託までの流れを説明できる ・社会的養護を担う施設（乳児院、児童養護施設など）の役割と機能を説明できる ・社会的養護における里親と特別養子縁組についての基本的事項の大筋を説明できる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第 1 回	ガイダンス 授業ガイダンス、社会的養護の現代的課題 ⇒ 教科書、1～5 ページ	事前学習：シラバスの内容を確認し、今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				
第 2 回	社会的養護の歩み ① 明治期以前の子ども養護、明治期の子ども養護、大正・昭和期の社会的養護 ⇒ 教科書、15～23 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				
第 3 回	社会的養護の歩み ② 第 2 次世界大戦後の社会的養護、ホスピタリズム論争 ⇒ 教科書、23～28 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				
第 4 回	社会的養護の基本的な考え方 社会的養護の基本理念、社会的養護の基本原則 ⇒ 教科書、5～6、35～40 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				
第 5 回	社会的養護の仕組み ⇒ 教科書、47～52 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				
第 6 回	社会的養護の法律・実施体系 社会的養護の法体系、社会的養護の実施体系 ⇒ 教科書、52～67 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2 時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2 時間）				

第7回	社会的養護の対象と求められる環境 社会的養護の対象、社会的養護に求められる生活環境 ⇒ 教科書、69～78 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第8回	前半授業の総括 第1～7回目の学習内容の振り返り・確認 （小試験を行い、内容の解説を行う）	事前学習：第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する（2時間） 事後学習：配られたプリントを熟読する（2時間）
第9回	後半授業の案内 / 社会的養護の動向確認 社会的養護を担う施設の役割と機能 ① （社会的養護を担う主な施設の概要） （乳児院） ⇒ 教科書、79～91 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第10回	社会的養護を担う施設の役割と機能 ② （児童養護施設） ⇒ 教科書、91～103 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第11回	社会的養護を担う施設の役割と機能 ③ （母子生活支援施設） ⇒ 教科書、103～112 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第12回	家庭養護を担う機能・制度 （里親とファミリーホーム、 社会的養護から見る養子制度） ⇒ 教科書、163～177 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第13回	社会的養護を担う人々 （社会的養護に関わる専門職、専門職の倫理と責務） ⇒ 教科書、179～189 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第14回	児童福祉施設の運営管理 （施設運営の基本理念、設備運営基準、 施設の設置主体、利用方式、財源） ⇒ 教科書、191～196 ページ	事前学習：今回のテキスト箇所を熟読する（2時間） 事後学習：プリントなどを見直し、分からなかった内容をテキストなどで確認する（2時間）
第15回	後半授業の総括 第9～14回目の学習内容の振り返り・確認 （小試験を行い、内容の解説を行う）	事前学習：第1～7回目のプリントを見直し、理解できていない内容を教科書などで確認する（2時間） 事後学習：配られたプリントを熟読する（2時間）
テキスト 小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ		
参考書・参考資料等 授業中で紹介する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストについては、授業中に返却し、説明・解説を行う ・前半・後半の試験については、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う		
学生に対する評価 授業学習に取り組む姿勢・態度（20%） 小試験（40%） 期末試験（40%）の総評価		

実務経験

岡本 眞幸：児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援業務等）、児童養護施設の第三者委員会委員

スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。

実務経験を活かした教育内容

岡本 眞幸：提示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例も含める。

スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。

授業科目名 社会的養護 II (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 /	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 1単位 開講期： 2学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 ステイーヴン・トムソン
授業の概要 社会的養護の授業では、社会的養護の施設体系、施設養護、家庭的養護などを入門的に取り上げた。この授業では、社会的養護を必要としている子どもやその保護者の視点やニーズを基に行われる支援について学ぶ。特にアドミッションケアからアフターケアの一連の援助過程で行われる個別支援について理解を深める。様々な事例（ケース）を検討し、子ども・保護者の視点、個別援助、子どもの権利擁護、保育士に求められている倫理観などを学ぶ。						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションケアからアフターケアの一連の援助課題を説明できる ・現在、子育て家庭が抱えている主な養護問題を説明できる ・児童養護施設でのインケアの具体的な内容を説明できる ・施設養護における保育者の里親・ファミリーホーク支援を説明できる ・施設養護における子どもの権利擁護の具体的な内容を説明できる 						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ②, DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	ガイダンス 社会的養護の形態、社会的養護の援助課程 (アドミッションケアからアフターケア) ⇒ プリントを配布する	事前学習 ：シラバスの内容を確認し、社会的養護 I のテキストの 57～66 ページを復習する (2時間) 事後学習 ：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す (2時間)				
第2回	家庭の養護問題 (養護相談) 家庭が抱える養護問題、養護問題を抱える家庭の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習 ：前回の授業で配布された資料を熟読する (2時間) 事後学習 ：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す (2時間)				
第3回	子どもの一時保護 子どもの一時保護、保護された兄弟の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習 ：前回の授業で配布された資料を熟読する (2時間) 事後学習 ：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す (2時間)				
第4回	アドミッションケア ① (児童相談所) 児童相談所が行うアドミッションケア、施設入所が検討されている子どもの事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習 ：前回の授業で配布された資料を熟読する (2時間) 事後学習 ：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す (2時間)				
第5回	アドミッションケア ② (施設) 施設が行う入所する子どもへの支援、施設入所する子どもの支援内容の検討 ⇒ プリントを配布する	事前学習 ：前回の授業で配布された資料を熟読する (2時間) 事後学習 ：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す (2時間)				

第6回	インケア（施設環境） 施設養護の養護環境、小規模グループケアの事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第7回	インケア（子どもの行動上の問題） 施設における治療的養育、子どもの感情的爆発 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第8回	インケア（親子関係の調整） 施設における親子調整、親子の面会の事例 ⇒ プリントを配布する ⇒ 課題①提出	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第9回	インケア（子どもの自立支援） 子どもの自立支援、自立支援計画の内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第10回	リービングケア（子どもの退所支援） 子どものリービングケア（退所支援）の内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第11回	アフターケア アフターケアの必要性、アフターケアの内容 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第12回	家庭養護 家庭養護（里親、ファミリーホーム）、週末里親、家庭養護の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第13回	子どもの権利擁護 子どもの権利養育、苦情解決、職員の専門性、施設内虐待の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第14回	保育者の疲労・ストレス 保育者の「共感的疲労」、不規則な勤務、「燃え尽き症候群」、「燃え尽き症候群」の事例 ⇒ プリントを配布する	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
第15回	児童養護施設職員に求められる倫理 全国児童養護施設協議会倫理綱領など ⇒ プリントを配布する ⇒ 課題②提出	事前学習：前回の授業で配布された資料を熟読する（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントや自ら書いたノートを見直す（2時間）
テキスト 指定しない。プリントなどを授業で配布。		
参考書・参考資料等		

小川恭子・坂本健編集『シリーズ・保育の基礎を学ぶ 実践に活かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ
櫻井 奈津子（編）「社会的養護の実践：保育士のための演習ワークブック」青踏社
河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事例検討課題や課題①については、授業時間内で講評等フィードバックを行う
- ・課題②について、について、必要に応じて個別的にフィードバックと指導を行う

学生に対する評価

授業学習に取り組む姿勢・態度（20%） 課題①（40%） 課題②（40%）の総評価

実務経験

スティーヴン・トムソン：児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）、児童養護施設アドバイザー、児童養護施設の第三者委員会委員。

実務経験を活かした教育内容

スティーヴン・トムソン：授業では、内容をより理解できるように随時施設の子どもが抱えている課題や職員の支援活動の具体的な事例を紹介する。

授業科目名 子どもの保健 (専門教育科目)	卒業	幼児	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 甲斐 純夫 鏑木 陽一 (担当教員別授業)
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		

授業の概要

保健学的・医学的な視点から保育を学ぶ授業である。子どもの保健の意義、身体発育、運動機能・精神機能の発達、健康状態の把握方法、児童虐待などの保健分野から、感染症と予防接種、アレルギー、口・歯の病気、先天異常、身体各臓器の病気、発達障害など保育者として最低限知っておきたい小児期の疾病まで概説する。授業は実際の事例・症例を元に構成したパワーポイントを用いて進め、教科書および配付資料と参考書を読んで理解を深める。本科目は学ぶ範囲が広いので、毎回、十分な事前学習と事後学習が必要である。

授業の到達目標

- ・子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義が説明できる。
- ・胎児期より青年期に至るまでの子どもの身体発育、運動機能、精神機能の発達の概略を説明できる。
- ・子どもの成長・発達に影響を与える環境因子や虐待などを理解し、健やかな成長・発達に必要な保育の視点について説明できるようになる。
- ・子どもによく見られる病気の症状、病態を学び、その予防と保育施設での適切な対応方法が説明できる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	子どもの保健の意義と目的	事前：テキスト2～4、9～12、112～117ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容を復習し、「子どもの保健」の意義と目的について要点をまとめる(2時間)
第2回	健康の概念と健康指標	事前：テキスト5～8ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容を復習し、子どもの健康指標の最新のデータを確認して要点をまとめて理解を深める(2時間)
第3回	地域における保健活動 子ども虐待の防止	事前：テキスト13～20、98～106ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容を復習し、健やか親子21(第2次)と子ども虐待について理解を深め、要点をまとめる(2時間)
第4回	身体発育および運動機能の発達	事前：テキスト24～36ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容を復習し、出生から青年期までの身体発育と運動発達について理解を深め、要点を整理する(2時間)
第5回	生理機能の発達 精神機能の発達	事前：テキスト37～44ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容を復習し、小児期の生理機能発達と精神発達について理解を深め、要点を整理する(2時間)
第6回	子どもの心身の健康状態と その把握 子どもに多い症状	事前：テキスト46～64ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：健康状態の評価方法、主な症状と病気との関係を理解し、症状が出現した場合の対応の要点を整理する(2時間)
第7回	感染症	事前：テキスト66～71ページを熟読し、不明な点を明確にしておく(1時間) 事後：授業内容を復習し、子どもに多い感染症の理解を深め、要点を整理する。(3時間)

第8回	予防接種	事前：参考書の該当ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、最新の予防接種に関する情報を公的機関のホームページ等で調べ、要点を整理する（3時間）
第9回	アレルギーの病気	事前：テキスト72～75ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間） 事後：授業内容を復習し、小児期に代表的なアレルギー性疾患への理解を深め、要点を整理する（2時間）
第10回	口と歯の健康	事前：テキスト76～81ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（2時間） 事後：授業内容を復習し、年齢毎の歯の発育状況、う歯（むし歯）予防について理解し、要点を整理する（2時間）
第11回	先天異常	事前：テキスト82～83ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、先天異常の種類、日常生活における対応について理解を深め、要点をまとめる（3時間）
第12回	循環器、呼吸器、消化器の病気	事前：テキスト84～87ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する（3時間）
第13回	脳・神経、運動器、血液の病気	事前：テキスト88、90、93、95ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する（3時間）
第14回	皮膚、泌尿器、眼、鼻、耳の病気	事前：テキスト89、91～92ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、各臓器・器官の小児期の主な病気について理解を深め、要点を整理する（3時間）
第15回	心の病気（心身症など） 発達障害	事前：テキスト93～94ページ、参考書の該当ページを熟読し、不明な点を明確にしておく（1時間） 事後：授業内容を復習し、心身症、発達障害について理解を深め、要点をまとめる（3時間）
定期試験		
テキスト 遠藤郁夫・三宅捷太編集 『子どもの保健』 学建書院		
参考書・参考資料等 高内正子編著 『子どもの保健と安全』 教育情報出版 授業で用いるパワーポイントの内容を資料として配付する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度確認のためのレポートは、評価終了後、授業時に解説を行ったうえで返却する。		
学生に対する評価 積極的に授業、課題に取り組む姿勢（20%）と筆記試験点数（80%）の総合評価。 授業中は私語、居眠り、スマホの操作等は絶対に行ってはならず、行った場合は評価に影響する。		
実務経験 両教員とも長年、小児科診療に従事し、日本専門医機構認定小児科専門医の資格を有する小児科医師。		
実務経験を活かした教育内容 成長発育上の問題、健康被害や病気について、実際の事例・症例を元に解説する。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの健康と安全 (専門教育科目)	選択	/	必修	開講期： 2学年 前期		渡邊 悦子
授業の概要 母子保健から小児保健への流れと地域保健、及び対象に必要な保健的な援助について理解する。 子どもの健康及び安全に関わる保健活動を計画し、その実践と評価について理解する。 保育に関する感染症対策、アレルギー対応、事故防止及び事故発生時の対応や安全対策について、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する。						
授業の到達目標 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる 2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理及び安全対策等について具体的に理解できる 3. 子どもの体調不良、感染症対策について学び保健的な対応を理解し一部実施できる 4. 子どもの健康及び安全管理に関わる組織的な取り組みや、保健活動の計画・実施・評価について具体的に学び、一部の計画を立案し実施できる						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	オリエンテーション、母子保健から小児保健、保育所保育指針の養護「生命の保持」について	事前事後：授業の概要や計画を把握し学習内容を確認する(各30分)				
第2回	子どもの健康と安全 第10章保健的観点をふまえた保育環境と援助	事前：テキストP116-121を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第3回	第11章保育における健康と安全管理 1節子どもの衛生管理 2節子どもの事故防止と安全対策	事前：テキストP122-126を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第4回	第11章保育における健康と安全管理 3節子どもの危機管理と災害への備え 第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節子どもの体調不良・けがと応急手当 1子どもの体調不良	事前：テキストP127-129を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第5回	第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節1子どもの体調不良 2子どものけがと応急手当	事前：テキストP129・130を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第6回	第12章子どもの体調不良・けがと応急手当 1節1子どもの体調不良 2子どものけがと応急手当	事前：テキストP130・131を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第7回	第13章子どもの保健と感染症ガイドライン	事前：テキストP135-140を読み不明な点を明確にしておく(1時間)				
第8回	応急手当と心肺蘇生法 (『子どもの事故と応急手当』のテキスト使用)	事前：観察と接触、気道確保と回復体位、心肺蘇生の部分を読んでくる(30分) 事後：実践を振り返り、方法・手順等を再確認する(30分)				
第9回	応急手当と心肺蘇生法 (『子どもの事故と応急手当』のテキスト使用)	事前：心肺蘇生と異物除去の部分を読んでくる(30分) 事後：実践を振り返り、方法・手順等を再確認する(30分)				

第10回	第14章個別の配慮を要する子どもへの対応	事前:テキストP141-145を読み不明な点を明確にしておく(1時間)
第11回	第14章個別の配慮を要する子どもへの対応	事前:テキストP146-152を読み不明な点を明確にしておく(1時間)
第12回	第15章子どもと保健指導 感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健 便り作成	事前:テキストP153-159取り上げたいテーマ及び内容を考えてくる(1時間)
第13回	感染症予防・事故防止等、保健指導計画立案、保健 便り作成	事前:取り組んでいる内容を確認し不足分を 明確する(20分) 事後:計画と保健便りを完成させる(40分)
第14回	感染症予防、事故防止等に関する保健指導の発表	事前:保健指導の発表できるよう指導案の確 認と保健便りを完成させる(1時間)
第15回	第16章子どもの健康と安全管理の実施体制	事前:テキストP160-168ここまでの講義振 り返り、不明な点を明確にする(1時間)
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高内正子編 子どもの保健と安全 教育情報出版 ・吉田一心・伊東和雄 子どもの事故と応急手当 マスターワークス 		
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン ・保育所における感染症対策ガイドライン ・教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン ・事故防止及び事故発生時対応マニュアル—基礎編— ・必要時、資料を配布する 		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <p>理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。 講義終了時に学びや感想を毎回記入し、それについて個別または全体に講評等フィードバックを行う</p>		
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業・演習への参加度(60%)、授業内提出物(40%) 		
<p>実務経験</p> <p>看護師・助産師として大学病院に勤務経験あり。</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>新生児集中治療室・小児外科・小児HCU(High Care Unit)での小児看護の経験が、子どもの病気やケガへの対応についての学びに役立つと考えている。また助産師として母子保健に携わっていたため、母子保健から小児保健や地域保健への流れ等、具体的な事例を提示する。</p>		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
子どもの食と栄養 A (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 後期		奥 裕乃 中岡 加奈絵
授業の概要						
胎児期(妊娠期)から、出生後の乳児期(乳汁期・離乳期)における栄養と食生活について、理論と実践の両面から学び、基礎栄養学および小児栄養学に関する知識と技術を習得する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前から妊娠期の食生活が胎児に及ぼす影響について理解し、説明することができる。 ・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の意義と役割を理解し、説明することができる。 ・母乳栄養の利点と留意点を説明することができる。 ・人工栄養の内容を理解し、正しく調乳ができる。 ・離乳の必要性や離乳の進め方を理解し、保育者としての適切な食事支援の方法を説明できる。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPII③						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	オリエンテーション	1年前期に学んだ乳児の保育について復習した上で授業に臨む(1時間)。				
第2回	栄養素に関する基本的知識	テキストの第2章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第3回	食事摂取基準	テキストの第3章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第4回	献立作成と調理の基本	テキストの第3章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第5回	胎児期(妊娠期)の栄養と食生活	テキストの第4章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第6回	子どもの心身の健康と食生活、 子どもの食生活の現状と課題	テキストの第1章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第7回	乳汁期の栄養と食生活① 母乳栄養	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第8回	乳汁期の栄養と食生活② 人工栄養・混合栄養	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第9回	乳汁栄養の実際 調乳実習	人工栄養についての理解を深める。また、調乳の流れを確認しておく(1時間)。				
第10回	離乳期の栄養と食生活	テキストの第5章の該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく(1時間)。				
第11回	離乳期の食事の実際① 離乳食実習(初期)	離乳初期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳初期に多い悩みとその対処法について調べてまとめておく(1時間)。				

第12回	離乳期の食事の実際② 離乳食実習 (中期)	離乳中期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳中期に多い悩みとその対処法について調べてまとめておく (1時間)。
第13回	離乳期の食事の実際③ 離乳食実習 (後期)	離乳後期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳後期に多い悩みとその対処法について調べてまとめておく (1時間)。
第14回	離乳期の食事の実際④ 離乳食実習 (完了期)	離乳完了期の子どもの発達と離乳食の支援のポイントについて確認しておく。インターネットを用いて離乳完了期に多い悩みとその対処法について調べまとめておく (1時間)。
第15回	まとめ: 試験 (学習内容の振り返り) の実施と解説	試験に備え、全ての授業回で扱った内容について復習し、知識を定着させる (1時間)。
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第2版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社		
参考書・参考資料等 授業内で提示		
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 実習時に作成するレポートについては、添削したうえで翌週以降の授業期間中に返却する。		
学生に対する評価 授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度 (20%)、レポート (20%)、筆記試験 (60%) の総合評価を行う。		

授業科目名 子どもの食と栄養 B (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	學術 ・ 実務	担当教員名 奥 裕乃 中岡 加奈絵
	必修	必修	必修	開講期： 2 学年 前期		

授業の概要

多様化する育児支援のニーズに食の観点から適切に対応できる実践力を理論と実践から養うことを目指し、子どもの発育・発達と食生活の特徴や留意点、保育所等の児童福祉施設の給食の意義、食育の基本と内容、食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応等、小児栄養学に関する内容について重点的に講義し、調理実習、制作やプレゼンテーションを実施する。

授業の到達目標

- ・子どもの「食」が生涯にわたる健康と生活の基礎になることを理解し、説明することができる。
- ・乳幼児期の発育・発達と食生活について学び、保育者としての関わり方を思い描くことができる。
- ・体調不良、食物アレルギー、障がいのある子どもに対する食生活における対応の基本を説明できる。
- ・児童福祉施設の給食ならびに給食時の保育者が果たす役割を理解し、自身の実生活に応用できる。
- ・食育の必要性、基本と内容を理解し、食育のための環境づくりに参加することができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	幼児期の心身の発達と食生活①	テキストの第6章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第2回	幼児期の心身の発達と食生活②	インターネットを用いて幼児期の食生活上の課題とその対処法について調べ、自身の考えを含めてまとめておく（1時間）。
第3回	幼児期の食事の実際① 幼児食の実習	幼児期の咀嚼機能、摂食機能の発達についての理解を深める（1時間）。
第4回	幼児期の食事の実際② 望ましい間食の実習	幼児期の間食の意義についての理解を深める。間食の与え方について確認する（1時間）。
第5回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良や疾患、障害への対応	テキストの第11章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第6回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーへの対応	テキストの第12章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第7回	幼児期の食事の実際③ 食物アレルギーに対応した間食の実習	食物アレルギーについての理解を深める。保育・教育施設と家庭における、食物アレルギーの対応の違いをまとめておく（1時間）。
第8回	家庭や児童福祉施設における食と栄養	テキストの第10章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第9回	学童期・思春期の心身の発達と食生活	テキストの第7章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第10回	成人期・老年期の栄養と食生活	テキストの第8章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。
第11回	食育の基本と内容① 食育の推進施策	テキストの第9章を熟読し、不明な点を明確にしておく。また、キーワードを中心に内容を整理しておく（1時間）。

第12回	食育の基本と内容② 食育実践の事例	インターネットを用い、保育・教育現場で実践されている食育事例を複数調べ、まとめておく（1時間）。
第13回	食育の実践① 食育発表会	発表の準備をする（1時間）。
第14回	食育の実践② 食育発表会	発表の準備をする（1時間）。
第15回	まとめ：試験（学習内容の振り返り）の実施と解説	試験に備え、全ての授業回で扱った内容について復習し、知識を定着させる（1時間）。
テキスト 太田百合子、堤ちはる編著 『子どもの食と栄養 第2版～保育現場で活かせる食の基本』 羊土社		
参考書・参考資料等 授業内で提示		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 実習時に作成するレポートについては、添削したうえで翌週以降の授業期間中に返却する。 食育発表会の内容については、授業時間内に講評を行う。		
学生に対する評価 授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度（20%）、レポート（20%）、制作物（10%）、筆記試験（50%）の総合評価を行う。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名
乳児保育Ⅰ (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期		渡邊 悦子 石田 みどり 佐野 眞弓
授業の概要 乳児保育の意義を理解します。 乳児保育のおこなわれる場における現状と課題、心身の発達について学び、3歳未満児の具体的な保育内容運営体制などを理解します。 また、乳児保育は、職員間の、保護者、関連機関との連携の下に行われる大切さを理解します。 講義科目ですが、各教員の実務経験を生かした演習授業も取り入れることで、学びを多面的に見ること、考えることの大切さを学びます。						
授業の到達目標 乳児保育に必要な基本的な知識と技術を習得します。 人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもと関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。 本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術を持った、望ましい保育者のあり方を学びます。 また前期講義科目・乳児保育Ⅰと後期演習科目・乳児保育Ⅱを修得した時点では、自分で決めたテーマ(乳児保育の課題の中で)について、レポートのまとめを通し各自発表できることを目指します。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	ガイダンス 授業内容、評価方法、授業の進め方等、 当授業を学ぶにあたっての必要事項 乳児保育の実際(DVD)	事前：シラバスを読み不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業を振り返り、必要な教材(ノート・レポート用紙等)を準備しておく(2時間)				
第2回	乳児保育の基本的考え方 乳児保育の歩み 乳児保育の現状と課題	事前：テキストP1-12まで読み内容を確認する(2時間) 事後：配布された資料を通し、学習内容を深め感想を記入しておく(2時間)				
第3回	乳児保育の基本① 保育の計画と乳児保育	事前：テキストP13-18まで読み不明な点を明らかにしておく(2時間) 事後：保育所保育指針解説p89-181を読んでおく(2時間)				
第4回	乳児保育の基本② 保育士の専門性と実践力	事前：テキストP19-42まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)				
第5回	乳児保育の基本③ 保育士の専門性、子育て支援と関連機関との連携	事前：テキストP19-42まで読み内容を理解する(2時間) 事後：保育所保育指針解説P329-344を読んでおく(2時間)				
第6回	乳幼児期の心身の発達① DVD(発達を理解する)	事前：テキストP52-55まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習とDVDの感想を書き、次回提出する(2時間)				
第7回	乳幼児期の心身の発達② 胎児期の育ち	事前：テキストP54を読み不明な点を明確にしておく(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)				
第8回	乳幼児期の心身の発達③ 身体及び運動の発達	事前：テキストP56-60まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)				

第9回	乳幼児期の心身の発達④ 認知の発達	事前：テキスト P61-70 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)
第10回	乳幼児期の心身の発達⑤ 人間関係の発達	事前：テキスト P71-80 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)
第11回	乳幼児期の心身の発達⑥ 言葉とコミュニケーションの発達	事前：テキスト P81-89 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)
第12回	乳幼児の心身の発達⑦ 自己意識の発達	事前：テキスト P90-95 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習をしてノートにまとめる(2時間)
第13回	乳児保育の実際① 0歳児の保育(中村愛児園の保育を通して)	事前：テキスト P43-51 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習とポイントの整理をしてノートにまとめる(2時間)
第14回	乳児保育の実際② 1、2歳児の保育(中村愛児園の保育を通して)	事前：テキスト P43-51 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：授業内容の復習とポイントの整理をしてノートにまとめる(2時間)
第15回	乳児保育の実際③ 中村愛児園見学・観察実習に向けての課題作成	事前：テキスト P43-51 まで読み内容を理解する(2時間) 事後：見学・観察実習の事前レポートを完成させる(2時間)
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 萌文書林 ・必要に応じて授業内で資料を配布 		
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・保育用語辞典 ・保育・教育実践演習 第2版 第10の扉 		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 		
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、参加度、課題の提出等、授業に積極的に取り組む姿勢(50%) ・筆記試験の成績(50%)の総合評価 		
<p>実務経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐野 眞弓(保育所の保育士・園長 幼稚園の幼稚園教諭・園長 幼保連携型子ども園の園長) ・渡邊 悦子(大学病院の看護師・助産師) ・石田 みどり(保育所の保育士・現職園長) 		
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中に、実務経験を生かした事例を含める。 ・教員が、それぞれの実務経験を生かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に掲示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する。 		

授業科目名 乳児保育Ⅱ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 渡邊 悦子 石田 みどり
	選択		必修	開講期： 1学年 後期		
授業の概要 乳児保育の意義を理解し、乳児保育に必要な知識と技術を、講義・演習を通して具体的に学びます。 また、保育園での乳児保育の実際を見学・観察することや、ポスター発表等の活動を通して、乳児保育の内容や乳児保育の場における現状や課題について、積極的に考えていきます。 各教員の実務経験を生かした授業の中で、多面的に見ることの大切さを学びます。						
授業の到達目標 人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもと関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。 本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と確かな知識と技術を持った、望ましい保育者のあり方について知り、学びの一部を説明できる。 乳児保育に必要な基本的な知識学び、人形等を用いて保育に必要な技術の実践ができる。 また、前期科目・乳児保育Ⅰと後期科目・乳児保育Ⅱを習得した時点で、自分で決めたテーマ(乳児保育の課題の中で)についてレポートにまとめ発表できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ③						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	中村愛児園見学・観察 乳児保育の実際に触れる			事前：自分の学びたい視点をまとめておく(1時間)		
第2回	中村愛児園見学・観察 乳児保育の実際に触れる			事前：自分の学びたい視点をまとめておく(1時間)		
第3回	保育園見学・観察のまとめ			事前：園での学びをまとめ発表できるようにしておく(1時間)		
第4回	乳児保育の援助の実際① 講義 排泄 清潔			事前：テキストのP175-178、184を読み演習内容を確認する(1時間)		
第5回	乳児保育の援助の実際② 演習 おんぶ 抱っこ ⇔ 事例の読み取り			事前：テキストのP143-144を読み演習内容を確認する(1時間)		
第6回	乳児保育の援助の実際③ 演習 おむつ替え、授乳 ⇔ 事例の読み取り			事前：テキストのP165-178を読み演習内容を確認する(1時間)		
第7回	乳児保育の援助の実際④ 演習 沐浴 着替え(新生児) ⇔ 乳児の絵本			事前：テキストのP181-190を読み演習内容を確認する(1時間)		
第8回	乳児保育の援助の実際⑤ 講義 沐浴 着替え(新生児) ⇔ 乳児の絵本			事前：テキストのP181-190を読み演習内容を確認する(1時間)		
第9回	乳児保育の援助の実際⑥ 講義 食事 睡眠			事前：テキストのP167-174を読み演習内容を確認する(1時間)		
第10回	乳児保育の援助の実際⑦ 講義 演習 安心、安全、環境整備			事前：テキストのP155-158、191-192を読み内容を確認し不明な点を明確にする(1時間)		
第11回	乳児保育の援助と実際⑧ 講義、演習 保護者との連携、守秘義務			事前：テキストのP149-154を読み内容を確認し不明な点を明確にする(1時間)		
第12回	乳児保育のまとめ DVD			事前：11回までのノートを確認し不明な点を確認する(1時間)		

第13回	レポート作成① 各自テーマを決め、図書室及びインターネットで調べる	事前：取り上げたいテーマと理由を考えてくる(1時間)
第14回	レポート作成② グループディスカッションまたは個人ワーク 前回の続き	事前：レポートの内容を確認し、本目取り組む内容を明確にする(1時間)
第15回	レポート発表③ 発表	事前：発表できるよう準備してくる(1時間)
テキスト 茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌文書林		
参考書・参考資料等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・ 保育用語辞典 		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 		
学生に対する評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度、参加度、課題の提出等、授業に積極的に取り組む姿勢（50％） ・ 課題レポートの成績（50％） 		
実務経験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡邊 悦子（大学病院の看護師・助産師） ・ 石田 みどり（保育園の保育士・現職園長） 		
実務経験を活かした教育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の中に、実務経験を生かした事例を含める。 ・ 教員が、それぞれの実務経験を生かした視点で、理論、技術及び心根を、講義、演習の中に提示することで、多面的、主体的に考えられる授業を展開する。 ・ 石田園長の在職園での乳児保育見学、観察を通し、乳児と一緒に過ごすことで、興味や関心を持つ。 		

授業科目名 保育の心理学（発達） （専門教育科目）	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 前期	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤寛之
---------------------------------	----------	----------	-----------	-------------------------------------	---------------	---------------

授業の概要

乳幼児の心身の発達過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる知識、考え方を身につけ、理解する。具体的には、発達の定義、関連概念、発達の規定因、発達の方向性等、発達の特徴・特質、発達段階と発達課題の考え方について理解し、愛着と人間関係の発達、心身の機能と遊びの発達、言語、思考の発達、自我、自己概念の発達、社会性の発達、道徳性の発達について学ぶ。発達の個人差、多様性を理解する。

授業の到達目標

①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用なども含めて、発達に関する代表的理論を学ぶことを通して、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解するとともに、②乳幼児期から青年期の各時期、特に乳幼児期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学習することにより、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することができるようになる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	<p>発達とは① 発達の定義とその規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達段階、生涯発達の考え方 「発達の定義、発達の特徴、発達段階について理解する」</p> <p>※各回の授業は、原則的に、事前学習を前提に、事前（準備）・事後学習の内容欄に記載したテキスト、授業用の資料を使用して、事項等について解説をしていく形式で進める。</p>	<p>初回の準備学習（2時間以上）としては、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、子どもの日々の変化、年齢によってできることの違いを観察しておく。発達とは何か、各自で調べておく。 事後学習（4時間）：課題「テキスト①のp.3「まえがき」、第1章Pp.10-12「発達とは」、幼稚園教育要領解説（平成30年3月）序章Pp.13-17「(2)幼児期の発達」、第1回～第4回用資料の内、第1回用資料（発達の定義について）と授業内容に基づいて、発達の定義と発達の特徴についてまとめる。」</p> <p>※毎回の授業時に、その授業内容のまとめ、事後学習と、次回の学習事項に関する準備学習等について指示していくので、それに基づき、毎回、各自、事後学習・課題学習に取り組み、次回の準備学習を行う。特に、事後学習・課題学習においては、これまでの学習内容を他教科での学び、自身の体験、考え等と照合していくことを通して、発達の意味、子どもの発達していく過程の全体像の構築を図るようにする。</p>
第2回	<p>発達とは② 発達の特徴・特質、ヒトの発達の特殊性・特殊性 「発達の規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達初期におけるヒトの特殊性、初期経験が及ぼす影響について理解する」</p>	<p>準備学習（2時間）：テキスト①の2章23～34ページ「遺伝と環境」と第1回～4回用配布資料の第2回目用資料を熟読しておく。 事後学習（4時間）：課題①「発達に遺伝と環境がどのように影響するかについて簡単にまとめる。」 課題②「初期経験の重要性という観点から発達初期におけるヒトの特殊性についてまとめる。」</p>
第3回	<p>発達の諸理論 発達理論の変遷、ピアジェ、ヴィゴツキーの発達説等、発達と成熟、レディネス、学習、文化との関係性 「発達の諸理論と発達を理解するための用語を理解する」</p>	<p>準備学習（2時間）：第1回～第4回用配布資料の内、第3・4回用資料を熟読しておく。 事後学習（4時間）：課題「ピアジェの発達に関する基本的な考え方、ヴィゴツキーの発達に関する基本的な考え方についてまとめる。」</p>
第4回	<p>発達課題、発達段階と発達課題；ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論等 発達段階と発達課題、愛着と依存の違い、愛着と人間関</p>	<p>準備学習（2時間）：テキスト①の2章「発達課題」の内、13～22ページと第1回～第4回用資料の内、第3・4回用資料を再度熟読しておく。</p>

	<p>系の発達</p> <p>「ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論、愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響について理解する」①</p>	<p>事後学習 (4 時間) : 課題「ハヴィガーストの発達課題の定義と成人前期にいたるまでの重要な発達課題についてまとめる。」</p>
第5回	<p>愛着と人間関係の発達 愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響</p> <p>「ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論、愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響について理解する」②</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト①の3章「愛着と親子関係」の p. 36~p. 43 と1章「発達課題」 p. 17 を熟読しておく。また、第1回~第4回用資料の内、第3・4回用資料を再度読み直しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「エリクソンのいう基本的信頼感の獲得形成とポウルピの愛着の形成との循環的関係性についてまとめる。」</p>
第6回	<p>心身の機能と遊びの発達 I-1</p> <p>心身の機能の発達 (概要チャート) 心身の機能発達の相互関連性</p> <p>「乳幼児期の発達」「0歳から6歳 (乳児期、幼児期) の発達の概要を把握する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:「表1 0歳から6歳の発達過程 (おおまかなみちすじと特記事項)」を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「表1 0歳から6歳の発達過程 (おおまかなみちすじと特記事項) を表1-1・表1-2に転記し、理解して覚える。」</p>
第7回	<p>心身の機能と遊びの発達 I-2</p> <p>「身体運動機能の発達について理解する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表2「身体運動機能」を基軸とした発達過程を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表2「身体運動機能」を基軸とした発達過程を表2-1・2-2に転記し、理解して覚える。」</p>
第8回	<p>心身の機能と遊びの発達 I-3</p> <p>人間関係の発達、自己概念の発達 自他の分化、名前の認識、性同一性、自尊心、社会的自己、自己主張と自己抑制の発達</p> <p>「人間関係と自我・自己の発達について理解する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表3「人間関係」と「自我・自己」を基軸とした発達過程を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表3「人間関係」と「自我・自己」を基軸とした発達過程を、表3-1・3-2に転記し、理解して覚える。」</p>
第9回	<p>心身の機能と遊びの発達 I-4</p> <p>思考・知能の発達 表象能力の発達、操作的思考・知能の発達</p> <p>「知覚、言語、思考等認知機能の発達について理解する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表4「認知機能」を基軸とした発達過程を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「テキスト②の第10の扉「0歳から6歳までの心理と発達」の理解:表4を表4-1・4-2に転記し、理解して覚える。」</p>
第10回	<p>心身の機能と遊びの発達 II-1</p> <p>遊びの理論、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度と遊びの発達</p> <p>「遊びの理論、遊びの価値、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度の遊びの発達について理解する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト①の4章「遊びの発達」の Pp. 48-53 を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「テキスト①の Pp. 48-53 の内容を内、遊びの理論、遊びの価値、遊びの特性についてまとめる。」</p>
第11回	<p>心身の機能と遊びの発達 II-2</p> <p>遊びから課題活動の発達へ (乳児期)</p> <p>感覚運動的遊びの発達</p> <p>「興味の変化による遊びの発達」I 「興味の変化 (動機づけ) と遊び、種々の能力 (心身の機能) の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト①の4章「遊びの発達」の p. 54 (特に表4-6) に関する記述を再読しておく。第10~12回用資料 (Pp. 1-7)、第10~13回用資料 (p. 8) 遊びの発達・発展 (発達図) を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4 時間) : 課題「乳児期における思考・知能と遊びの発達についてまとめる準備をする。」</p>
第12回	<p>心身の機能と遊びの発達 II-3</p> <p>遊びから課題活動の発達へ (幼児前期、幼児後期)</p> <p>機能遊び、象徴/見立て遊び、構成遊び、ごっこ遊びなど</p>	<p>準備学習 (2 時間) : テキスト①の4章「遊びの発達」の p. 54 (特に表4-6) と1章「発達課題」の p. 19「自主性 幼児後期の発達課題」(ごっこ遊び</p>

	「興味の変化による遊びの発達」Ⅱ 「興味の変化(動機づけ)と遊び、種々の能力(心身の機能)の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」 遊びから課題活動の発達へ(幼児後期以降)	の発達に関する記述)を再読しておく。第10～13回用資料(Pp.1-7)、第10～13回用資料(p.8)遊びの発達・発展(発達図)を再読しておく。 事後学習(4時間):課題「幼児前期、幼児後期における遊びと課題活動の発達(機能遊び、象徴遊び、ごっこ遊び、構成遊び、忍耐遊び、競争遊びの発達)についてまとめを進める。」
第13回	心身の機能と遊びの発達Ⅱ-3 遊びから課題活動の発達へ(乳児期～幼児後期以降) 構成遊び、忍耐遊び、競争遊び、規則遊び、練習行動、自尊心の発達と課題意識の発達 「興味の変化による遊びの発達」Ⅱ 「興味の変化(動機づけ)と遊び、種々の能力(心身の機能)の発達との関係性について理解する。遊びから課題活動へとつながる発達の流れを理解する」	準備学習(2時間):テキスト①の4章「遊びの発達」のp.54(特に表4-6)と1章「発達課題」のp.19「自主性 幼児後期の発達課題」(ごっこ遊びの発達に関する記述)を再読しておく。第10～13回用資料(Pp.1-7)、第10～13回用資料(p.8)遊びの発達・発展(発達図)を再読しておく。 事後学習(4時間):課題「乳児期～幼児期における遊びと課題活動の発達(機能遊び(破壊遊びも含まれる)〔感覚運動遊び〕、象徴遊び(虚構遊び/見立て遊び)、ごっこ遊び、構成遊び、忍耐遊び、競争遊び、課題意識・課題活動等の発達)についてその流れが理解できるようにまとめる。」
第14回	幼児期の発達の特徴 社会性、向社会性、規範意識の発達と諸機能の発達との関連性、視点取得能力の発達 「幼児期の発達の特徴と、ピアジェの「三つ山問題」を使った実験結果(教科書:個人で課題に取り組んだ場合)を理解する」	準備学習(2時間):テキスト①の10章「ことばの発達」(特に、Pp.121-128)、11章「認知機能の発達」(特に、Pp.133-136)を熟読しておく。 事後学習(4時間):課題「ピアジェ、ヴィゴツキーの発達観の差異を再考しつつ、幼児期の発達の特徴についてまとめる。」
第15回	他者との関わりによる発達の促進現象 社会的-認知的葛藤(Socio-Cognitive Conflict)の影響 「社会的-認知的葛藤(Socio-Cognitive Conflict)の影響:視点取得能力の発達について、ピアジェの「三つ山問題」を使った実験結果(教科書:個人で課題に取り組んだ場合)とミニユイらの実験結果(第15回用資料:2人で協同して課題に取り組んだ場合)を比較することで、知的機能などの発達にどのような影響が生じる可能性があるのかを理解する」	準備学習(2時間):テキスト①の10章「ことばの発達」(特に、p.121, p.128)、11章「認知機能の発達」(特に、p.133～p.135, p.136)を熟読しておく。第1回～第4回用配布資料の内、第2回用資料を再度読み直し、さらに、第15回用配布資料p.1～p.3を熟読しておく。 事後学習(4時間):課題「視点取得能力の発達について、テキスト①P.136記載の「三つ山問題」を使った実験結果とミニユイらの実験結果を比較することで、子ども同士の関わり、集団活動が発達に及ぼす可能性について自分の考えも含めてまとめる。」
テキスト		
① 新井邦二郎 編著『図でわかる発達心理学』福村出版 ② 佐藤寛之他 編著『保育・教職実践演習—子どもによりそう保育とその学びの総合性—』(第2版改訂) 横浜女子短期大学 ※ 説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。		
参考書・参考資料等		
小田豊・森真理 編著『子どもの発達と文化のかかわり』光生館 文部科学省 編 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 ※別途参考書を授業の中で紹介する。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法		
授業で行う課題学習については、原則として、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価		
課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(32%)と提出課題(68%)の総合評価		

授業科目名 保育の心理学 (学習) (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 必修	保育士 本学 指定	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：1学年 後期	學術 ・ 実務	担当教員名 佐藤 寛之
授業の概要 本授業では、現代社会に対応した学習能力の育成という観点から、幼児理解の基礎としての観察、学習と知能の理論、適性処遇交互作用と教授学習理論、特にアクティブ・ラーニングと、その基礎となる学習に関わる動機づけの概念、集団づくり、評価と、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
授業の到達目標 幼児教育・保育実践に必要と考えられる、現代社会に対応して生きていくために必要と考えられる学習能力育成のために、学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的考え方を理解できるようになる。より具体的には、①様々な学習の形態や概念、その過程を説明する代表的理論の基礎について学習する中で、②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方等を発達の特徴と関連付けて理解できるようになり、③乳幼児、児童の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPII③						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前 (準備) ・事後学習の内容		
第1回	<p>教育と心理学の関係性①</p> <p>教育心理学とは</p> <p>教育心理学：発達と教育、学習の関係性</p> <p>教育心理学の3つのとらえ方：①心理学の基礎研究を教育に応用するという考え方、②教育現象を研究する心理学という考え方、③心理学的見方を通して教育に貢献するという考え方</p> <p>実用主義に根ざす心理学 (教育に役立つという観点の重要性)</p> <p>「心理学は、教育にどのように貢献してきたのか、どのように貢献できるのかについて理解する。」</p> <p>※各回の授業は、原則的に、事前学習を前提に、事前 (準備) ・事後学習の内容欄に記載したテキスト、授業用の資料を使用して、事項等について解説をしていく形式で進める。</p>			<p>初回の事前学習 (2時間以上) としては、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、1年次教育実習では、子どもの発達の様子・年齢による違いと、保育者の子どもへの関わり方を観察しておく。保育の心理学 (発達) の内容を復習しておく。子どもに自信、意欲を持たせる関わり方について事前に調べ、自分なりに有効と思える方法を考えておく。</p> <p>事後学習 (4時間)：課題「心理学は、教育にどのように貢献できるのかについてまとめる。」</p> <p>※毎回の授業時に、事後学習と、次回の学習事項に関する準備学習等について指示していくので、それに基づき、毎回、各自、事後学習・課題学習に取り組み、次回の準備学習を行う。特に、事後学習・課題学習においては、学習内容を、他教科での学び、自身の体験、考え等と照合していくことを通して、学びの統合化を図るように努める。</p>		
第2回	<p>教育と心理学の関係性②</p> <p>教育活動にみる子ども理解</p> <p>知識中心の教育から思考・体験中心の教育へ</p> <p>教師主導型の指導から援助的指導へ</p> <p>子どもが個性を生きるための教育活動へ</p> <p>心理学的知見と教育活動</p> <p>「現代日本の教育の有り様と心理学の関係を知る」</p>			<p>事前学習 (2時間)：テキストの第1章「子どもが充実した学校生活を送るために」Pp. 2-16を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4時間)：課題「授業、テキスト第1章を参考に、現代日本の教育の有り様をまとめる。その際、『子どもの理解』という観点から、教育に対して心理学、心理学の知見をどのように役立てたらよいか、自分の考えることも含めてまとめる。」</p>		
第3回	<p>学習理論：学習の基礎様式</p> <p>学習の最適化について：一般的法則性と個人差</p> <p>心理学の基礎研究の教育への応用例：プログラム学習の原理と現代教育学：ICTの進化とプログラム学習</p> <p>教育現場を研究した心理学の例：有意味受容学習</p>			<p>事前学習 (2時間)：テキストの第3章1.「知識を獲得し理解する」と、2.「新しい行動を形成し、自動化する」Pp. 49-61を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4時間)：課題「学習の基礎様式、プログラム学習の原理、ICTの進化と結びついたプログラム学習についてまとめる。」</p>		
第4回	<p>さまざまな指導法を探る</p> <p>一斉学習、バズ学習、オープン教育、発見学習、視聴覚教育、メディア教育、体験学習、アクティブ・ラーニング：問題解決技能の育成を図る主体的学習</p>			<p>事前学習 (2時間)：テキストの第3章4.「さまざまな指導法を探る」のp. 68～p. 72を熟読しておく。</p> <p>事後学習 (4時間)：課題「一斉学習、バズ学習、オープン教育、発見学習、視聴覚教育、メディア教育、</p>		

		体験学習、アクティブ・ラーニングの特徴、長所、短所についてまとめる。」
第5回	適性処遇交互作用 (ATI) 処遇と個人の適性・特性の組み合わせがもたらす学習効果の差異 クローンバックのATI、サロモンのATIの3モデル分類: 特惠モデル、治療モデル、補償モデル 「個に応じた目標を効果的に達成する、教育効果を最適化する、最大化するとはどういうことなのか。適性処遇交互作用について理解する。」	事前学習 (2時間): テキストの第3章5. 「個に応じた目標を効果的に達成する」 Pp. 77-81 を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「適性処遇交互作用 (ATI) についてまとめる。特に、サロモンのATIの3モデルのそれぞれが、目的とすること、最適化を図ろうとするものは何であるのかをまとめ、保育・幼児教育において活用すべきATIモデルを考察する。」
第6回	動機づけと学習① 欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程の関係性、動機付けとしての自尊感情 (self-esteem) 社会的比較: 物理的現実・真実と社会的現実・真実 期待効果=予言の自己成就/自己成就的予言、ピグマリオン効果とは何か	事前学習 (2時間): 第6-8回用資料①「動機づけ (motivation)」 (Pp. 1-6)、第6-8回用資料②「ピグマリオン効果」 (Pp. 1-2) を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程の関係性、動機付けとしての自尊感情、社会的比較、物理的現実と社会的真実についてまとめる。」
第7回	動機づけと学習② 期待がもたらす効果について、「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について 教室場面におけるピグマリオン効果に関する実演、実験: ①偏見の形成の実演: 負の期待の自己成就/社会的現実・真実の構成	事前学習 (2時間): 第6-8回用資料① (Pp. 1-6)、第6-8回用資料② (Pp. 1-2) を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について、期待の自己成就をもたらす媒介的要因と子どもの自己認知の変化の過程についてまとめ、保育の際に「期待」がもたらす効果・影響、注意点を考察する。」
第8回	動機づけと学習③ 動機付けと期待 教室場面におけるピグマリオン効果に関する実演、実験: 正の期待の自己成就/②教師期待効果、③ジグソー学習 ピグマリオン効果、教師期待効果において期待が自己成就する媒介的要因の影響と自己認知の変容のプロセスについて 一般的期待と個別的期待、保育・教育における期待の影響、子どもに対する期待	事前学習 (2時間): 第6-8回用資料① (Pp. 1-6)、第6-8回用資料② (Pp. 1-2) を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「期待効果」とは何か、「ピグマリオン効果」とは何か、「教室におけるピグマリオン効果 (教師期待効果)」について、期待の自己成就をもたらす媒介的要因と子どもの自己認知の変化の過程、子どもと接するときに「期待」を持つことの効果・影響、注意点をまとめる。」
第9回	動機付けと学習④ 達成動機づけ—成功追求動機と失敗回避動機、自己決定理論、学習の統制感 帰属とは何か: ハイダー (1954, 1958) の原因帰属の考え方: 素朴心理学者としての人、レビンの公式と原因帰属 原因帰属の歪み: 基本的帰属錯誤とは、原因帰属と自尊維持・高揚バイアス/自己奉仕バイアス: 自尊感情と原因帰属の関連性、観察者と行為者での原因帰属の差異 (視点と原因帰属)、保育者として心がけるべき点とは ロッター (1966) の統制 (原因) の位置 (locus of control)	事前学習 (2時間): 第9-12回用資料「帰属過程」 (Pp. 1-6)、テキスト第3章3. 「学ぶ行動を動機づけ、意欲を高める」 Pp. 63-68 の内、「(2) 成功・失敗の原因帰属と学習意欲の関係」、「(3) 学習意欲を高める工夫」の節を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「原因帰属、原因帰属の歪みについてまとめ、視点の違いと自尊感情の影響を踏まえて、保育者としてどのようなことを心がけて子どもの言動を捉え、関わる必要があるかまとめる。」
第10回	動機付けと学習⑤-1 帰属と動機づけ—ワイナーの原因帰属の2次元、3次元モデル (1972, 1979) 統制 (原因) の位置、原因の安定性、原因の統制可能性、原因帰属の仕方と感情の関係性	事前学習 (2時間): 第9-11回用資料「帰属過程」 (Pp. 1-6)、テキスト Pp. 63-68 の「(2) 成功・失敗の原因帰属と学習意欲の関係」、「(3) 学習意欲を高める工夫」の節を熟読しておく。 事後学習 (4時間): 課題「①ワイナーの原因帰属の三次元モデルについて説明し、原因帰属の仕方によって生じる感情の違いをまとめる。」
第11回	動機づけと学習⑤-2 帰属と動機づけ—「学習された無力感」、原因帰属の誘導による「学習された無力感」の克服、自己効力感の育成	事前学習 (2時間): 第9-11回用資料 (Pp. 1-6)、テキストの Pp. 63-68 の「(2)」、「(3)」の節を再読、テキストの Pp. 204-205 を熟読しておく。

	②セリグマンの「学習された無力感」と「学習された楽観主義」、③無気力な状態から脱却させるためのドウェックの「帰属訓練」、バンデューラの「自己効力感」の考え方、④原因帰属の仕方を誘導することと、「自己効力感」を育てることのどちらが、子どもの意欲を育てるうえで重要なのか、⑤固定的能力と拡張的能力：暗黙の能力観の変容と内発的動機付け	事後学習（4時間）：課題「②セリグマンの「学習された無力感」、無気力な状態から脱却させるためのドウェックの「帰属訓練」、バンデューラの「自己効力感」についてまとめ、④最後に、②のように原因帰属の仕方を導くことと、③のように「自己効力感」を育てることのどちらが、子どもの意欲を育てるうえで重要だと思うか、テキストの記述内容を踏まえ、自分の考えをまとめる。」
第12回	保育内容を多重知能理論の枠組で捉え直してみる：コンピテンシー・ベイズ保育／教育のさらなる実現に向けて 知能・能力の諸理論：知能の三部理論と多重知能理論 多重知能＝独立的な8つの知能と発達個人差、能力のプロフィール：発達障害も、天才も含めた多様性、多重知能と脳、多重知能と専門職者	事前学習（2時間）：第12-14回用資料①「頭が良いとはどういうことか」、第12-14回用資料②「保育現場における科学的思考とその根拠に関する研究～5領域を超えて～」(Pp. 1-21)を熟読しておく。 事後学習（4時間）：課題「多重知能理論、8つの多重知能の概要・特性、対応する専門職等についてまとめる。また、保育専門職者として育むべき、重要度の高い多重知能の組合せについて考察する。」
第13回	保育内容を多重知能理論の枠組で捉え直してみる：コンピテンシー・ベイズ保育／教育のさらなる実現に向けて ①コンピテンシー・ベイズ保育／教育とコンテンツ・ベイズ保育／教育の違い、②幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿：発達課題／コンピテンシー ③-1 保育内容5領域と8つの多重知能の発達・伸張の関係：多重知能の発達・伸張に関連する保育場面での遊びと対応する保育内容の5領域の例	事前学習（2時間）：第12-14回用資料①、第12-14回用資料② (Pp. 1-21)、保育所保育指針の「育みたい資質・能力」(Pp. 60-61)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(Pp. 62-83)を再読しておく。 事後学習（4時間）：課題「育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と多重知能の対応づけを授業・資料を参考にまとめる。」
第14回	保育内容を多重知能理論の枠組で捉え直してみる：コンピテンシー・ベイズ保育／教育のさらなる実現に向けて ③-2 保育内容5領域と8つの多重知能の発達・伸張の関係：多重知能の発達・伸張に関連する保育場面での遊びと対応する保育内容の5領域の例（続き）	事前学習（2時間）：第14回の事前学習と同じ 事後学習（4時間）：課題「3つ以上の多重知能について、その伸張をもたらす保育場面での遊びと保育内容5領域の対応例をまとめる。」
第15回	カウンセリング・マインド：寄り添い発達成長を見守る教育・保育 カウンセリング・マインドとは：教師・保育者に求められる特質・条件、子どもの感情、考え、人格を尊重し、自己成長力を育む子どもとのかかわり方 カウンセリング・マインドの効用と対人的技能 人間性心理学 (Humanistic Psychology) から見た望まれる教師・保育者像 まとめと課題	事前学習（2時間）：テキストの「来談者中心カウンセリング」Pp. 168-170と、「カウンセリング・マインド：教師と子どもの望ましい関係形成のために」Pp. 180-182の箇所を熟読しておく。 事後学習（2時間）：「日本でカウンセリング・マインドという呼び方で普及しているロジャース（1983）の教師・保育者に求められる3条件についてまとめる。さらに、このカウンセリング・マインドがもたらす効用、カウンセリング・マインドの3条件を備えた教師・保育者の対人的技能の特徴をまとめ、保育者となるための自分自身の課題を明確にする。」
テキスト 藤土圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房 ※説明用資料、学習教材、学習課題を授業内で配布。		
参考書・参考資料等 厚生労働省 編 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館 渡部雅之・豊田弘司 著『教育心理学Ⅰ：発達と学習』サイエンス社 ※別途参考書を授業の中で紹介する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 授業で行う課題学習については、原則として、授業時間内で解説と講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（32%）と提出課題（68%）の総合評価		

授業科目名 子ども家庭支援の心理学 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 鈴木 淳子
	選択		必修	開講期：2学年 前期		

授業の概要

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
2. 初期経験の重要性、発達課題、各時期の移行等について理解する。
3. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
4. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
5. 子どもと養育者の精神保健とその課題について理解する。

授業の到達目標

- ・ 子育てに関わる諸問題について知り、真摯に向き合っていくことができる。
- ・ 親子関係・家族関係の重要性と子どもの発達に与える影響について理解し、子育て支援に活かすことができる。
- ・ 乳幼児期から老年期に至るまでの生涯発達の過程を理解し、育児不安に陥る養育者の心の問題に向き合い、子どもを中心とした家庭支援の在り方について考えることができる。
- ・ 子どもと養育者の心をケアし子育てを支えるための方法について具体的に考えることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ②, DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	授業オリエンテーション(授業方針等の説明) 発達Ⅰ：乳児期の発達	事前学習：乳児期についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第2回	発達Ⅱ：幼児期の発達	事前学習：幼児期についての課題をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第3回	発達Ⅲ：学童期の発達	事前学習：学童期についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第4回	発達Ⅳ：青年期の発達	事前学習：青年期についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第5回	発達Ⅴ：成人期・中年期の発達	事前学習：成人期についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第6回	発達Ⅵ：老年期の発達	事前学習：老年期についての課題をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第7回	家族・家庭の機能	事前学習：家族についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する(2時間)
第8回	家族関係・親子関係	事前学習：親子関係についての自分の知識をまとめておく(2時間)。事後学習：授業内

		容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 9 回	子育てと親の育ち	事前学習：子育てについての自分の知識をまとめておく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 10 回	子育て環境	事前学習：社会的環境についての自分の知識をまとめておく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 11 回	ライフコースとジェンダー	事前学習：エリクソンについての自分の知識をまとめておく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 12 回	様々な家庭の理解	事前学習：テキスト第 12 章をよく読んでおく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 13 回	特別な配慮が必要な家庭	事前学習：特別な配慮についての自分の知識をまとめておく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 14 回	子どもの生活と環境の理解	事前学習：テキスト代 14 章をよく読んでおく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
第 15 回	子どもの健康	事前学習：子どもの健康についての自分の知識をまとめておく (2 時間)。事後学習：授業内容を振り返り、授業内容を整理する (2 時間)
<p>テキスト 白河佳子・福丸由佳 (編) 公益財団法人児童育成協会 (監) 「子ども家庭支援の心理学」中央法規, 2020 年</p>		
<p>参考書・参考資料等 本郷一夫・神谷哲司 (編著) 「子ども家庭支援に心理学」建帛社, 2019 年, 青木紀久代 (編) 「子ども家庭支援の心理学」 未来, 2021 年, 他</p>		
<p>課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中に課したレポートに対しては、次回授業時間においてフィードバックを行う。 課題等の内容は授業時間内での相互閲覧・共有を可能にし、講評を行う。 		
<p>学生に対する評価 レポート・定期試験 70%、授業参加 30%、提出物</p>		

授業科目名 子どもの理解と援助 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 小林 聡子
	選択	必修	必修	開講期：1 学年 後期		

授業の概要

子どもの行為や表現する事柄にもとづいて子どもを理解する方法や保育者としての対応の仕方を具体的な事例を用いて学ぶ。また、記録をもとにした子ども理解の基礎的な方法と視点を学習する。さらに、子どもを取り巻く家庭・園・地域などの環境と子ども理解についての関連性について理解し、教育相談にて心理臨床に従事してきた担当教員と実際的な子どもの育ちと子育てを支援する方法について考えていく。

授業の到達目標

保育における「子どもを理解する」ことが、保育者の子どもへの「援助」にどのように関係してくるのか、理解を深めるために、必要な知識を習得し、自分自身で考えることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	保育における「子ども理解」とは	事前学習：第一章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第2回	子どもを取り巻く環境の理解① ブロンフェンブレナーの生態学モデル、地域環境について	事前学習：第二章前半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、課題を作成(2時間)
第3回	子どもを取り巻く環境の理解② 子どもの貧困と虐待	事前学習：第二章後半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第4回	子ども理解における発達の観点① 子どもの発達ピアジェ、エリクソンの発達理論	事前学習：第三章前半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第5回	子ども理解における発達の観点② 各年齢の発達段階に対する理解	事前学習：第三章後半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第6回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド、アサーショントレーニング	事前学習：第四章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、課題を作成(2時間)
第7回	保育における観察と記録の実際① 記録の方法を学ぶ	事前学習：第五章前半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第8回	保育における観察と記録の実際② ワーク	事前学習：第五章後半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)

第9回	記録にもとづく保育カンファレンス	事前学習：第六章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第10回	保育における個と集団の関係の理解と援助	事前学習：第七章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第11回	一人一人の子どもの特性の理解と援助 —発達に応じた援助とかがわり—	事前学習：第八章前半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、課題を作成(2時間)
第12回	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助—特別な配慮を必要とする子どもとのかがり—	事前学習：第八章後半を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第13回	関係者期間との連携 子育て支援と地域の関連専門機関との関わり	事前学習：第九章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第14回	保護者理解と援助の基本 現代の子育て環境への理解および保護者の心情への理解	事前学習：第十章を事前に読み込んでおくこと。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
第15回	まとめ(事例を用いたワーク)	事前学習：今までのプリントを確認。(2時間) 事後学習：プリントを確認し、ポイントを整理しておくこと(2時間)
テキスト 高嶋景子・砂上史子 編 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ワークや事例、課題については、授業時に解説を行うなどフィードバックする。		
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢・態度 30% 授業内課題 30% レポート試験課題 40%		
実務経験 公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事		
実務経験を活かした教育内容 検討する事例において、実務経験を活かした視点、見解を提示する。		

授業科目名 教育相談 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位 開講期：2学年 後期	学術	担当教員名 小林聡子
	選択	必修			実務	

授業の概要

保育士・幼稚園教諭が行う教育相談について、その役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎を学ぶ。カウンセリングの基礎・技法および人間理解への臨床心理学的知識を習得し、子どもおよび保護者支援への理解を深める。実際に保護者の教育相談に従事している担当教員より、配慮の必要な保護者の支援について、ロールプレイや事例を通して学ぶ。

授業の到達目標

保育士・幼稚園教諭として、子育て支援としての教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につけることができる。また、乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深め、実際の保育、相談場面に応用できる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	教育相談とは ー教育相談の役割と特徴、子どもと保護者への支援について考える	事前学習：第一章を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第2回	カウンセリング態度の基礎および技法①ー来談者中心療法について	事前学習：第五章を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第3回	カウンセリング態度の基礎および技法②ーアセスメントおよびその他の心理療法について	事前学習：第六章を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第4回	人間理解のための臨床心理学概論①ー精神障害への理解(統合失調症、うつ病、不安障害)	事前学習：プリントの該当箇所を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第5回	人間理解のための臨床心理学概論②ー精神障害への理解(パーソナリティ障害、PTSD)	事前学習：プリントの該当箇所を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第6回	子どもの発達理解ー発達段階と発達課題、感情コントロールについて	事前学習：第2章前半を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第7回	子どもの発達と臨床①ー子どもの問題行動について	事前学習：第2章後半を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)
第8回	子どもの発達と臨床②ー虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える	事前学習：事例5を熟読し、不明点を明確にしておく(2時間) 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する(2時間)

第9回	子どもの発達と臨床③ー発達障害について	事前学習：第4章前半を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第10回	配慮の必要な保護者への支援①ー障害やその傾向のある子どもをもつ保護者への支援	事前学習：第4章後半を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第11回	配慮の必要な保護者への支援②ー障害のある保護者への支援	事前学習：プリントを熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第12回	保育者の行う教育相談の具体的展開①ー事例検討を通し、教育相談の進め方について学ぶ	事前学習：第7章を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第13回	乳幼児をもつ家庭への理解ー日本の子育て環境および産後の親のメンタルヘルスについて	事前学習：第3章を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第14回	子どもの社会性を育てるーSSTなど具体的援助方法について学ぶー	事前学習：第9章を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
第15回	保育者の行う教育相談の具体的展開②ー事例検討を通し、外部専門機関との連携について学ぶ	事前学習：事例編を熟読し、不明点を明確にしておく（2時間） 事後学習：プリントを見直し、キーワードなど整理する（2時間）
テキスト		
小田豊 秋田喜代美 編 『子どもの理解と保育・教育相談 第2版』 みらい		
参考書・参考資料等		
吉田圭吾 著 『教師のための教育相談技術』金子書房 その他、授業内にて適宜提示する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価		
レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・態度（30%）、授業内小テスト（40%）の総合評価		
実務経験		
公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック、大学相談室、公立学校でのカウンセリングに従事		
実務経験を活かした教育内容		
検討する事例およびロールプレイにおいて、実務経験を活かした視点、見解を提示する。		

授業科目名 保育内容総論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 鵜野澤武美
	選択	必修	必修	開講期： 1 学年 後期		

授業の概要

乳幼児保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

- ・ 保育の基本姿勢と、保育内容の全体構造について理解する。
- ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育の領域について理解する。
- ・ 園生活全体を視野に入れて子どもの遊びや活動は総合的なものであることを理解し、指導計画の考え方や具体的な保育実践を身に付ける。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	保育の基本と保育内容を理解する —保育内容とは何を指しているのかを理解し考え方の全体像を捉える	事前学習：テキスト第1章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第2回	養護と教育が一体的に展開する保育 —養護と教育が一体となった保育について、乳幼児期の育ちを通して考える	事前学習：保育所保育指針第1章2「養護に関する基本的事項」を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第3回	環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う —視聴覚教材を活用しながら、外遊びでの環境構成を観察し理解する	事前学習：テキスト第3章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第4回	子どもの生活場面を通して、保育内容を理解する —保育の1日の流れを知り、子どもがどのように発達に必要な経験を積んでいるのか考え	事前学習：テキスト第4章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第5回	子どもの食事の在り方や指導法について学ぶ —視聴覚教材を活用しながら「お弁当(給食)」をどのように指導するのか学ぶ	事前学習：保育所保育指針第3章2「食育の推進」を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第6回	遊びを通しての指導 —遊びを通して総合的に指導するという考え方を理解する	事前学習：テキスト第6章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第7回	子どもの遊びを分析して、どのような経験をしているのか話し合う —グループディスカッションで、子どもの遊びについて検討し、子ども理解を深める	事前学習：実習で経験した「子どもの遊び」に関するエピソードを記入してくる(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第8回	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と活動のつながり —乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	事前学習：保育所保育指針・幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)

第9回	幼保小の連携について考え、就学前教育における見方・考え方を話し合う —就学前教育と小学校教育の違いについて学ぶ	事前学習：横浜市接続期カリキュラムについて調べてくる(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第10回	保育における計画の重要性 —実際の教育課程・全体的な計画、長期指導計画、短期指導計画について学ぶ	事前学習：テキスト第7章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第11回	保育における記録 —保育の計画、評価という視点から、記録の内容と留意点について学ぶ	事前学習：テキスト第9章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第12回	園生活における行事について —視聴覚教材を活用しながら、行事の在り方や指導法について学ぶ	事前学習：伝統行事について調べてくる(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第13回	支援を要する子ども理解とクラス運営および指導上の配慮 —支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する	事前学習：テキスト第8章を熟読する(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する —子ども理解、保育の構想、具体的な指導案作成という一連の流れを理解する	事前学習：どのような模擬保育をしたいか構想を立ててくる(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
第15回	模擬保育をグループで実施する —模擬保育/ロールプレイ、振り返り・評価、指導案の改善というサイクルを理解する	事前学習：模擬保育の準備をする(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ポイントを整理する(30分)
<p>テキスト 神蔵幸子 宮川満寿美 編『保育内容総論』青踏社 二階堂邦子 編『保育学のはじめの一步 —おさなごにまなぶ—』横浜女子短期大学</p>		
<p>参考書・参考資料等 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・講義で取り扱う課題や提出物については、授業内で解説を行いフィードバックする。</p>		
<p>学生に対する評価 授業に関して積極的に取り組む姿勢・演習への参加度(50%)、レポート課題や提出物(50%)の総合評価</p>		
<p>実務経験 幼稚園教諭・幼稚園園長・認定こども園園長・保育士</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容 掲示し検討する事例の中に、実務経験を活かした体験的事例を含める。 授業内容の中に実務経験を活かした実践的視点を掲示する。</p>		

授業科目名 保育内容研究 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 滝口 節子 兼子 真理 ※一部、関連科目担当教員による指導あり
	選択		必修	開講期：2学年 後期2コマ		

授業の概要

子どもたちにとってよりよい表現活動を展開するためにはどうしたらよいかをグループで考え、テーマの選定と発表内容の構成を行います。その後、メンバー一人ひとりの役割(舞台上の出演者および音響、照明など)を決め、脚本、衣装・大道具・小道具などをグループのメンバー全員での協力のもとで創作します。そして、最終的には1月に実施する「保育内容研究発表会」において、発表をします。

授業の到達目標

子どもの発達、保育内容(5領域を意識して)の成り立ちについて学習してきたことをもとに、子どもの視点を通じた表現活動をグループで行う。また、保育の総合性を理解し、グループ活動のなかで互いに認め合い・助け合い・高めあっていくことによって、学生一人ひとりの人間性や保育者としての資質を高めていくことができる。さらに、活動にあたっては、一人ひとりが自分の考えを述べることができ、主体的に活動することで、保育者となるにあたっての自信がもてる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション(授業のねらい)	事前学習：シラバスを読み、流れを知る 保育内容5領域を振り返る(1時間) 事後学習：プロが行う演劇やミュージカルなどを鑑賞し、よりよい発表を行うための参考とする。
第2回	ビデオ鑑賞	事前学習：次回の授業が進むように計画をし、準備をする(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)
第3回	グループ分け	事前学習：授業がスムーズに進むように準備をする(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとる(30分)
第4回	グループ分け 発表内容を考える	事前学習：発表内容を考えておく(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)
第5回	テーマの選定に向け、発表内容を考える	事前学習：グループメンバーで準備をし、計画について話し合う(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)
第6回	テーマの選定に向け、発表内容を考える	事前学習：グループメンバーで準備をし、計画について話し合う(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)
第7回	テーマ、発表内容の調整(発表内容の決定)	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)
第8回	グループでの活動(活動計画書の作成)	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する(1時間) 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる(30分)

第9回	グループでの活動（脚本完成、読み合わせ）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第10回	グループでの活動（音響・照明に関する説明）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第11回	グループでの活動（立ち稽古、道具制作）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第12回	グループでの活動（立ち稽古、道具作成）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第13回	グループでの活動（立ち稽古を鑑賞しての振り返り）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第14回	グループでの活動（立ち稽古、道具制作）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第15回	前半の取り組みについての振り返り	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第16回	後半の取り組み（活動計画）	事前学習：必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容を振り返り、記録をとる（30分）
第17回	グループでの活動（立ち稽古）	事前学習：計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第18回	グループでの活動（立ち稽古）	事前学習：計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第19回	全体での立ち稽古	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第20回	相互鑑賞と評価	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第21回	リハーサル（音響業者立会い）①	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第22回	リハーサル（音響業者立会い）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間）

		事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第23回	リハーサル（音響業者立会い）②	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第24回	リハーサル（音響業者立会い）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なもの 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（1時間）
第25回	リハーサル（音響業者立会い）③	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（30分） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（1時間）
第26回	リハーサル（音響業者立会い）	事前学習：授業が計画通りに進むよう必要なものを準備する（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第27回	「保育内容研究発表会」本番	事前学習：本番に向けグループで最終確認をし、準備をする（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第28回	「保育内容研究発表会」本番	事前学習：本番に向けグループで最終確認をし、準備をする（1時間） 事後学習：学習内容の記録をとり、次回の授業へ繋げる（30分）
第29回	片付け	事前学習：グループで話し合う（1時間） 事後学習：記録をとる（30分）
第30回	ビデオ鑑賞 活動の取り組みの振り返り	事前学習：発表会を振り返る（1時間） 事後学習：学習内容を振り返り、記録をとる（30分）
テキスト		
特に指定しません。適宜プリントを配付して授業を行います。		
参考書・参考資料等		
各グループの発表内容に応じて適宜紹介し、必要に応じて資料配布。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法		
個人用・グループ用の活動記録をとり、提出しフィードバックする		
学生に対する評価		
グループ活動（プロセス・発表）の内容（60%）、グループ活動への参加度（20%）、レポート（自己の振り返り）（20%）		
実務経験		
滝口節子 保育所の保育士 兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師		
実務経験を活かした教育内容		
保育の現場経験がある教員により、子どもの発達や5領域を活かし、保育における楽しめる発表を学び、理解を深める。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
健康 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	堀内弓子
授業の概要 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。						
授業の到達目標 1. 乳幼児の「からだ」と「こころ」の発達と健康についての現状や問題点を知り、説明できる。 2. 乳幼児が自ら体を動かす楽しさを体験し、健康で安全な生活をつくり出す力を育てる指導の知識を学び、身につけた技能を実践できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	乳幼児期の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康(テキスト、以下(7)とする)p1			事前学習：「健康」の定義について調べたことをまとめる。(30分) 事後学習：乳幼児の健康の意義とその支援を考える。(30分)		
第2回	領域健康のねらい・内容 保育者の支援方法(7)p13, 90～92			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：領域健康のねらいを実現するための保育者の知恵を知り、自分ならどうするかを考える。(30分)		
第3回	領域健康と他の領域との関連性 公開行事運動会のねらいと指導の留意点			事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：他領域の知識も踏まえて健康のねらいを実現していくことや、意欲的に運動に取り組む子どもを育てていく保育の実践事例から、考えたことをまとめる。(30分)		
第4回	日常の保育と運動会のつながり 実践事例から考える			事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：日常の保育の中で、運動遊びを通して子ども同士の関わりを育むための保育者の支援の在り方を考える。(30分)		
第5回	1～4回までの学習内容の確認 乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得及び生活リズムの形成とその意義(1)(7)p37			事前学習：ここまでの学びを復習する。 テキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：子どもの生活習慣の問題点を各種データから知り、保護者との連携方法を考える。(30分)		
第6回	乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣及び生活リズムの形成とその意義(2)			事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：健康な生活リズムの確立に向け、保育者にできる具体的な取り組みを知り、子どもとどのような関係を作るか考える。(30分)		
第7回	子どもの体力・運動能力の現状と問題点 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方(7)p20, 2～3			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：子どもの様々な動きの経験を支える必要性を考える。(30分)		
第8回	乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能			事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)		

	力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係(7)p62~67 p13, 74	事後学習：子どもの運動発達の特徴を知り、適切な環境づくりや援助を考える。(30分)
第9回	遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方(7)p142	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：運動遊びを行う方法や、運動好きになる理由を理解し、運動遊びの行い方を考える。(30分)
第10回	5~9回までの学習内容の確認 幼児期の怪我や事故の特徴(7) p 46~52	事前学習：ここまでの学びを復習する。 テキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：怪我や自己の発生状況を知り、保育者の援助を考える。(30分)
第11回	幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理(1) (7) p 123~124	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：安全管理と安全教育のねらいと内容を知り、遊びへの意欲を削ぐことなく安全への意識を育む方法を考える。(30分)
第12回	幼児の安全教育と危険(リスクとハザード) 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理(2)	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：子どもが自然に安全に注意が払えるようになるための環境構成を考える(30分)
第13回	乳幼児期形態的な体の発育の特徴 保育者の配慮(7) p 19~27	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：形態的な体の発育を知り、それを援助する上で、配慮すべき点を考える(30分)
第14回	乳幼児期の体の機能的発達 保育者の配慮(7) p 27~30	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：体の機能的な発達を知り、配慮すべき点を考える。(30分)
第15回	10~14回までの学習内容の確認 まとめと振り返り	事前学習：ここまでの学びを復習する(30分) 事後学習：学んだことのまとめと整理(30分)
テキスト 吉田伊津美著『乳幼児教育・保育内容シリーズ 保育内容 健康』光生館、2018		
参考書・参考資料等 近藤充夫著『幼児の運動と心の育ち』世界文化社、1994 文部科学省編『幼児期運動指針ガイドブック』2012 その他、授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・講義で課題とする提出物については、評価した後、授業内でフィードバックする。 ・提出された課題の中で模範となるレポートを授業内で共有し説明、解説等を行う。 ・理解度を確保するための小テストを実施し、授業時に解説を行ったうえで返却する。		
学生に対する評価 授業への取り組み・討論への貢献度(10%)、レポート課題(30%)、筆記試験(60%)		
実務経験 保育所体育指導		
実務経験を活かした教育内容 授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐久間 博子
健康の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 2 学年 後期		
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に健康で安全な生活をつくり出す力を養うための、保育者の役割を理解する。 ・幼児期の身体機能の発達に必要な「基本的な動き」を理解し、「子どもが楽しいと思える運動遊び」の指導案を立て実践する。 ・子どもが健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけるための指導法や家庭との連携について学修する。 						
授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」の内容を理解し、子どもが「自分から体を動かすことを楽しむ」ための指導、実践ができる。 ・幼児期運動指針(文部科学省)による『幼児期に身につけておきたい基本的な動き』を理解し、発達の特性に応じた幅広い運動指導ができる。 ・日常生活の中で子どもがどのように「自分の健康」や「安全な生活」について留意していくことが望ましいかを理解し、子どもが主体的に意識できるような援助、指導ができる。 						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	オリエンテーション ・「健康」における保育者の役割とは ・運動あそびのあり方について、実践を通して理解していく			・テキストの「目次」の項目を確認し、これから学ぶ概要を確認しておく。(事前学習 30分) ・本授業で学んだことをまとめておく。(事後学習 30分)		
第2回	保育における「健康」とは ・教育の基本と領域「健康」のねらいと内容 ・子どもにとっての運動会、保育者のあり方を考える			・1年次で学習した「健康」と「子どもの生活と遊びⅢ」の授業を振り返り、返却されたレポートを読み返しておく。(事前学習 30分) ・テキスト p.106~107 を読み、自己の運動会への思いや経験、運動会のあり方をまとめておく。(事後学習 30分)		
第3回	一人ひとりの発達に応じた運動の実践 ・全員が楽しめる運動指導のポイント ・安全管理と言葉がけ			・配布資料を見て、幼児期の身体機能の発達に必要な「基本的な動き」を理解しておく。(事前学習 30分) ・配布資料を読み、安全管理や言葉がけのポイントをまとめておく。(事後学習 30分)		
第4回	乳幼児の体の育ちと運動能力の発達 ・発育・発達の方向 ・スキヤモンの発育・発達曲線			・テキスト p.21~30 を読んでおく。(事前学習 30分) ・本授業で学んだことをまとめておく。(事後学習 30分)		
第5回	意欲を引き出すための「運動あそび」の指導法 ・「ワクワク・ドキドキ」の体験 ・一人ひとりの子どもに寄り添う指導とは			・配布資料を読み、具体的な指導法についての考えをまとめておく(事前学習 30分) ・授業で学んだことを活かして、実際の指導案を計画・立案する。(事後学習 40分)		
第6回	子どもの「心情」「意欲」「態度」を引き出す運動あそびの指導法 ・指導案の計画・立案			・配布資料を読み、子どもの遊び心を引き出すポイントを振り返る(事前準備 30) ・指導案を修正しておく。(事後学習 30分)		

第7回	遊戯の指導法① ・子どもの発達段階を踏まえた遊戯作品の創作	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読み、遊戯作品を創作する上での注意事項を確認しておく（事前学習 30分） ・グループ内での協同活動を振り返り、課題を明確にしておく。（事後学習 30分）
第8回	遊戯の指導法② ・創作における留意点（選曲・図解・指導法）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題を共有し、具体的な創作活動の進め方を検討しておく。（事前学習 30分） ・課題に対して修正、解決できたか確認する。（事後学習 30分）
第9回	遊戯の指導法③ ・創作活動のまとめ（発表）	<ul style="list-style-type: none"> ・創作した作品の課題点、修正点を見出す（事前学習 30分） ・他のグループの作品を評価する。（事後学習 30分）
第10回	遊戯の指導法④ ・子どもの気持ちに寄り添った指導法とは	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動を通して工夫した点、配慮した点をまとめておく。（事前準備 30分） ・配布資料をまとめておく（事後学習 30分）
第11回	運動遊びから引き出される多種多様な動き ・発育発達にかかわる運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んでおくこと（事前準備 30分） ・運動遊びから引き出される具体的な要素をまとめておく。（事後学習 30分）
第12回	準備運動の目的と必要性 ・主運動に適した準備運動の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んでおくこと（事前準備 30分） ・立案した準備運動をまとめておく（事後学習 30分）
第13回	幼児期の健康にまつわる今日の課題 ・子どもの体力と運動能力の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読み、予習しておくこと（事前学習 30分） ・自分の考えや気づきをまとめる。（事後学習 30分）
第14回	乳幼児期の健康に関わる生活習慣の獲得 ・保護者との連携とその必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト p.163～180 を読み、予習しておく。（事前学習 30分） ・睡眠、食事、排泄、清潔、衣服の着脱の基本的な生活習慣を獲得する上で、重要なことをまとめる。（事後学習 30分）
第15回	これまでの学習の振り返り ・確認、まとめのテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストと配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。（事前学習 30分） ・これまで学んできたことを振り返り、「到達目標」に対する自己評価をして今後の課題を明確にする。（事後学習 30分）
テキスト 宮崎 豊・田澤 里喜 著『改訂第2版 健康の指導法』玉川大学出版部、2019		
参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 <ul style="list-style-type: none"> ・講義で課題とする提出物については、評価した後、授業内でフィードバックする。 ・提出された課題の中で模範となるレポートを授業内で共有し説明、解説等を行う。 ・理解度を確認するための小テストを実施し、授業時に解説を行ったうえで返却する。 		
学生に対する評価 <ul style="list-style-type: none"> 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（40%） レポート、実技試験、小テスト（60%） 		
実務経験 幼稚園体育講師		

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介、解説する。

※ 授業内容は予定であり、変更する場合があります。授業内で伝えます。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
人間関係 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期		石山 直樹

授業の概要

乳幼児期の子どもの人間関係の発達過程および領域「人間関係」のねらいと内容を学習します。また、現代社会において乳幼児期の子どもの人と関わる力を育むうえでの問題点や課題を考えます。さらに、自己理解・他者理解の重要性に関する学習を通して、保護者と保育者および保育者同士の人間関係のあり方についても学習します。

授業の到達目標

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育ちを理解し、その特徴を説明することができる。
- ・保育の基本のひとつである、領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、その内容を正しく説明することができる。
- ・領域「人間関係」のねらいと内容、および乳幼児期の人間関係の育ちを総合的に捉え、保育実践においてその知識を適切に活用することができる
- ・社会で生活していく者として「人と関わること」の意味を的確に捉え、それを説明することができる。
- ・自己理解・他者理解を深め、保育者を目指す者としての他者（子ども・保護者・保育者など）との適切な関わりを行うことができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	・オリエンテーション(授業内容と展開方法、評価方法などの説明) ・保育の基本として重視すべき事項について	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第1章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第2回	・領域「人間関係」のねらいと内容	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第2章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第3回	・新生児の「人への関心」	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第3章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第4回	・人との関係の始まり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第4章)を熟読して、その概要を捉える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第5回	・人との関わりの基盤 ～アタッチメントの形成～	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第5章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第6回	・自我の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第6章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第7回	・道徳性・規範意識の芽生え	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第7章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第8回	・思いやりと社会性の発達	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第8章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第9回	・子どもと家族との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第9章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第10回	・子どもと保育者との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第10章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第11回	・遊びの中での関わりの育ち	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキスト(第11章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。

第12回	・友達との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第12章)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第13回	・保護者と保育者との関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第14章第1～2節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第14回	・子どもと保護者を支える保育者同士の関わり	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前にテキスト(第14章第3～4節)を熟読して、その概要を捉える。 ・授業後はテキストおよび授業時に使用したプリント、授業内での演習内容などをもとに、授業内容とそのポイントを整理する。
第15回	・学習内容の振り返りと確認(期末テスト) ・学習内容の振り返りと確認(期末テスト)(ポイント解説) ・まとめ～領域「人間関係」の新しい課題～	【事前・事後学習】 (事前学習と事後学習を合計して1時間) ・授業前に第1回～第14回授業の学びを振り返り、その内容を整理する。 ・授業後は期末テストの結果を振り返り、理解が不十分であったと考えられる箇所について、学びを再整理する。
<p>テキスト</p> <p>谷田貝公昭監修、小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践保育内容シリーズ② 人間関係』一藝社 二階堂邦子・石山直樹・本田幸編著『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』横浜女子短期大学 佐藤寛之・二階堂邦子・本田幸・石山直樹編著『保育・教職実践演習〔第2版改訂〕-子どもによりそう保育とその学びの総合性-』横浜女子短期大学</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>佐々木正美『子どもへのまなざし』ミネルヴァ書房 菊地篤子『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』株式会社みらい 田宮縁『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」(第2版)』萌文書林 森上史朗・柏女霊峰編『保育用語辞典〔第8版)』ミネルヴァ書房</p>		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <p>課題およびテストの内容などに関するフィードバックは、授業内で全体を対象に行います。 また、事後学習で不明な点が生じた場合など、必要に応じて個別のフィードバックも行います。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>期末テスト(筆記試験)(40%)、授業内課題等の取り組み状況(40%)、授業に取り組む姿勢(20%)</p>		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	學術	担当教員名
人間関係の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	本田 幸

授業の概要

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに、保育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認し、保育の総合性をふまえて、領域「人間関係」との関連について学ぶ。

特に「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」に関連する保育内容について考えていく。その上で、子どもが生活や遊びを通して人と関わる力を育むための具体的な保育実践について学ぶ。

授業の到達目標

- ・保育内容の構造から領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。
- ・乳幼児期の発達と照らし合わせながら保育場面での子どもが人との関わりを広げていくプロセスと人との関わりを豊かにしていくための保育者の役割について学び、具体的援助の方法と関連づけることができる。
- ・保育内容「領域 人間関係」に関する保育内容の指導計画について理解し、具体的実践に向けて指導計画を編成しすることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	【事前学習】前期に学習した「人間関係」の内容をしっかりと復習し、乳幼児期の人間関係の発達等、基本的な知識を身につけておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業内容や実習経験をもとに、乳幼児期の子どもは人との関わりの中でどのような経験をし、学ぶのかについてまとめること(事後学習1時間)。
第2回	保育内容の構造	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.86～88 を読み、保育内容の構造について概観を理解しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに保育内容の構造について復習しておくこと(事後学習1時間)。
第3回	領域「人間関係」のねらい及び内容①	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.89～90 を読み、乳児保育におけるねらい及び内容について概観を理解しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.101～109、p.135～144 の内容を理解し、乳児期及び1歳以上3歳児未満児の保育内容のねらい及び内容について復習すること(事前学習1時間)。
第4回	領域「人間関係」のねらい及び内容②	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.204～227 を読

		み、3歳以上児の保育内容のねらい及び内容について概観を理解しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】テキスト『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域人間関係のねらい及び内容を読み比べ、3つの法令の整合性について理解すること（事後学習1時間）。
第5回	3歳未満児の保育における人との関わり	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.107～109、p142～144 を読み、3歳未満児の保育内容「領域人間関係」における内容の取扱いについて概観を理解しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに、3歳未満児の保育内容「領域 人間関係」に関する子どもの姿と保育者の関わりについて理解を深めること（事後学習1時間）。
第6回	幼児の自立心を育む援助	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.66～67 を読み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「自立心」の概観を理解しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第7回	幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助①－3歳児	【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步－おさなごにまなぶ－』二階堂邦子他編著 学校法人横浜女子短期大学 p.118 を読み、おおむね3歳児の発達過程について理解しておくこと。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第8回	幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助②－4歳児	【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步－おさなごにまなぶ－』二階堂邦子他編著 学校法人横浜女子短期大学 p.118～119 を読み、おおむね4歳児の発達過程について理解しておくこと。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第9回	幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助③－5歳児	【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步－おさなごにまなぶ－』二階堂邦子他編著 学校法人横浜女子短期大学 p.119～121 を読み、おおむね5歳児の発達過程について理解しておくこと。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第10回	協同性	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.68～69 を読み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「協同性」の概観を理解しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第11回	道徳性・規範意識の芽生え	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 p.70～71 を読

		み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 「道徳性・規範意識の芽生え」の概観を理解 しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復 習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第12回	自己調整力の育ち—子どもの折り合う姿	【事前学習】1年次9月「教育実習」の経験か ら、子ども同士が互いの思いを伝え合う姿や、 葛藤場面のエピソードをまとめること（事前 学習1時間）。 【事後学習】授業で学んだことを参考に、幼 児期の子どもにとって仲間とかかわる意味や 葛藤体験を乗り越えることの大切さについて 考察すること（事後学習1時間）。
第13回	「社会生活との関わり」	【事前学習】テキスト『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 p.72～73 を読 み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 「社会生活との関わり」の概観を理解して おくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに復 習し、理解を深めること（事後学習1時間）。
第14回	ルールのある遊びと保育者の援助—指導計画の作 成—（演習）	【事前学習】保育の指導計画の意義や基本的 な考え方について、保育実習指導、教育実習 指導、カリキュラム論、保育内容総論等、関 連の教科で学んだことをしっかりと理解し、 復習しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントなどをもと に、保育の指導計画の具体的作成について復 習しておくこと。保育内容人間関係の領域に 関する保育活動についても、文献等で調べて おくこと（事後学習1時間）。
第15回	まとめ —人と関わる力を育むための保育者の役 割—	【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一 歩—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編著 学校法人横浜女子短期大学 p.58～67 を読み、 子どもをとりまく現代社会の変化や、今後子 どもたちに求められる資質・能力について予 習しておくこと（事後学習1時間）。 【事前学習】今まで授業で学んだことを総合 し、子どもの「人と関わる力を育む」ために、 保育者がどのような関わりすることが重要で あるかを整理すること（事後学習1時間）。
テキスト 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省		
参考書・参考資料等：『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編著 学校法人横浜女子 短期大学		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 提出課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（30%）、授業後の小レポートおよび提出物（20%）、レポート課題（50%）、の総合 評価。		
実務経験 幼稚園教諭		

実務経験を活かした教育内容

保育内容の構造の理解、及び領域「人間関係」のねらい及び内容については、保育実践の具体的事例等に関連させて学習する。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と具体的保育実践の関連について、DVD等の視聴覚教材などを活用しながら、実践力向上につながる学習を行う。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	[学術] ・ [実務]	担当教員名
環境 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期		平澤 順子
授業の概要 保育所などにおける保育士としての実務経験を持つ担当教員により、子どもが環境と関わる事での学びについて、体験的事例を提示し検討を行っていく。また、子どもを取り巻く環境(物的、人的、自然環境、社会的事象)についての理解を深め、乳幼児がそれらに自ら心を動かし、主体的に関わる事の重要性について学ぶ。さらに、それらを通して子どもの活動が豊かになる為の環境構成についても理解を深める。						
授業の到達目標 1) 幼児を取り巻く環境の重要性、乳幼児にとっての環境の意義を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の思考・科学的概念の発達を理解し、それらを育むための環境の在り方について知り、応用できる。 3) 幼児期の標識・文字や数字等や情報・施設との関わりを通しての学びを理解し、実施できる。 4) 自然物に触れ、それらの名称や遊びへの取り入れ方を知り、実施できる。						
ディプロマポリシーとの関連：DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	オリエンテーション ・子どもを取り巻く「環境」とは ・オシロイバナの種蒔	事前学習：子どもを取り巻く環境について調べておく(2時間) 事後学習：子どもを取り巻く環境についてポイントを整理し、理解を深める(2時間)				
第2回	幼児教育の基本(1) ・乳幼児期にふさわしい生活 - DVD 視聴を通して学ぶ -	事前学習：事前に配布されたプリント読み込んでおく(2時間) 事後学習：DVDを振り返り、乳幼児期にふさわしい生活の要点をまとめる(2時間)				
第3回	幼児教育の基本(2) ・発達に適した環境とそれを通しての教育 - 事例を通して考える -	事前学習：事前に配布されたプリントを読み込み、気づいたことを整理しておく(2時間) 事後学習：発達に適した環境の重要性について理解を深める(2時間)				
第4回	人的環境としての保育者の役割	事前学習：事前に配布されたプリントを読み込み、保育の場における保育者の役割について考えをまとめておく(2時間) 事後学習：保育者の役割と重要性について理解を深める(2時間)				
第5回	乳児・1~2歳児の発達の特徴と環境との関わり - DVD 視聴を通して理解する -	事前学習：事前に配布されたプリントを読み込み、乳児・1~2歳児の姿を理解しておく(2時間) 事後学習：授業で学んだプリントを基に振り返り、各年齢の発達および環境との関りを明確にしておく(2時間)				
第6回	幼児と物的環境との関わり - 近隣の公園に出かけ子どもの様子を観察する -	事前学習：公園にはどのような遊具や自然があるかを調べ、子どもとそれらのかかわりを考え、まとめておく(2時間) 事後学習：実際の子どもの姿から環境との関りを整理し、理解を深める(2時間)				
第7回	幼児と自然環境との関わり(1) - 学内探索を通して野草に触れる -	事前学習：野に咲く季節の草花を調べておく(2時間) 事後学習：学内マップを作成し、草花の自生場所を確認し、理解を深める(2時間)				

第8回	幼児と自然環境との関わり (2) - 身近な野草を使った遊びの体験 -	事前学習：身近な野草を使った遊びを考えておく (2時間) 事後学習：秋冬の草花についても調べ、まとめておく (2時間)
第9回	幼児と自然環境との関わり (3) - 学内に生息する昆虫に触れる -	事前学習：季節に合った自然に生息する昆虫について調べておく (2時間) 事後学習：秋に生息する昆虫について調べておく (2時間)
第10回	幼児と自然環境との関わり (4) - 学内で栽培した草花を使った色水遊び -	事前学習：色水遊びに適した草花を調べておく (2時間) 事後学習：色水を使った保育活動を考え、子ども理解につなげていく (2時間)
第11回	身近な素材や廃材を使った遊びを考える	事前学習：身近にある自然物を使ってどのような遊びができるか、またその際廃材の活用法も併せて調べておく (2時間) 事後学習：授業で実践したもの以外の遊びや活用法も考え、学びの幅を広げる (2時間)
第12回	幼児と文字や標識との関わり - 学外に出て、子どもの視点から標識などを捉える	事前学習：大人の視点から町中にある文字や標識を調べておく (2時間) 事後学習：大人と子どもの視点の違いに気づき、散歩などの必要な援助を理解する (2時間)
第13回	幼児と数量・図形との関わり - 子どもたちが数量や図形に関わる場面を想定し、それらの望ましい関り方、援助を考える -	事前学習：保育のどのような場面で数量・図形に関わるのか、それぞれ例を挙げて考えておく (2時間) 事後学習：就学後の学習との違いを明確にしておく (2時間)
第14回	幼児と身近な情報及び施設との関わり - 調べたことのプレゼン -	事前学習：地域の図書館に行き、子どもたちがどのように施設に関わり、どんなことを体験しているのかを調べておく (2時間) 事後学習：仲間の発表を聞き、子どもの体験を深めていくために必要な施設の改善点を考え、まとめる (2時間)
第15回	現代における保育の課題と領域「環境」の重要性	事前学習：これまでの学びを振り返り、現代の子どもを取り巻く環境の問題点を挙げ、保育の課題を考えておく 事後学習：これまでの授業を振り返り、要点をまとめる (2時間)
テキスト：使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考書・参考資料等 福元真由美 編者代表 事例で学ぶ保育内容『領域環境』 萌文書林、保育所保育指針、幼稚園教育要領等		
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。		
学生に対する評価：総合評価：レポート (40%)、講義の参加態度 (20%)、観察記録 (40%)		
実務経験：保育所の保育士、認定こども園の保育士		
実務経験を活かした教育内容 提示する事例において、実務経験を活かした視点から分析及び検討を行っていく。		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
環境の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		梅原 正美
授業の概要 人的環境や物的環境を通して、幼児期の五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を豊かにする方法を探り、好奇心や探求心を深めながら生きる力について学ぶ。また、地域の社会環境を活用しながら、幼児期の遊びを豊かなものにすることを学ぶ。						
授業の到達目標 ・5領域「環境」の人的・物的・社会的な部分を知り、各々の環境設定ができる。 ・様々な自然に触れることで各々の事象に興味関心をもち、より深い自然環境について学び、事象や現象について考察することにより、「なぜ・どうして」の答えを「なぜならば」に変えることができる。 ・幼児の生きる力を育むための環境構成について学び、どのような環境構成が適切なのかを考察することにより、子ども達の生きる力を育むことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	子どもの育ちと「環境」の関りを知り、領域「環境」のねらいと内容について学ぶ	テキスト①第1章と第2章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第2回	環境構成と子どもの発達について学ぶ	テキスト①第3章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第3回	子どもを取り巻く人的環境について学ぶ	テキスト①第4章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第4回	子どもを取り巻く物的環境について学ぶ	テキスト①第5章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第5回	子どもを取り巻く社会的環境について学ぶ	テキスト①第6章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第6回	子どもを取り巻く自然環境について学ぶ	テキスト①第7章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第7回	子どもの生きる力を育む環境①（自立する心や好奇心、探究心を育む環境について）	テキスト①第8章1節から3節までを熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第8回	子どもの生きる力を育む環境②（表現する心や道徳心を育む環境について）	テキスト①第8章4節から5節までを熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第9回	季節に合った植物や昆虫の採集した標本を発表し、身近な自然環境の知識を深める	テキスト①第8章のまとめ、及び好きな昆虫か植物の標本を制作し、発表の準備をする。(2時間)				
第10回	子どもの守り育てる環境や気になる子どもとの環境の設定について考える	テキスト①第9章を熟読し、事例の質問事項を考えておく。(2時間)				
第11回	子どもの発達にかかわる数・量・形（年齢における数量や図形への関心）	テキスト②より、子どもの発達における数量や図形への興味の持ち方、興味の持たせ方を調べ、予備知識を得ておく。(2時間)				
第12回	保育者にかかわる数・量・形（消毒液のつくり方、濃度、割合）	テキスト②より、溶液の濃度計算、割合計算、市販消毒液の調整の仕方等の計算ができるようにしておく。(2時間)				

第13回	園生活でみられる数学（野菜から学ぶ形や大きさ、数量）	テキスト②より、野菜の形や切断面を知っておく。（2時間）
第14回	遊びの中でみられる数学（サイコロのづくりとすごろく遊び、紙や鉄の図形遊び）	テキスト②より、サイコロを2個以上作り、サイコロ遊びを考えておく。（2時間）
第15回	保育における「環境」の重要性についてのまとめ	第1回から第14回の授業を振り返り、まとめておく。（2時間）
<p>テキスト</p> <p>①酒井幸子・守巧 編著 保育内容『環境』 萌文書林 ②吉田明史・田宮縁 編著 保育者が身につけておきたい『数学』 萌文書林</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>福元真由美 編者 事例で学ぶ保育内容『領域 環境』 萌文書林 森のムッレ協会新潟 編集 身近な自然と遊んで育つ保育実践 わかば社 大豆生田啓友 編者 草花のある園庭と季節の自然遊び フレーベル館 佐藤純子 編著 環境ワークブック -基礎理解と指導法- 萌文書林</p>		
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p> <p>理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。 講義で取り扱う提出物については、最終回にフィードバックする。 実践のスキル向上のために行う造作品の課題等については、授業時間内で学生同士評価したうえで、講評等を行った後にフィードバックする。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(40%)と レポート試験(60%)の総合評価</p>		
<p>実務経験</p> <p>保育所の園長 日本保育学会の会員</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>実務経験の中で、体験した事例を提示・活用し、保育に携わる者へのスキルを具体的に向上させる。</p>		

授業科目名 言葉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	実務	

授業の概要

幼児が豊かな言葉や表現を身につけるために必要な基礎的知識を学ぶ。人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳児期から幼児期後期の言葉の発達過程を学習する。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識や技術について基礎的事項を学ぶ。

授業の到達目標

- ・人間にとって言葉を持つことの意義を説明することができる。
- ・子どもの言葉が発達していく道筋について理解している。
- ・言葉の楽しさや美しさに対する感覚を育てるために、絵本、紙芝居等の児童文化財の意義を理解し、基礎的な技術が習得できている。
- ・子どもの言葉を豊かに育むための保育実践力の基盤が身についている。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション ー身近な生活から言葉の意義について考えるー	【事前学習】 日常生活の中で心に残る言葉、好きな言葉、嬉しかった言葉など、自分にとって大切な言葉について考えおくこと(事前学習1時間) 【事後学習】 授業やプリントで学んだことをもとに、言葉の持つ力や言葉の大切さについて自分の考えをまとめる。(事後学習2時間)
第2回	人間にとって「言葉」とは何か?	【事前学習】 テキスト『子どもの育ちを支える子どもと言葉』序編第1章に目を通し、様々な角度からの言葉についての知見に触れる(事前学習1時間)。 【事後学習】 授業プリント等を参考にして、人間にとって言葉が持つ意味を考える(事後学習1時間)。
第3回	子どもにとって言葉 ー言葉の世界が広がるときー	【事前学習】 子どもの言葉の育ち、面白さに気づくために、身近にいる乳児、幼児の発声、発話、会話などに目を向けておく(事前学習1時間)。 【事後学習】 授業プリント等を参考にして、子どもが言葉を獲得する意味、言葉が持つ機能について復習する(事後学習1時間)。
第4回	保育者の言葉、実習生の言葉	【事前学習】 普段自分が語る言葉について振り返り、これから社会人としてどのような言葉遣いを身に付けていきたいかを考える(事前学習1時間)。 【事後学習】 授業で学習した社会人としての挨拶や言葉遣いの大切さ、自分自身の課題について整理し、さらに磨きをかける。保育者として子どもと関わる上での言葉について考える。また、保育現場で必要とされる保育用語について、正しく記述できるように復習しておく(事後学習1時間)。

第5回	言葉の発達過程を学ぶ① 前言語コミュニケーションの発達	<p>【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p.112～116 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、乳児との応答的な関わりの重要性について理解する。（事後学習1時間）</p>
第6回	言葉の発達過程を学ぶ② 非言語から言語へ	<p>【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p.112～116 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、言葉を話す前の発声や泣き、喃語の意味、および指さしによるコミュニケーションの意味について復習する（事後学習1時間）。</p>
第7回	言葉の発達過程を学ぶ③ 2歳児の言葉の発達	<p>【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p.116～117 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、初語、一語文、二語文の発達。語彙の爆発的増加。象徴機能の発達等、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する（事後学習1時間）。</p>
第8回	言葉の発達過程を学ぶ④ 3歳児の言葉の発達	<p>【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p.118 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する（事後学習1時間）。</p>
第9回	言葉の発達過程を学ぶ⑤ 4～5歳児の言葉の発達	<p>【事前学習】参考図書『保育学のはじめの一步—おさなごにまなぶ—』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 p.118～121 を読み、おおまかな子どもの発達過程について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、この時期の言語の発達に関連する事項についてしっかりと復習する（事後学習1時間）。</p>
第10回	保育内容 領域「言葉」	<p>【事前学習】参考図書『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 p.213～214 を読み、保育内容 領域「言葉」について理解しておく（事前学習1時間）。</p> <p>【事後学習】授業で学んだこと、プリントをもとに、保育内容 領域「言葉」のねらい及び内容についてしっかりと復習する（事後学習1時間）。</p>

第 11 回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 I (絵本) 絵本とは何か、絵本の与え方	【事前学習】自分の好きな絵本、子どものころに読んでもらい印象に残っている絵本などを改めて読み直し、絵本の楽しさ、面白さを発見しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、乳幼児期の子どもにとっての絵本の意味について自分の考えをまとめること(事後学習1時間)。
第 12 回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 II (絵本) 絵本の読み聞かせの実践 (演習)	【事前学習】図書館や書店などで多くの絵本に触れ、保育実践の場で読んでみたい絵本を予め準備しておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、保育実践の場での絵本の活用について理解を深め、読み聞かせについての基本的技術を身につけるために繰り返し練習をすること(事後学習1時間)。
第 13 回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 III (紙芝居) 紙芝居について理解を深める	【事前学習】テキスト『子どもの育ちを支える 子どもと言葉 改訂版』浅見均編著 大学図書出版「児童文化と言葉」を読み、児童文化財としての紙芝居について概観を知っておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、紙芝居の特徴や児童文化財としての意義について理解すること(事後学習1時間)。
第 14 回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財 IV (紙芝居) 紙芝居の実践 (演習)	【事前学習】図書館などで紙芝居に触れ、保育実践の場で読んでみたい紙芝居を予め準備しておくこと。(事前学習1時間) 【事後学習】授業で学んだこと、プリントなどをもとに、保育実践の場での紙芝居の活用について理解を深め、紙芝居の演じ方について、基本的技術を身に付けるために練習をすること(事後学習1時間)。
第 15 回	子どもの言葉を育むこと (まとめ)	【事前学習】授業で学んだこと、テキストやプリントを参考に、子どもが言葉を話すことの意味、言葉の機能について整理しておくこと。また、子どもの発達過程を理解し、言葉の発達と認知機能の発達との関わり、言葉の発達と人間関係の発達との関わりなど、総合的に理解すること。 【事後学習】授業で学んだことをもとに、保育内容領域「言葉」に関する保育実践について、9月の教育実習で学びたいこと、課題を明確にすること。
テキスト 『子どもの育ちを支える 子どもと言葉 改訂版』浅見均編著 大学図書出版		
参考書・参考資料等 『保育学のはじめの一步 -おさなごにまなぶ-』二階堂邦子他編、横浜女子短期大学 『幼稚園教育要領』文部科学省 プレーベル館 今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書房		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢(30%)、授業後の小レポートおよび提出物(30%)、レポート課題(40%)の総合評価		

実務経験
幼稚園教諭

実務経験を活かした教育内容

子どもにとっての言葉の意味や子どもの言葉の発達過程を学習する際に、保育実践の場での事例や具体的な子どもの姿を交えて学ぶ。

特に、第12回目、第14回目の授業では、保育教材としての絵本、紙芝居について、実践での場を想定し基礎的な技術が身に付く演習を行う。

授業科目名 言葉の指導法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 本田 幸
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		

授業の概要

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、「幼稚園教育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するための保育実践について学ぶ。保育者と子どもとの関わりから生まれる言葉、友達との関わりを通して豊かになる言葉など、事例を通して学習する。具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を学ぶ。
保育活動として行われる絵本の読み聞かせや、児童文化財の活用など計画・実践・評価を含む授業から、互いの学び合いにつなげる。

授業の到達目標

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」について理解している。
- ・子どもの言葉の育ちを踏まえた保育のあり方や子どもの言葉を育む保育者の関わりについて具体的に実践と結びつけて考えることができる
- ・絵本の読み聞かせや紙芝居、言葉遊びなどの具体的な指導案作成、実践、振り返りを行い、保育を構成する力が身につけている。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	保育における「言葉」とは？ — 保育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容	【事前学習】『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版を読み、「理論編 第1章 乳幼児教育の基本」について概要を学んでおくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに、学習したことをしっかりと復習しておくこと(事後学習1時間)。
第2回	子どもの言葉を育む保育技術① — おはなしについて学ぶ	【事前学習】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編 第4章」を読み、「おはなし」について調べておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに、児童文化財である「おはなし」について理解を深めること(事後学習1時間)。
第3回	子どもの言葉を育む保育技術② — おはなし作り	【事前学習】前回の授業内容を踏まえて、子どもが楽しめるお話の特徴や、テーマに合わせて、お話し作りの準備をしておくこと(事前学習1時間)。 【事後学習】自分で作ったお話を見直し、内容をさらに吟味すること。子どもが楽しめるようなお話し語り方に配慮し、お話し技術を高めること(事後学習1時間)。
第4回	子どもの言葉を育む保育技術③ — 絵本の読み聞かせ、絵本の選び方	【事前学習】9月の教育実習の経験をふまえて、絵本の選び方、環境設定、読み聞かせの

		仕方等、担当保育者からの指導や学んだことを整理しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】絵本リストなどを参考に絵本に関する知識を広げること。子どもの興味・関心、発達や季節などを考慮した絵本の選び方について理解すること（事後学習1時間）。
第5回	保育の内容① — 乳児保育に関わるねらい及び内容	【事前学習】参考資料『保育所保育指針解説』p.101～109を予め読んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントを復習し、乳児期の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと（事後学習1時間）。
第6回	保育の内容② — 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容	【事前学習】参考資料『保育所保育指針解説』p.156～167を予め読んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントを復習し、1歳以上3歳未満児の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと（事後学習1時間）。
第7回	保育の内容③ — 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容	【事前学習】参考資料『保育所保育指針解説』p.248～266を予め読んでおくこと。（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントを復習し、3歳以上児の子どもの言葉の育ちと保育者の関わりについて復習しておくこと（事後学習1時間）。
第8回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートについて学ぶ	【事前学習】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第4章」を読み、「ペーパーサート」について概要を学んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】子どもが楽しめるペーパーサートを製作するために、文献や資料を集めておくこと（事後学習1時間）。
第9回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートの製作（演習）	【事前準備】配布したプリントを読み、ペーパーサート作りの手順を理解し、材料などを準備しておくこと（事前準備1時間）。 【事後学習】授業内での説明や配布したプリントから、ペーパーサートの持ち方、動かし方等、演じ方について復習しておくこと（事後学習1時間）。
第10回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — ペーパーサートの発表（演習）	【事前準備】製作したペーパーサートを使い、導入、展開、まとめの流れをふまえて保育実践ができるように練習すること（事前学習1時間）。 【事後学習】クラスでのペーパーサートの実践発表を通して、互いの作品の良い所に気づいたり、自分の保育実践の改善点を見つけたりして、2月の保育実習Ⅰ（保育所）での教材準備につなげる（事後学習1時間）。
第11回	子どもの言葉を育む保育の構想 — 指導計画の考え方	【事前学習】保育の指導計画の意義や基本的な考え方について、保育実習指導、教育実習指導、カリキュラム論、保育内容総論等、関

		連の教科で学んだことをしっかりと理解し、復習しておくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントなどをもとに、保育の指導計画の具体的作成について復習しておくこと。言葉の領域に関する保育活動についても、図書館等で調べておくこと（事後学習1時間）。
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想 — 具体的な保育場面を想定した指導案の作成	【事前学習】2月の保育実習Ⅰ（保育所）の実習に備えて、言葉の領域に関連する部分実習指導案を作成すること（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内の学びを参考に、自分で作成した部分実習指導案についてあらためて見直すこと（事後学習1時間）。
第13回	子どもの言葉を豊かに育む児童文化財 — 紙芝居について学ぶ	【事前学習】『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第4章」を読み、「紙芝居」について概要を学んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに、児童文化財である「紙芝居」について理解を深めること（事後学習1時間）。
第14回	言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援	【事前学習】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第8章言葉のかかわりに配慮を要する子ども」を読み、概要を学んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】授業内容やプリントをもとに、児童文化財である「言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導」について理解を深めること（事後学習1時間）。
第15回	言葉の発達を支える保育者のかかわり	【事前学習】『子どもの育ちを支える子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版「実践編第7章子どもの育ちを支える保育者の言葉」を読み、概要を学んでおくこと（事前学習1時間）。 【事後学習】今まで授業で学んだことを総合し、子どもの言葉の育ちを育む保育者の関わりについて重要であると思われることを整理すること（事後学習1時間）。
テキスト 『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』浅見均編著 大学図書出版		
参考書・参考資料等 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 今井和子『子どもとことばの世界』今井和子著 ミネルヴァ書房		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 レポート課題、保育実践の演習授業等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。		
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（10%）、授業後の小レポートおよび提出物（40%）、レポート課題（50%）、の総合評価。		

実務経験

幼稚園教諭

実務経験を活かした教育

第5回目、第6回目、第7回目の保育の内容の授業については、具体的な実践事例などを踏まえて、子どもの興味・関心や発達過程を踏まえた保育について学習する。

絵本、紙芝居、お話し、ペーパースーツ等の保育に活用される教材に関する授業では、児童文化財としての知識を学ぶとともに、指導案作成や保育場면을想定した発表等、実践力を高める。

授業科目名 音楽表現 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	学術 ・ 実務	担当教員名 横森 弘之
	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期		

授業の概要

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

授業の到達目標

(簡易リズム・音楽理論・歌唱指導・重唱)

本授業のテーマは、幼児の表現の発達について考察するとともに、『豊かな感性と表現』の内容を音楽の実体験を通し、領域『表現』に関する専門事項を習得することができる。また、幼児の感性の発達の姿や、発達にふさわしい援助を理解し、幼児期の感性と表現の育ちの全体像がとらえられる音楽的表現能力を習得することができる。

具体的には、以下の8つの到達目標を設定している。

①幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。②表現の生成する過程について理解していることができる。③幼児の素朴な音楽表現を見出し、受け止め、共感することができる。④様々な音楽表現を感じる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。⑤身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。⑥音楽表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。⑦協働して音楽表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。⑧様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	領域「表現」のねらい及び内容の理解 教材 P6～8 童謡 P31～36 幼児教育における領域「表現」の位置付けについて理解する。また、自分自身の表現を振り返りその生成過程における内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。	事前学習:P6～P8 の体の発達と音楽・音楽スキルの発達・感性と表現の発達(60分) 事後学習:童謡 P31～P38 の内容と現場で用いられている生活の歌の内容を把握することが出来る(60分)
第2回	幼児の表現の発達の理解 教材 P10～11 童謡 P37～40(60分) し、幼児の素朴な表現に気付くことができる。	事前学習 P9 年齢別発達段階を予習する。P37～40 の童謡の楽譜を予習する。(60分) 事後学習 P37「せんせいとおともだち」のねらいと活動の内容を理解出来る。(30分)
第3回	環境との対話 教材 P12～13 童謡 P43～46 身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性的な出会いの豊かな環境と表現の関係について理解する。	事前学習 幼児の表現の発達の理解及び身体感覚を理解しておく。(30分) 事後学習 身体の発達と表現方法の関連について理解することが出来る。(30分)
第4回	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び 教材 P13～14 童謡 P46～49 生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。	事前学習 身近な音が出るものに対して関心をもち楽器にできる物を考えておく(30分) 事後学習 様々な素材を用いて簡単な楽器を創意工夫して作ることが出来る。(30分)
第5回	豊かな表現のために 教材 P14 童謡 P51～53 季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような、表情豊かな歌唱表現を身に付ける。合唱や合奏等のアンサンブルを通じ、音や声の重なり合う美しさを体験する。	事前学習 指導案の立て方及び書き方を理解しておく。五領域の特性を調べる。(30分) 事後学習 日本の四季の歌の特性を理解して子どもたちに提示することが出来る。 保育楽器と手作り楽器の合奏の楽しさを理解出来る。(30分)

第6回	簡易な楽器を用いて、幼児の発達に即したリズム遊びの展開例の考案 教材 P15 童謡 P54～56 わらべうたや手遊び歌を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。	事前学習 P54のとけいのうたいを弾き歌い出来るように予習する。(30分) 事後学習 とけいの振り子の音や歌詞の面白さを理解出来る。(30分)
第7回	イメージを音に表現 教材 P14 童謡 P59～62 心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。言葉のイントネーションやリズムを生かし、協働して簡易な曲を創作する。	事前学習 スマホで即興演奏を調べ、各自の動画を見たり話し合ったりしておく(30分) 事後学習 即興演奏を通して様々なジャンルの曲が存在する事を理解出来る。(30分)
第8回	ICTの活用と総括 教材 P15 童謡 P63～64 ICTを活用した音楽表現活動を具体的に考える。学習のまとめを発表する	事前学習 スマホで音楽の天才少年・少女を調べておく。(60分) 事後学習 スマホを活用し幼児教育に役に立つ動画を活用する事を理解する。(60分)
第9回	ことばのイメージの創造 教材 P15 童謡 P64～69 生活や遊びの中で歌っている曲にテーマを決めて、『替え唄』にして楽しむ	事前学習 四季の曲から替え歌をつくるための予習をしておく。(60分) 事後学習 『替え唄』の作り方を学ぶ事が理解出来る。(30分)
第10回	即興表現を考える 童謡 P70～72 生活や遊びの中で使っている子どもたちの言葉から、それを即興で歌にして表現する	事前学習 人前で即興の歌詞を考えて歌う事を準備しておく。(60分) 事後学習 即興で歌詞を歌う事のコツを理解し、実践出来る。(30分)
第11回	童謡 P75～80 P182 大譜表と音名、階名を日本語・イタリア語・ドイツ語で読む。異名同音の定義と実践。	事前学習 P182 予習する。(60分) 事後学習 階名の読み方を理解出来る。(60分)
第12回	童謡 P83～85 P183 様々な音階理論。コードネームの読み方と和音との関係。	事前学習 P183 を予習する。(60分) 事後学習 コードの仕組みが理解出来る。(60分)
第13回	童謡 P86～90 P183 様々な音階理論。コードネームの読み方と和音との関係。	事前学習 P183 を予習する。(60分) 事後学習 コードの仕組みが理解出来る(60分)
第14回	童謡 P91～110 P185 音の強弱・速度・音の表現 反復・拍子に関しての理論と実践	事前学習 P185 を予習する。(60分) 事後学習 音の強弱・速度・音の表現・反復・拍子を理解することが出来る。(60分)
第15回	幼児期の感性の育ちのまとめ及び学生による発表を行い、グループで話し合う。また各自今まで学んだ事をレポート提出する。	事前学習 今までのプリントをまとめる事。 事後学習 子供の感性を様々な視点で考える事が出来る様になる。
テキスト 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出版 及び作成プリント		
参考書・参考資料等 進度に合わせて作成したプリントで授業を行う。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時に解説を行い返却する。 前回の授業で理解出来なかった箇所を確認して授業時間内でフィードバックを行う。 前期末、後期末の定期については、試験後にフィードバックする。		
学生に対する評価 レポート評価(30%) 学びの確認評価(40%)。授業内評価(30%)		
実務経験 芸術学士・幼児リトミック講師・合唱団指導講師		
実務経験を活かした教育内容 児童に関する歌唱・器楽演奏表現指導法 ピアノ簡易作曲法・伴奏法・編曲法 日本の唱歌・童謡の歴史的研究及び表現指導		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術	担当教員名
音楽表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	実務	横森 弘之 篠原 万喜子

授業の概要

乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

音楽表現の指導法 (楽器指導・合奏・即興アンサンブル演奏等)

本授業のテーマは、幼児の豊かな感性や表現する力、創造する力、他者の表現に共感する力、共同する力を援助する技術を習得することができる。単に技術的なスキルではなく学生自身の感性を高め、幼児と共に共感できる資質を育成することができる。

具体的には、以下の9つの到達目標を設定している。

- ① 領域「表現」のねらい、内容並びに全体構造を理解していること、②領域「表現」のねらい、内容を踏まえ、(特に音楽表現において) 幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。③幼児教育における評価の考え方を理解できる。④領域「表現」(特に音楽表現)に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解できる。⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解できる。⑥領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。⑨領域「表現」の特性に応じた(特に音楽表現における)保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けながら理解する。 教材 P100～104	事前学習：教材 P100～104 の内容理解し、ピアノ伴奏を予習しておく。(60分) 事後学習：人前での演奏のポイントの理解が出来る(30分)
第2回	乳幼児の発達の過程を理解し、表現活動において育みたい能力等について、具体的に考える。 教材 P107～109	事前学習：P107～109の曲の内容を各自考査し発表の準備をする。(30分) 事後学習：各自発表した感想をレポート提出する。(60分)
第3回	表現活動と P187 の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けながら、幼児の表現における評価の考え方を理解する。教材 P109～110	事前学習：表現活動と P187 の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を予習(60分) 事後学習：子どもの発達段階をもう一度理解し育ってほしい姿理解する。(30分)
第4回	幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解 教材 P110～111	事前学習：五領域の内容を事前に調べる事が理解に繋がる。(60分) 事後学習：表現のねらい・内容を各自まとめてレポート提出し、理解を深める。(30分)
第5回	幼児期の表現活動と、小学校の(教科での)学習内容との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 教材 P113～116	事前学習：小学校低学年の歌唱曲を各自調べて歌えるように準備する。(30分) 事後学習：小学校との関連性の理解。(30分)
第6回	音楽表現におけるリトミックの事例を資料に基づいて学び、音楽表現の向上に取り組む。 教材 P178～179	事前学習：携帯でリトミックの動画を見て様々な動きを観察しておく。(30分) 事後学習：リトミックと音楽を具体的に捉え保育の現場でイメージ出来る様になる(30分)

第7回	音楽表現における保育実践の動向について学び、保育構想の向上に取り組む。 教材 P123～126	事前学習:1月の代表的な童謡を調べ、弾き歌いがで切るように練習する。(60分) 事後学習:ピアノの伴奏が出来ない箇所を抜き出し技術を高める事が出来る。(60分)
第8回	豊かな感性を育み表現を引き出す言葉掛けについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用を考える。 教材 P126～129	事前学習:1月の童謡をピアノ練習。(60分) 事後学習:ピアノの伴奏が出来ない箇所を抜き出し技術を高める事が出来る(30分)。
第9回	感性豊かな音環境について、自ら身体の諸感覚を通じた体験を生かし、具体的な環境構成を考える 教材 P129～138	事前学習:2月の童謡をピアノ練習。(60分) 事後学習:ピアノの伴奏が出来ない箇所を抜き出し技術を高める事が出来る。(60分)
第10回	表現活動における情報機器及び教材の活用法について学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できる具体案を考える。教材 P138～139	事前学習:3月の童謡をピアノ練習。(60分) 事後学習:ピアノの伴奏が出来ない箇所を抜き出し技術を高める事が出来る。(60分)
第11回	指導案作成について学び、音楽的なねらいについて具体的に考えるとともに、様々に教材研究を行う。 教材 P140～144	事前学習:各グループでクラスコンサートの曲の選定を話し合う。(30分) 事後学習:各グループでの曲の選定の確認と楽器の振り分け、及び各自の練習。(30分)
第12回	モデルとなる指導案に基づいた保育実践をイメージしたり部分的に体験したりすることにより、保育者の援助について考える。 教材 P146～147	事前学習:各グループでクラスコンサートの曲を練習する。(30分) 事後学習:P189の指導案作成を予習。(30分)
第13回	3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。 教材 P148～152	事前学習:P189の幼稚園教育要領を予習する クラスコンサートの準備をする。(30分) 事後学習:クラスコンサートの練習。(30分)
第14回	3歳～5歳児の音楽表現の指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える 教材 P153～157	事前学習:各グループはクラスコンサートの準備練習を行う事。(30分) 事後学習:音楽表現の指導案を作成する事が出来る(30分)。
第15回	クラスコンサートを行う。 幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む。 教材 P158～162	事前学習:各グループのクラスコンサート準備。(30分) 感想をレポート提出する。全体をまとめ、2年次に向け教育意欲を高める。
テキスト 「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出版		
参考書・参考資料等 進度に合わせて作成したプリントで授業を行う。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 小テストや課題等については、授業時に解説を行い返却する。 前回の授業で理解出来なかった箇所を確認して授業時間内でフィードバックを行う。 前期末、後期末の定期については、試験後にフィードバックする。		
学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度(50%) 提出物(50%)		
実務経験 芸術学士・幼児リトミック講師・合唱団指導講師		
実務経験を活かした教育内容 児童に関する歌唱・器楽演奏表現指導法 ピアノ簡易作曲法・伴奏法・編曲法 日本の唱歌・童謡の歴史的研究及び表現指導		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	学術	担当教員名
造形表現 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	・ 実務	兼子真理
授業の概要 幼稚園・保育園での造形・絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的視点を提示しながら学ぶ。幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけると同時に演習を通して表現活動の楽しさを体験する。						
授業の到達目標 つくり出す喜びとは何かを考え、様々な表現の基礎的な知識・技能について知り、各自でスケッチブックにまとめることにより保育の現場で役立つことができる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		
第1回	ガイダンス 5領域 表現のねらい等授業展開の説明			事前学習では教科書 第1章 P.90～92を読む (1時間) 事後学習では学んだことを次回に活かせるよう準備をする(30分)		
第2回	「新聞紙であそぶ」意義、目的を学ぶ			事前学習では教科書を P.69 と P.71 を読み、 演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第3回	身の周りの紙の特徴を学ぶ			事前学習では教科書を P.68～69 を読み、演習 で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第4回	描画材料 クレヨン・クレパス・コンテパステルの 種類と特徴			事前学習では教科書を P.12～13 を読み、演習 で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第5回	絵の具の性質を学ぶ			事前学習では教科書を P.8～11 を読み、演習 で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第6回	絵の具の機能と技法あそび①			事前学習では教科書を P.23 を読み、演習で必 要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第7回	絵の具の機能と技法あそび② 技法あそびの目的と意義			事前学習では教科書を P.24 を読み、演習で必 要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		
第8回	絵の具の導入① 筆を使用する前段階			事前学習では教科書を P.15～17 を読み、演習 で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を 課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)		

第9回	絵の具の導入②	事前学習では教科書をP. 10を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第10回	版画①フロタージュ	事前学習では教科書をP. 33を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第11回	版画②糸引き模様	事前学習では教科書をP. 26~28を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第12回	版画③デカルコマニー	事前学習では教科書をP. 25を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第13回	版画④マーブリング	事前学習では教科書をP. 29を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第14回	版画⑤スパッタリング・ビー玉転がし	事前学習では教科書をP. 23を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
第15回	版画⑥スタンピング	事前学習では教科書をP. 25~26を読み、演習で必要な材料や道具を揃える(1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる(30分)
テキスト		
吉田 収・宮川萬寿美「造形表現」青踏社		
参考書・参考資料等		
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法		
授業で取り扱う提出物について最終回に解説しながら、フィードバックする		
学生に対する評価		
演習・授業への取り組み・態度(50%) 提出物スケッチブック課題(50%)の総合評価		
実務経験		
幼稚園、保育所の造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師		
実務経験を活かした教育内容		
保育所、幼稚園での造形・絵画指導の実務経験を活かし、実践的な造形技法を提示する		

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名
造形表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期		兼子真理
授業の概要 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深める。幼稚園・保育所の造形絵画指導の経験をもつ担当教員により、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。						
授業の到達目標 保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を知る。また表現活動の特徴や面白さを確認することにより、応用や発達を考え実践を重ね、総合的な表現活動を計画・指導・実践する力を身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連 D P II ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容				
第1回	描画の発達段階	事前学習では教科書 P. 44～51 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にまとめる（30分）				
第2回	折り紙を使用した制作	事前に教科書 P. 85～86 を読み必要な材料を準備する（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をわかりやすくまとめる（30分）				
第3回	壁面制作	事前学習では教科書を P. 84 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる（30分）				
第4回	紙版画	事前学習では教科書を P. 34 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をまとめる（30分）				
第5回	パクパク人形①	事前学習では教科書を P. 80 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる				
第6回	パクパク人形②	事前学習では教科書を P. 79 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる				
第7回	幼児造形で使用される粘土①（紙・油・泥・小麦粉）	事前学習では教科書を P. 53 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間） 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる				
第8回	クリスマスカード（ステンシル）	事前学習では教科書を P. 36～37 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える（1時間）				

		事後学習ではスケッチブックに学びの内容をまとめる (30分)
第9回	クリスマスの飾り①	事前学習ではクリスマスオーナメントについて調べ、演習で必要な材料や道具を揃える (1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる
第10回	クリスマスの飾り②	事前学習では、子どもの発達を考え、演習で必要な材料や道具を揃える (1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる
第11回	実践を踏まえた制作①	事前学習では教科書 P.78 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容をまとめる (30分)
第12回	実践を踏まえた制作②	事前学習では教科書を P.80 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (1時間) 事後学習ではスケッチブックに学びの内容を課視覚的にわかりやすくまとめる
第13回	パネルシアター作成	事前学習では教科書を P.81 を読み、演習で必要な材料や道具を揃える (1時間) 事後学習では演じ方の本を読み、実際に演じてみる (1時間)
第14回	指導案に沿って模擬保育を行う	事前学習では指導案を作成する (1時間) 事後学習では学習を振り返り、改善点を考える (30分)
第15回	まとめ	事前学習では学んだことを振り返り、まとめる (1時間) 事後学習ではスケッチブックに学んだ技法や対象年齢、留意点をまとめ実践力を身につける (1時間)
テキスト 吉田 収・宮川萬寿美「造形表現」青踏社		
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
課題等 (試験やレポート等) に対するフィードバック方法 授業で取り扱う提出物については、最終回に解説をしながらフィードバックする		
学生に対する評価 演習・授業への取り組み・態度 (40%) 学習内容の様子や気づきをスケッチブックにまとめ、学生自身の学びが可視されたものを評価する (60%) の総合評価		

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	[学術] ・ [実務]	担当教員名 横森 弘之 兼子 真理 鵜野澤 武美
子どもの生活と遊び I (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期		

授業の概要

乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。また、季節や日本の自然や風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。

授業の到達目標

- ・子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の春・夏の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子どもの生活を質の高い生活へと援助する方法を探求する。
- ・豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身につける。
- ・学んだことを指導案作成の作業を通し、保育と関連付けられる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	ガイダンス(授業の概要説明・導入) ファイル作り(技法: コラージュ)	事前学習: コラージュについて調べ、必要なもの(広告・雑誌)を準備する(1時間) 事後学習: 学習内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第2回	日本の伝統文化や行事について知る 園で行われている行事を知り、子どもの生活にどのように取り入れられているか学ぶ	事前学習: 園ではどのような伝統行事を行っているかインターネット等で調べる(1時間) 事後学習: 学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第3回	子どもが親しむ季節の遊びを知る 子どもの遊びや、環境について学ぶ 季節の遊びについて、グループディスカッションを行う	事前学習: 自分が子どもの頃に遊んだ各季節の遊びを書き出してくる(30分) 事後学習: 学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第4回	身近な昆虫についての知識をもち、子どもの生活や遊びとの関わりを学ぶ CDに合わせて体を動かす	事前学習: 子どもの身近にいる昆虫について調べる(30分) 事後学習: 学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第5回	日本の季節感を感じる童謡や行事の意義を考察し発表する。 童謡・唱歌の創成期から現在までの曲を表にまとめ考察する。 実際に歌い表現の違いを発表する。 コード進行の基礎を学習する。	事前学習: 事前に配布したプリントの童謡を任意に4曲選び考査し学習しておく(30分) 事後学習: 学習したコードネームのC・F・Gの転回形を考え各小節に振り分けることが出来るようにする。(1時間)
第6回	季節感に関する曲を各自表にまとめ発表する。 実際に歌いながら各自注意点を発表しまとめる。 明瞭な発音や言葉の意味を考査する コード進行の基礎を学習する。	事前学習: プリントを参考にして童謡を四季に分けて発表の準備をする。(1時間) 事後学習: 発表後での各自の問題点を考える。コード進行の基礎を確認する。(45分)
第7回	プロの歌い方や動き等動画を参考にして学習する。 声の出し方、音程感覚、発音の明瞭、言葉の意味を伝える表現力等をCD・スマホ等から見聴き、意見交換しながらプレゼン力を磨く。 コード進行の基礎を学習する。	事前学習: スマホでプリントを参考にして事前に学習しておく。3つのポイントを理解しておく。(30分) 事後学習: 歌う基礎の確認。トレーニング方法。作曲の基礎の確認。(30分)

第8回	アニメ曲、ディズニー曲等を調べ発表しながら合奏を楽しむ コード進行の基礎を学習する。 全体のまとめを行い、感想文を提出する。	事前学習：一覧表から曲を選んでおく。グループに分けて合奏練習する。(1時間) 事後学習：合奏の成果をグループで話し合う。コード進行のまとめと感想文の提出。(1時間)
第9回	伝統行事「七夕」について学ぶ	事前学習：「七夕」の由来を本やインターネット等で調べる(1時間) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第10回	折り紙遊び(七夕飾り)	事前学習：折り紙の歴史・種類について調べる(1時間) 事後学習：七夕飾りの意味についてまとめる(1時間)
第11回	風を感じる遊び①(乳児編)	事前学習：乳児の発達段階を調べる(1時間) 事後学習：学んだことをまとめる(1時間)
第12回	風を感じる遊び②(幼児編)	事前学習：幼児の発達段階を調べる(1時間) 事後学習：学んだことをまとめる(1時間)
第13回	折り染	事前学習：折り方を研究する(1時間) 事後学習：染め紙を活かした作品を考え、まとめる(1時間)
第14回	水を使った遊びの実践 色水遊び 泡ヨーヨー	事前学習：水を使った遊びについて本やインターネットで調べる(30分) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(30分)
第15回	まとめ	事前学習：今までの資料を読み返し整理しておく(1時間) 事後学習：学習した内容を振り返り、ファイルにまとめる(1時間)
テキスト なし		
参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する。		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法 ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。 ・子どもの生活と遊びⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、一つのファイルにまとめ、発表する。		
学生に対する評価 授業学習に関して積極的に取り組む姿勢(30%)、課題・発表(70%)の総合評価		
実務経験 横森弘之 幼児リトミック講師、合唱団指導講師 兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師 鵜野澤武美 幼稚園教諭・幼稚園園長、認定こども園園長、保育士		
実務経験を活かした教育内容 第5回から第8回の授業は、幼児への音楽指導経験のある教員による授業である。季節の歌を取り入れ、子どもに指導するための歌唱法、楽器の指導法等を学ぶ実践的授業である。第10回から第13回の授業は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。季節に合わせた遊びの中で実践できる造形の技法を具体的に学ぶ。第2回から第4回、第9回、第14回は、幼稚園教諭・園長の経験を持つ教員による授業である。子どもの遊びや伝統行事を知り、事例の検討や体験を通して園での子どもの生活について理解を深める。また、学んだことが実践に結びつくよう実務経験を活かした掲示をする。		

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	[学術] ・ [実務]	担当教員名
子どもの生活と遊びⅡ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 後期		横森 弘之 兼子 真理
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもは、日常の生活の中から様々な体験を積み重ねている。子どもが豊かな生活を送るために保育者として必要な知識や技術を実践的に学ぶ。 ・季節や自然・風土に根差した、子どもの遊びや生活について理解を深める。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは環境の中で自らを発揮しながら、遊びを通して園生活を楽しむ。日本の春・夏・秋・冬の季節を感じ、日本の伝統文化、行事を総合的に実践し、子供の生活を質の高い生活へと援助する方法を探求出来る。 ・豊かな保育実践に必要な生活の基礎を身につける。 ・学んだことを指導案作成の作業を通し、自分の保育と関連付けられる。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前(準備)・事後学習の内容		
第1回	1回～7回ガイダンス(授業の概要説明・導入) 教科書「子供の打楽器」の小太鼓・大太鼓のトレーニングを全員で行い演奏法を学ぶ			事前学習：小太鼓・大太鼓を予習する(30分) 事後学習：小太鼓・大太鼓の演奏法が出来る様になる。(30分)		
第2回	様々な曲に保育楽器を用いて楽しく合奏しながら、表現力を磨く。各自演奏技術を高めると共に、手作り楽器に挑戦する。紙芝居、エプロンシアター等のBGMを考査し、体験する。			事前学習：プリントの曲を譜読みし、全体を予習する(1時間) 事後学習：自分で選曲した3曲は演奏出来る様になる。(30分)		
第3回	保育楽器の種類、特徴、演奏方法を習得する。リズム楽器のみの合奏を経験し適合する曲を考査する。年齢に合わせた合奏の方法を交差する。保育楽器と吹奏楽で使用する楽器を用いてコラボして楽しむ。スマホを活用して音楽に創作ダンスを取り入れ、動きを加え楽しむ。			事前学習：吹部経験者は各自プリントを参考に練習しておく。(1時間) 事後学習：プリントの曲を保育楽器と吹部とのコラボレーションを楽しみ、豊かな響きを経験する事が出来た。		
第4回	紙芝居(読み聞かせ)、エプロンシアター、音楽劇等のBGM作りを経験する。BGMに必要な定番のリズム楽器とメロディー楽器の効果的な使い方を実践を交えて、次回のグループ発表に備える。			事前学習：グループで題材を決めて、事前に練習しておく。(1時間) 事後学習：。BGMに必要な定番のリズム楽器とメロディー楽器の効果的な使い方を修得出来る様になる。		
第5回	各グループで紙芝居・読み聞かせ・エプロンシアター・創作劇等にBGMを入れて発表する。感想文を提出する。			事前学習：各グループで練習を行う(1時間) 事後学習：各グループの発表を見て、様々な表現を学ぶ事が出来る。(30分)		
第6回	日本の古くからの童謡、唱歌をプリントから考察して年代別にまとめ各グループ毎に発表する。			事前学習：プリント・ユーチューブから資料をそろえておく。(1時間) 事後学習：童謡・唱歌の歴史を知ることが出来る。		
第7回	世界の古くから伝わる童謡、民謡等をプリントから考察し年代別にまとめ各グループ毎に発表する			事前学習：プリント・ユーチューブから資料をそろえておく。(1時間) 事後学習：世界の童謡・民謡の歴史を知ることが出来る。(30分)		
第8回	季節を感じるバッグ作り 身近な描画で簡単にオリジナルバッグを作ります			事前学習：日本の四季について調べる(1時間) 事後学習：作品に使用した描画材料や留意点		

		をファイルにまとめる
第9回	秋の子どもの遊び 「オータムボックス」を作ろう	事前学習：葉っぱを広い、集めた葉っぱの種類について調べる（1時間） 事後学習：自分で作った「オータムボックス」の写真を撮りファイルにまとめる
第10回	冬の子どもの遊び 「毛糸で遊ぼう」ボンボン作り、雪の結 etc	事前学習：子どもの頃に行った冬の遊びについて振り返る（1時間） 事後学習：授業内容を視覚的に分かりやすくファイルにまとめる
第11回	みんなで楽しむクリスマス会 子どもが大好きな行事の準備とは	事前学習：クリスマスカードを作成し、招待状やクリスマス会の準備をする（1時間） 事後学習：作成したクリスマスカードの写真を撮りファイルにまとめる
第12回	伝承あそびⅠ 日本の伝統あそびを学ぶ	事前学習：子どもの頃に遊んだ伝承遊びを振り返り、まとめる（1時間） 事後学習：学習内容をファイルにまとめる
第13回	伝承あそびⅡ 世界の伝承あそびを学ぶ	事前学習：世界の伝承遊びについて調べる（1時間） 事後学習：学習内容をファイルにまとめる
第14回	伝承あそびⅢ 折り紙で遊ぼう	事前学習：伝統文化について調べる（1時間） 事後学習：学習内容をファイルにまとめる
第15回	まとめ	事前学習：授業時の配布資料をまとめる（1時間） 事後学習：学習内容を振り返り、ファイルをⅠ、Ⅱ、Ⅲ全てをまとめる

テキスト

- ・保育を支える生活の基礎 神蔵幸子・中川秋美編著 萌文書林
- ・説明用資料を授業内で配布する。

参考書・参考資料等

- ・授業内で随時、紹介する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。
- ・子どもの遊びと生活Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて、課題はファイルにまとめ授業内で発表する。

学生に対する評価

授業学習に関して積極的に取り組む姿勢（30%）、課題・発表（70%）の総合評価

実務経験

横森弘之 幼児リトミック講師、合唱団指導講師

兼子真理 幼稚園・保育所の絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師

実務経験を活かした教育内容

第1回から第7回の授業は、幼児への音楽指導経験のある教員による授業である。保育楽器を用いて合奏の実践を行い、年齢に応じた指導法を学ぶ。また、紙芝居（読み聞かせ）、エプロンシアター、音楽劇等のBGM作りを経験することで、保育における楽器の効果的な活用の仕方を学ぶ。第8回から第14回は、幼稚園、保育所での絵画指導、幼児対象の造形ワークショップの指導経験のある教員による授業である。季節に合わせた制作を取り入れ、自然・素材・教材への理解を深める。また、日本と世界の伝承あそびについて学ぶ。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 堀内 弓子 佐久間 博子
子どもの生活と遊びⅢ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期		
授業の概要 実践内容は、「身体表現」「大型遊具」「小型遊具」「素材遊具を使った遊び」「伝承遊び」等を取り上げる。それぞれの運動特性、遊具の取り扱いの習熟、指導の目標と方法について理解を深める。一方、特に運動発達の視点から幼児教育の根幹である「育みたい資質・能力」を育てる指導・援助のあり方を考える。						
授業の到達目標 日常の生活やあそびの中で多様な動きを身につける時期は、乳幼児期である。その動きを身につけることが、丈夫な体を作り、知識を身につけ、工夫し考える力をつけ、友達をつくることにつながっている。この視点から、「多様な動きを育む」ための環境や知識、技術を習得し、実践できる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	ガイダンス(授業の進行・テキストの活用法等) 「人や物とかかわったり触れ合ったりしながら、十分に体を動かす」大切さを知る(1)	事前学習：幼稚園教育要領等を熟読しておく。(30分) 事後学習：学んだことから自分が考えたこととその理由を記述する。(30分)				
第2回	「人や物とかかわったり触れ合ったりしながら、十分に体を動かす」大切さを知る(2) ・外に出たがらない子への対応を考える ・図書を参考に、乳幼児の遊びの理解を深める	事前学習：第1回目に学び、考えたことを復習しておく(30分) 事後学習：考えた運動遊びを子どもと楽しむことをイメージして環境構成を考える。(30分)				
第3回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(1) 『普段しない動きをする(発達に役立つ多様な動きをする)』運動遊びを考える。テキスト(以下(7)とする)p46～49 歌って運動・小型遊具(フープ、なわ等)遊び	事前学習：テキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：子どもの遊びを変化発展させるポイントを実践的に学んだ上で、子どもと関わる工夫を考える。(30分)				
第4回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(2) 「リズムカルな運動遊び」を実践し、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ。 ケンケンパ、リズム遊び(伝承遊び)、オノマトベを使った遊びの種類を知り、自らの遊び経験を保育に生かす工夫を考える。(7)p62	事前学習：配布資料とテキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：子どもがもっと遊びたくなるリズムカルな運動遊びの体験や、これまでの経験等を活かしてあそびの指導案を作成する。(30分)				
第5回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(3) イメージを膨らませて行う身体表現遊びや異年齢の運動遊びを実践し、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ。 身近な物や生き物をイメージした遊び	事前学習：配布資料を読む。(30分) 事後学習：子どもがもっと遊びたくなる身体表現遊びや異年齢の遊びを実践的に学んだことから、保育の中での環境構成や援助方法を考える。(30分)				
第6回	「いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす」(4) 異年齢という特徴を生かした運動遊びを知る。(7)p62～65 異年齢で遊べる伝承遊びを調べる。	事前学習：テキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：子どもと行ってみたい異年齢で遊べる伝承遊びの遊び方を考える。(30分)				
第7回	「日常の運動遊びを生かした運動会の工夫を知る」(1)(7)p70～72 親子体操、各種リレー、平均台遊び	事前学習：テキストの該当箇所を読む。(30分)				

		事後学習：運動会に生かせる日常の運動遊びを体験して、保育への活かし方を考える。 (30分)
第8回	「日常の運動遊びを生かした運動会の工夫を知る」 (2)(7) p 70～72 文献を検索	事前学習：前回考えたことを具体化する。 (30分) 事後学習：日常の保育の中で、子どもと行ってみたい運動遊びの指導案を作成する。(30分)
第9回	「年齢に応じた動きの獲得を目指した運動遊びを知る」(7) p 58～61 「身近な素材を使った遊び」について、有効な環境構成や援助の仕方を学ぶ(1) スズランテープ、布(バルーン)を使った遊び	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分) 事後学習：身近な素材を使った遊びや大きな布(バルーン)を使った遊びを实践して、保育への活かし方を考える。(30分)
第10回	第1回～第9回で体験した運動遊びや自分で調べた運動遊びを基に保育現場で実際に子どもと行ってみたい遊びの指導案作成を行う。	事前学習：これまでのテキストの該当箇所や自分で作成した遊びのポケット(指導案)を振り返る。(30分) 事後学習：自ら作成した指導案を基に実習先の子どもをイメージして援助内容を考える。(30分)
第11回	幼児期の模倣あそび 幼児期の模倣運動から得られる発育発達を理解し、子どもにとって楽しめる模倣あそびを体験する。	・配布資料を読み、子どもにとっての模倣あそびの意義を押さえておく。(事前準備30分) ・授業の内容に関する気づきや感想をまとめる。(事後学習30分)
第12回	屋外での運動あそび 子どもが体を十分に動かすことに「楽しい」「やってみよう」と感じられるような動きの多様性を学び、さらに安全を考えたルールや注意点を理解する。	・領域「健康」のねらいと、子どもにとっての身体活動の意義を理解しておく。(事前準備30分) ・「体を十分に動かす」ことの体験を通して子どもにとっての「意欲」を引き出すポイントや注意点をまとめておく。(事後学習30分)
第13回	室内での運動あそび 保育室やホールなどの室内で安全に楽しめる運動あそびを考え、道具や遊具などの環境設定の仕方を考える。また実際に体験することで安全管理の必要性を学ぶ。	・室内でも十分に体を動かして遊べる運動あそびを調べておく。(事前学習30分) ・授業で学修した「安全で楽しい環境設定」を図解・解説を入れてまとめておく。(事後学習)
第14回	廃材遊び 子どもの生活の中で身近にあるものを利用した様々な遊びを知る。子どもが素材に興味を持ち、自分で工夫したり、友達と共有したりしながら作って遊ぶことを楽しめる指導法を学ぶ。	・生活の中で身近にある廃材にはどのようなものがあるか、またどのような使い方ができるか調べておく。(事前学習30分) ・授業で学修した「廃材を利用した運動遊び」を図解・解説を入れてまとめておく。(事後学習30分)
第15回	第11回～14回のまとめ これまで体験した運動遊びや自分で調べた運動遊びを基に保育現場で実際に子どもと行ってみたい遊びの指導案作成を行う。	・これまでの授業で使用した配布資料やレポート、指導案を読んで理解しておく。(事前学習30分) ・教員による指導案添削後、修正し、わからないところは再度教員の指示を仰ぐ。(事後学習30分)
テキスト 石濱加奈子・堀内弓子著(他)『子どもの運動・遊び』アイ・ケイ コーポレーション、2021年		
参考書・参考資料等 授業内で随時、紹介する。		

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・理解度を確認するための小テストや課題等については、授業時に解説を行ったうえで返却する。
- ・提出物については、最終回にフィードバックして再確認を行う。
- ・小テストや課題等については、授業時間内で講評等フィードバックを行う。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(50%)と課題やテスト、ノート等の提出物(50%)の総合評価

実務経験

堀内弓子(保育所体育指導)、佐久間博子(幼稚園体育講師)

実務経験を活かした教育内容

授業の中で実務経験を活かした体験的事例を紹介, 解説する。

授業科目名 保育方法論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 神蔵 幸子
	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期		

授業の概要

保育は「環境を通して行う」ことを基本としており、保育者には乳幼児の発達を理解し、それぞれの段階にふさわしい保育を展開することが求められている。「遊びを通しての総合的な指導」の観点のもとに、さまざまな保育方法の具体的展開と工夫について学ぶ。

授業の到達目標

- ・多様な保育形態および保育方法について学び、場面に応じた保育方法の選択ができる。
- ・保育実践例について考察することにより、子どもの発達に応じた保育方法について応用することができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ③

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	「方法」を考えるときに大切なこと ・保育方法の状況性、多面性	事前学習：各回の内容をシラバスで確認する。 テキスト第1章を読み、興味をもった箇所に下線を引く。(1時間)
第2回	子どもと遊びの楽しさを共有する方法を探る	事前学習：テキスト第2章§3を読み、自分の実習体験の事例を振り返り関連する記録を抽出しておく。(1時間)
第3回	子どもが育つ環境を作る方法について ①幼稚園教育要領が示していること	事前学習：幼稚園教育要領の第1章総則を読み、環境を通して行う教育の記述を確認し、理解を深めておく。(1時間)
第4回	子どもが育つ環境を作る方法について ②季節を視野に入れた環境構成	事前学習：参考図書『保育を支える生活の基礎』第2章に目を通し、各月に行いたい行事を整理し、それぞれについて必要な準備期間を見通して表にしておく。(1時間)
第5回	子どもたちの遊びを援助するということについて	事前学習：テキスト第4章§1, 2を読み、大切な箇所に下線を引き疑問点を整理しておく。(1時間)
第6回	保育の形態と保育方法について	事前学習：テキスト第4章§4, 5を読み、実習時の活動内容による様々な保育形態の変化について振り返る。(1時間)
第7回	環境構成と保育の展開	事前学習：テキスト第5章を読み、生活に関する活動について、新たに気付いたことを整理しておく。(1時間)
第8回	子どもの育ちに即した援助の方法 ①個々の子どもの育ちへの援助	事前学習：テキスト第6章§1, 2, 3を読む。 発達心理学等のテキストを見直し、子どもの発達段階について確認しておく。(1時間)
第9回	子どもの育ちに即した援助の方法 ②子ども集団の育ちへの援助	事前学習：テキスト第6章§4を読み、集団活動としての保育方法について考える。 (1時間)
第10回	子どもと共に行う栽培活動の方法	事前学習：テキスト第7章を読み、自分が実際にやりたい植物を1つ選び、栽培計画を立ててみる。(1時間)

第11回	外国にルーツをもつ子どもへの援助の方法	事前学習：テキスト第8章§3及び保育所保育指針、幼稚園教育要領における関連箇所を確認する。(1時間)
第12回	保育記録から保育方法を探る 記録を取る意義と記録の要点	事前学習：テキスト第9章を読み、自己の実習記録を対応させて改善点をあげる。(1時間)
第13回	家庭との連携についてのグループワーク グループによる園便りの作成	事前学習：テキスト第10章を読む。 実習園でいただいた園便りがあれば見直し、授業に持参する。(1時間)
第14回	保育内容の変遷と現代の保育方法	事前学習：テキスト第11章§2を読み「環境を通して行う教育」に至る過程を理解しておく。(1時間)
第15回	第1～14回目の学習内容の振り返り・確認の小テストと解説	事前学習：配布資料やノートを整理し、不明な点はテキストで確認する。(1時間)
テキスト 久富陽子・梅田優子『保育方法の実践的理解』萌文書林		
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 神蔵幸子・中川秋美編著『保育を支える生活の基礎』萌文書林		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・各回の授業の省察の記録については、内容を確認し必要に応じてコメントを付して返却する。 ・小テストについては、終了後解説を行う。		
学生に対する評価 小テスト（40%）、指定用紙による授業の省察の記録（40%）、授業への意欲・参加度（20%）		

授業科目名 保育環境構成技術(音楽)Ⅰ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原万喜子 佐々木美奈子 中村みどり 梅原恵子 中村美雪 大石由起子 花田えり佳
	選択	必修	本学 指定	開講期： 1学年 通年		
授業の概要 表現活動を行うための基礎技能・知識を習得し、表現力を身に付ける。 現場に備えられていることの多い鍵盤楽器(ピアノ)を用いながら、表現する技術を習得する。 前期は春と夏の童謡を、後期は秋と冬の童謡を中心に取り組む。 また、実習に備え、「生活のうた」などを習得する。						
授業の到達目標 各自の実技経験に合わせた内容を選び達成する。 初心者は、楽典の基礎を知り、ピアノ実技の基礎的な技術を習得する。並行して、保育現場に必要な童謡や生活のうたをやさしい伴奏で弾き歌いができるようになる。 経験者は、童謡や行事のうたを中心に、季節に関わらず弾き歌いや合奏ができるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	MLシステムの楽器の使い方 指番号と、高音部譜表の音符の読み方の習得(メト ^o ローズ ^o P.4~7)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(2時間)				
第2回	五線、音部記号(楽典テキストP.4~7) 高音部譜表と低音部譜表の音符の読み方(メト ^o ローズ ^o P.6~11)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典テキストP.5,7 (2時間)				
第3回	譜表(楽典テキストP.8~9) 音符の種類 右手と左手を異なる音部記号を見ながら同時に動かす練習(メト ^o ローズ ^o P.8~13)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典テキストP.9 (2時間)				
第4回	音名(楽典テキストP.10~12) 休符の種類 スラーとスラーを切る練習(メト ^o ローズ ^o P.12~14) 0.1才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する(2時間)。 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典テキストP.11,12 (2時間)				
第5回	オクターブ(楽典テキストP.13~14) 左手の分散和音の伴奏形態を習得(メト ^o ローズ ^o P.14~15) 0,1才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典テキストP.14 (2時間)				
第6回	音符と休符1(楽典テキストP.15~17) ソのポジションを習得(メト ^o ローズ ^o P.15~17) 2才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典テキストP.16,17 (2時間)				
第7回	リズムと拍子(楽典テキストP.18~21) いろいろのポジションを習得(メト ^o ローズ ^o P.17~19)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、				

	2, 3 才児へ向けた童謡	次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 20, 21 (2時間)
第8回	音符と休符 2 (楽典テキスト P. 22~23) 6 度音程の習得 (メト・ローズ P. 20~21) 3, 4 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 23 (2時間)
第9回	変化記号 (楽典テキスト P. 38~41) 付点音符の練習 (メト・ローズ P. 20~23) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 40, 41 (2時間)
第10回	異名同音 (楽典テキスト P. 42~43) 1 年次教育・保育実習の準備 シャープ記号の練習 (メト・ローズ P. 22~25) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 43 (2時間)
第11回	1 年次教育・保育実習の準備 休符の練習 (メト・ローズ P. 24~27) 前期課題発表曲の準備 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。「おべんとう」「おかえり のうた」を練習する。(2時間)
第12回	第1~11 回までの復習 (楽典テキスト) 8 分音符の習得 (右手のみ) (メト・ローズ P. 28~29) 前期課題発表曲の準備 2 才児、5 才児へ向けた童謡	事前学習: 前期課題の発表曲を練習する。 (2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習 し、次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 4~ 23, P. 38~43 (2時間)
第13回	第1~11 回までの学習内容の振り返り・確認 (楽典 テキスト) 8 分音符の習得 (左手にも 8 分音符を入れる) (メ ト・ローズ P. 28~31) 前期課題発表曲の準備 0 才児~5 才児へ向けた童謡	事前学習: 前期課題の発表曲を練習する。 (2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習 し、次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 4~ 23, P. 38~43 (2時間)
第14回	1 年次教育・保育実習の準備 前期課題発表曲の準備	事前学習: 前期課題の発表曲を練習する。 (2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。「生活のうた」を練習する。 (2時間)
第15回	広い教室でグループごとに課題曲を発表	事前学習: 前期課題の発表曲を練習する。 (2時間) 事後学習: 後期に行う童謡の練習をする。 (2時間)
第16回	リズムとソルフエージュ 9 月教育実習の振り返り 付点音符の習得 (メト・ローズ P. 32~33)	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。リズムとソルフエージュ の復習をする。(2時間)
第17回	8 分の 6 拍子 (楽典テキスト P. 18~21) 付点音符の習得 (メト・ローズ P. 32~33) 1, 2 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 20, 21 (2時間)
第18回	音程 (楽典テキスト P. 44~47) フラット記号の習得 (メト・ローズ P. 33~35)	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2時間)

	1, 2 才児へ向けた童謡	事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 46, 47 (2 時間)
第 19 回	音程の種類と名称 (楽典テキスト P. 48~50) 3/8 拍子と 6/8 拍子の習得 (メト・ロズ P. 36) 3, 4 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 50 (2 時間)
第 20 回	変化記号の付いた音程 (楽典テキスト P. 51~52) 第 19 回目の応用曲 (メト・ロズ P. 36~37) 3, 4 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 52 (2 時間)
第 21 回	ハ長調の音階とカデンツ (楽典テキスト P. 53~55) 親指をくぐらせる練習 (メト・ロズ P. 38) 3, 4 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 55 (2 時間)
第 22 回	ト長調の音階とカデンツ (プリント) 復習と 4 課のまとめ (メト・ロズ P. 38~39) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。音階とカデンツを弾く。 (2 時間)
第 23 回	ヘ長調の音階とカデンツ (プリント) 2 つ以上の音を一度におさえる練習 (メト・ロズ P. 40) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容をする。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。音階とカデンツを弾く。 (2 時間)
第 24 回	調と調号 (楽典テキスト P. 56~59) 第 23 回目の応用曲 (メト・ロズ P. 40~41) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト P. 58, 59 (2 時間)
第 25 回	やさしい伴奏付け ラの短調のポジションを習得 (メト・ロズ P. 40~43) 4, 5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。課題練習をする。(2 時間)
第 26 回	やさしい伴奏付け ソの短調のポジションを習得 (メト・ロズ P. 43~45) 2 才児~5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。課題練習をする。(2 時間)
第 27 回	第 1~24 回までの復習 (楽典テキスト) 後期学習内容の振り返り レの短調のポジションを習得 (メト・ロズ P. 45~46) 2 才児~5 才児へ向けた童謡	事前学習: 教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト (2 時間)
第 28 回	第 1~24 回までの復習 (楽典テキスト) 後期課題発表曲の準備 5 課の復習 (メト・ロズ P. 46~47) 2 才児~5 才児へ向けた童謡	事前学習: 後期課題の発表曲を練習する。 (2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典テキスト (2 時間)
第 29 回	後期課題発表曲の準備	事前学習: 後期課題の発表曲を練習する。 (2 時間) 事後学習: 各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。(2 時間)

第 30 回	広い教室でグループごとに課題曲を発表	<p>事前学習：後期課題の発表曲を練習する。 (2時間)</p> <p>事後学習：今後もこれまでに受けた指導内容を忘れないよう復習を続ける。</p>
<p>テキスト</p> <p>内藤雅子著『楽譜の基礎をやさしく学ぶ おとなの楽典テキスト・ワーク』(株)デプロMP エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド 安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社 吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1. Vol.2』音楽之友社</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>基礎的楽典等のプリントやピアノ実技計画一覧 必要に応じて、弾きやすい簡易楽譜を作成し資料として使用</p>		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <p>課題発表後、未習得者へは、補習を行い指導する。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>音楽の基礎知識定着度(40%)、課題発表における音楽表現力(40%) グループ授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢(20%)の総合評価</p>		

授業科目名 保育環境構成技術(音楽)Ⅱ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 篠原万喜子 佐々木美奈子 中村みどり 梅原恵子 中村美雪 大石由起子 花田えり佳
	選択	本学 指定	本学 指定	開講期： 2学年 通年		
授業の概要 現場に備えられていることの多い鍵盤楽器(ピアノ)を用いながら、幅広い技術・知識を習得する。 ピアノ教則本を最後まで習得し、表現技術を身につける。終了した学生は、リズムを適格に弾き幅広い表現力を身につけるため、マーチや小曲集の中から選曲し取り組む。並行して実習に備え、童謡を中心に現場で行われている曲を習得する。						
授業の到達目標 音楽Ⅰの曲より難度の上昇した童謡や、保育現場で行っている曲の弾き歌いができるようになる。 子どもたちと楽しめる音楽活動を行い、実習園より指定の曲などを弾けるようになる。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ④						
授業計画表						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第1回	2月・3月保育実習での音楽表現振り返り 指を広げる練習と連打音の習得(メト・ローズ P.48~49)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(2時間)				
第2回	自然短音階(楽典レッスンP.7~8) 強弱をつけながら表現することを学ぶ(メト・ローズ P.50) 3.4 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。音階を弾く。(2時間)				
第3回	和声短音階(楽典レッスンP.7~8) 強弱をつけながら表現することを学ぶ(メト・ローズ P.50~51) 3.4 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。音階を弾く。(2時間)				
第4回	ダイアトニックコード(楽典レッスンP.13~14) 右手と左手を交互に強弱をつける(メト・ローズ P.52) 4.5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典レッスンP.14 (2時間)				
第5回	主要三和音(楽典レッスンP.15~16) 右手に表情をつけながら左手の伴奏にも強弱をつける(メト・ローズ P.52~53) 4.5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典レッスンP.16 (2時間)				
第6回	属七の和音(楽典レッスンP.15~16) 和音を弾く練習(メト・ローズ P.54) 4.5 才児へ向けた童謡	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。楽典レッスンP.16 (2時間)				
第7回	2年次教育・保育実習の準備「おはようのうた」 音をのぼしながら和音を弾く練習(メト・ローズ P.55)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。「生活のうた」を練習する。 (2時間)				

第 8 回	2 年次教育・保育実習の準備「おかえりのうた」 音階の習得(ト・ド・レ・ミ P. 56)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。「生活のうた」を練習する。 (2 時間)
第 9 回	2 年次教育・保育実習の準備「おべんとう」 全課のまとめ(ト・ド・レ・ミ P. 57)	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。「生活のうた」を練習する。 (2 時間)
第 10 回	転回形(楽典レッスン P. 11~12) 2 年次教育・保育実習の振り返り	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典レッスン P. 12 (2 時間)
第 11 回	速度記号、強弱記号(楽典レッスン) 0 才~3 才児へ向けた童謡 付点音符のリズムとそうではないリズムの組み合 わせを習得	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。楽典レッスンの演習問題。 (2 時間)
第 12 回	第 1~11 回目目の復習 0 才~5 才児へ向けた童謡 和音で付点音符のリズムを習得 前期課題発表曲の準備	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。(2 時間)
第 13 回	第 1~11 回目目の学習内容の振り返り・確認 0 才~5 才児へ向けた童謡 前期課題発表曲の準備	事前学習：前期課題の発表曲を練習する。 (2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。
第 14 回	前期課題発表曲の準備	事前学習：前期課題の発表曲を練習する。 (2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。
第 15 回	グループごとに広い教室で課題曲を発表	事前学習：前期課題の発表曲を練習する。 (2 時間) 事後学習：後期に行う童謡の練習をする。 (2 時間)
第 16 回	前期の復習 9 月教育・保育実習での音楽表現振り返り	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習 し、次回の授業へ臨む。(2 時間)
第 17 回	ハ長調の 3 コード、伴奏パターン① マーチを活用し、付点音符とそうではない音符の組 み合わせリズムを習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。カデンツ、伴奏パター ンの練習をする。(2 時間)
第 18 回	ハ長調の伴奏付け マーチを活用し、付点音符とそうではない音符の組 み合わせリズムを習得 4.5 才児へ向けた童謡や合奏	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間) 事後学習：各回で指導を受けた内容を復習し、 次回の授業へ臨む。伴奏付けの練習をする。 (2 時間)
第 19 回	ト長調の 3 コード、伴奏パターン② リトミックに活用できるよう、和音での付点音符と そうではない音符の組み合わせリズムを習得	事前学習：教材と実技計画一覧をもとに、各 回で課題となった内容を練習する。(2 時間)

	4.5才児へ向けた童謡や合奏	事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。カデンツ、伴奏パターンの練習をする。(2時間)
第20回	ト長調の伴奏付け リトミックに活用できるよう、和音での付点音符とそうではない音符の組み合わせリズムを習得 4.5才児へ向けた童謡や合奏	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。伴奏付けの練習をする。(2時間)
第21回	へ長調の3コード、伴奏パターン③ 4.5才児へ向けた童謡や合奏	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。カデンツ、伴奏パターンの練習をする。(2時間)
第22回	へ長調の伴奏付け 4.5才児へ向けた童謡や合奏	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。伴奏付けの練習をする。(2時間)
第23回	伴奏付け課題演習 0才児～5才児へ向けた童謡	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。伴奏付けの練習をする。(2時間)
第24回	移調、楽譜の書き方 0才児～5才児へ向けた童謡	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。移調の練習をする。(2時間)
第25回	伴奏付け課題発表、指導、提出 0才児～5才児へ向けた童謡	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(2時間)
第26回	コードネーム① 0才児～5才児へ向けた童謡	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。変化記号、音程の復習をする。(2時間)
第27回	コードネーム② 後期課題発表曲の準備	事前学習:教材と実技計画一覧をもとに、各回で課題となった内容を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。コードネームを見ながら鍵盤楽器(ピアノ)で弾きながら確認する。(2時間)
第28回	コードネームまとめ 後期課題発表曲の準備	事前学習:後期課題の発表曲を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(2時間)
第29回	後期課題発表曲の準備	事前学習:後期課題の発表曲を練習する。(2時間) 事後学習:各回で指導を受けた内容を復習し、次回の授業へ臨む。(2時間)
第30回	グループごとに広い教室で課題曲を発表	事前学習:後期課題の発表曲を練習する。(2時間) 事後学習:今後もこれまでに受けた指導内容を忘れないよう復習を続ける。

テキスト

山本英子著『びあなのアトリエ 楽典レッスン1.2』共同音楽出版社
エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド 安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社
吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1.Vol.2』音楽之友社
マーチのプリント配布 吉田梓編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ

参考書・参考資料等

楽典他のプリントやピアノ実技計画一覧を配布する。
必要に応じて弾きやすい簡易楽譜を作成し授業内で紹介、配付する。

課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

課題発表後、未習得者へは補習を行い指導する。

学生に対する評価

実技授業を受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢、態度（40%）と半期ごとの課題発表における音楽表現力と筆記による知識定着度（60%）の総合評価

授業科目名 保育・教職実践演習 (幼稚園) (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	学術 ・ 実務	担当教員名 佐藤寛之, 本田幸 (他に専任教員 13名)
	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期		

授業の概要

幼稚園教諭・保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任感、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各自の修得状況を総合的に自己分析・診断する。保育及び福祉の各専門分野の教員の授業から、保育の理論と実践をもう一度振り返る。保育者となるために、各自新たな課題を意識するとともに、それぞれの専門性を自分のものとする。特に、保育における記録の意義について学び、「保育ドキュメンテーション」についての概要を知る。この科目全般を通して、「子どもに寄り添う保育」とは何か、「保育の総合性」を学ぶ授業を行う。

授業の到達目標

幼稚園教諭・保育士になるために必要な「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任感、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」に関する資質を強化するために、各自が自分自身の課題・目標を設定し、演習、学習活動に取り組むことにより、幼稚園教諭、保育士、保育教諭に必要な実践力の底上げを図り、その能力的統合を行うことで、卒業までに各自可能な限り、保育・教育実践に必要なコンピテンシーを向上させる。さらに、授業の最終段階において、これまでのすべての学びを振り返ることで、卒業後、保育専門職者として職務遂行において更なる強化、取組が必要だと考える課題を見いだすことにより、向上心を持ち、向上する方法を知る保育専門職者として職場に立つことができる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①, DPⅡ②, DPⅡ③, DPⅡ④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	この科目の目的・趣旨（履修カルテ、学習成果の振り返り）	【事前学習】これまでの全教科の学習内容特に2回の教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ等の学習内容をしっかり再確認しておくこと。今までの学びを通して、幼児教育者・保育者に求められることは何かを整理しておくこと。テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.6～13「第1の扉 この授業の目的・趣旨」「第2の扉 保育という営み」をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】履修カルテの記入により明確になった自己課題達成に向けて、具体的な学習の取り組み方を考え、後期授業に臨む心構えを持つ（事後学習2時間）。
第2回	保育内容について学ぶ（1）領域【健康】	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.14～17をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。
第3回	保育内容について学ぶ（2）領域【健康】	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.18～21をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。

第4回	保育内容について学ぶ(3)領域【表現】音楽	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.26～29をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。</p>
第5回	保育内容について学ぶ(4)領域【表現】音楽	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.30～33をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。</p>
第6回	保育内容について学ぶ(5)領域【表現】造形	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.34～37をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。</p>
第7回	保育と記録(1)	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.38～41をよく読んでおくこと。特に保育の計画の基本的考え方、PDCAサイクルの重要性について復習しておくこと。事前に配布した資料についてあらかじめ目を通しておくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】授業で学んだ保育記録の意義、方法、保育実践に向けての活用について復習しておくこと(事後学習2時間)。</p>
第8回	保育と記録(2)	<p>【事前学習】保育記録における映像の活用に向けて、カメラ、ビデオ、などを使った保育記録の在り方や、保育施設のHPなどを見て調べておくこと。(事前学習2時間)</p> <p>【事後学習】実際に映像を使った保育記録を用いて、子ども理解にどのようにつながるかについてまとめること。(事後学習2時間)</p>
第9回	文化と保育(1)手あそびうたで育ちあう	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.42～45をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。</p>
第10回	文化と保育(2)保育の中の多文化	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.46～49をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p> <p>【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること(事後学習2時間)。</p>
第11回	健康及び安全	<p>【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.50～53をよく読んでおくこと(事前学習2時間)。</p>

		【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。
第12回	保育と福祉の接点（1）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.54～57をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。
第13回	保育と福祉の接点（2）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.58～61をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。
第14回	保育とコミュニケーション	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.62～65をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】すでに学習したそれぞれの教員の教科内容と関連させて学習内容を整理し、各自のポートフォリオに反映させること（事後学習2時間）。
第15回	まとめ（履修カルテ、学習成果の振り返り）	【事前学習】テキスト『保育・教職実践演習第2版』p.66～69をよく読んでおくこと（事前学習2時間）。 【事後学習】履修カルテの記入により、2年間の学習の成果を振り返る。自己評価の分析をもとに、今後、保育者となる心構えを持つこと（事後学習2時間）。
テキスト 佐藤寛之他編著、授業担当教員著『保育・教職実践演習第2版』 学校法人白峰学園 横浜女子短期大学 授業内容に応じて必要な教材資料を配布。必要な図書資料について指示。		
参考書・参考資料等 必要な参考書、参考資料については授業内で紹介を行う。		
課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・対面授業では、各授業の最後にその授業のまとめ、振り返りと課題学習に関するコメント伝達を実施する。 ・対面授業、遠隔授業の課題は、逐次的に指導担当教員の評価・コメント等のフィードバックを行う。		
学生に対する評価 授業に積極的に取り組む態度（10%）、各授業の演習課題評価点の合計（90%）を合わせて総合的に評価する。		
実務経験（職名） 佐久間博子（幼稚園体育講師）、兼子真理（幼稚園、保育所での造形絵画指導講師、幼児造形ワークショップ講師）、鵜野澤武美（幼稚園教諭、保育士、認定こども園園長、幼稚園園長）、平澤順子（保育所保育士）、滝口節子（保育所保育士）、渡邊悦子（看護師、助産師）、本田幸（幼稚園教諭）		
実務経験のある教員による授業は、具体的な保育実践に結び付く内容を積極的に取り入れ、保育実践力の向上につながるような内容である。		

授業科目名 保育実習Ⅰ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：4単位	学術 実務	担当教員名 岡本 眞幸 ステイーブントムソン 滝口 節子 鶯野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
	選択		必修	開講期：1・2学年 通年		

① 保育実習Ⅰ（保育所）

授業の概要

保育所における実習（12日間）

保育所の機能および乳幼児の理解を深めるために、保育所の生活に参加し、参与観察実習を行う

授業の到達目標

- ・ 保育の機能・役割についての知識を習得する
- ・ 保育観察や子どもとの関りを通して、観察や記録の仕方、計画立案の基本事項など、保育の基本的技術を習得する
- ・ 保育士の業務内容や職業倫理などについて理解を深め、説明できる

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表（保育所実習）

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
12日間	1. 以下、保育所について学ぶ (1) クラス編成の様子を知る (2) 安全及び疾病予防についての配慮を知る (3) 建物や遊具、園庭などの環境整備について知る 2. 以下、保育所における乳幼児について知る (1) 乳幼児の遊びや生活の実態について知る (2) 子ども達の心身の発達状態を知る 3. 以下、保育者の保育方法・内容を理解する (1) 保育所の1日の流れを知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 可能な範囲以内で保育活動をする 4. 以下、実習への姿勢を向上させる (1) 基本的な実習態度を身に付ける (2) 指導者からの助言を素直に受け入れる	<p>事前学習：テキスト PP21-22 を読み、実習に必要なことを確認しておく。PP27-29 を読み、実習の心構えを再確認しておく。</p> <p>事後学習：年齢に応じた発達について調べ、担当した各クラスの子どもと照らし合わせるなど、心身の発達について理解を深める</p>

テキスト

- ・ 横浜女子短期大学 実習テキスト

参考書・参考資料等

- ・ 「保育所保育指針解説書」厚生労働省
- ・ 「幼稚園教育要領解説」文部科学省
- ・ 「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府

学生に対する評価

実習評価表（40%）日誌（60%）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

滝口節子 保育所の保育士
 鶯野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士
 平澤順子 保育所の保育士

② 保育実習 I (施設)

授業の概要

児童養護施設を中心とした児童福祉施設で、原則 12 日間 90 時間以上の宿泊または通所の実習を行う。施設職員の指導を受けながら実習に臨み、施設の基本的な機能・役割や、施設の子どもの心情や生活状況、施設の保育者の援助内容・方法について学ぶとともに、実習を通して自分の課題を明確にする。

授業の到達目標

- ・施設の基本的な役割や機能が具体的に理解できる。
- ・施設の子どもの生活の状況や心情への理解が深まる。
- ・施設の保育者の具体的な業務内容や援助方法への理解が深まる。
- ・実習の自己評価により、今後の学習に向けた自己の課題が明確になる。

ディプロマポリシーとの関連

DP II ①②③④

授業計画表 (施設実習)

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
1 日目 ～ 12 日目	<p>a. 施設の機能・役割の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要 (定員、沿革、養育理念など) ・施設のケア形態 (大舎制、ユニット制など) ・生活集団の構成 (年齢や男女の構成など) ・職員の構成・役割 など <p>b. 施設の子どもの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの一日の生活の流れ (平日、休日) ・部屋の子どもの様子 (他児との関係、試し行動等) ・学校生活の様子 (学業の状況、級友との関係など) ・子どもの親子関係 など <p>c. 施設の保育者の援助内容・方法の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活業務 (衣食住全般) ・子どもへの日常的ケア (学習指導、余暇の充実など) ・子どもへの個別的援助 ・子どもとの関係形成の工夫 など <p>d. 実習の自己評価と自己の課題・目標の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関係づくりについて ・施設の保育者業務への補助的取り組みについて ・日誌の記録について など 	<p>事前学習:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園の事前オリエンテーションでの資料や学内事前指導のプリント、実習テキストを熟読する。 ・実習日誌の中の「自己紹介票」「事前オリエンテーション記録」「実習課題」は事前に記入しておく。また、「実習園の概要」も、可能な限り記入しておく。 <p>事後学習:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 日間の実習を振り返り、自分の中で特に印象に残っていることや特に大きな学びとなったことなどのエピソードを列举し、整理しておく。 ・実習の自己評価により、今後の学習に向けた、自分の課題を自分なりに整理しておく。

テキスト

- ・横浜女子短期大学 実習テキスト

参考書・参考資料等

河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい

学生に対する評価

実習評価表 (40%) 日誌 (60%) を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行 (里親支援事業)
スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員 (アメリカ)

授業科目名 保育実習Ⅱ (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 /	保育士 必修	授業形態：実習 単位数：2単位 開講期 2学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子
授業の概要 保育所実習の事前・事後の学習を中心に行う。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての心構えおよび保育者としての倫理について学ぶ。また、事後指導において実習の総括と評価の理解、それによる課題の明確化を図れるようにする。実習の記録の仕方など実習に臨むにあたって求められるスキルも身に付けられるようにする。						
授業の到達目標 ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画表						
回数	学習内容	事前（準備）・事後学習の内容				
12日間	<ol style="list-style-type: none"> 以下、保育所機能についてまなぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 保育者と保護者との関わり方を知る。 延長保育等特別な保育について知る。 保育所の危機管理について知る。 以下、保育所における乳幼児の理解をさらに深める。 <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の個人差について理解し、個々の子どもに合わせた対応方法を習得する。 以下、保育所の保育者の保育方法・内容の理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> 発達に応じた保育内容や方法を知る。 保育環境について詳しく知る。 保育の一部を担当し保育の技術を習得する。 指導計画を立案し、責任実習を体験する。 以下、実習への姿勢を向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> 保育士としての意義や職業倫理を理解する。守秘義務の遵守について实际的に理解する。 記録日誌の考察を深め充実した内容にする。 	<p>事前学習：テキストP18～P24・P29～P31を熟読しておく。 保育実習Ⅰの経験を振り返り、保育実習Ⅱに向け実習に必要なことを確認しておく。</p> <p>事後学習：要点をまとめ、説明できるようにする。 テキストP24～p25を読みまとめておく。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> 夏期集中オリエンテーション2日間 実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。 						
テキスト <ul style="list-style-type: none"> 横浜女子短期大学 実習テキスト 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府 						
学生に対する評価 実習評価表（40%）、記録日誌（60%）を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する						

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）

滝口節子 保育所の保育士

鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長

平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 保育実習Ⅲ (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：2単位	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実務</div>	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 石山 直樹
	選択	/	必修	開講期：2学年 通年		

授業の概要

児童養護施設、乳児院など児童福祉施設で、原則12日間90時間以上の宿泊または通所の実習を行う。社会的養護Ⅰなど既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、施設の機能・役割や他機関との連携、施設の子どもの生活状況や家庭状況、施設の保育者の援助方法・内容や職業倫理についてさらに深く学ぶとともに、実習を通して自分の課題を明確にする。

授業の到達目標

- ・施設の役割・機能と地域や他機関との関わりについての理解が深まる。
- ・施設の子どもの生活の状況や心情、親子関係(家庭)の状況についての理解が深まる。
- ・施設の保育者の専門職としての職務の内容・方法・倫理への理解が深まる。
- ・実習の総括や自己評価により、今後の学習に向けた自己の課題や目標が明確になる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表(施設実習)

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
1日目 ～ 12日目	<p>a. 施設の機能・役割の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要(ケア形態、集団生活の構成など) ・入所児のよりよい生活のための営み ・園内の他の専門職との連携 ・児相や学校など他機関との連携・協力 ・地域との関わり など <p>b. 施設の子どもの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の子どもたちの様子 ・子ども同士の関わり ・子どもの抱える個別的課題 ・子どもの親子関係(家庭状況) など <p>c. 施設の保育者の援助方法・内容の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常における子どもへの対応の方法・工夫 ・子どもへの個別的援助 ・施設職員に求められる資質・能力、職業倫理 など <p>d. 実習の自己評価と自己の課題・目標の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関係づくりについて ・日誌の記録について ・施設職員の仕事に関する自己の適性や関心度について 	<p><u>事前学習</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園の事前オリエンテーションでの資料や学内事前指導のプリント、実習テキストを熟読する。 <p><u>事後学習</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12日間の実習を振り返り、自分の中で特に印象に残っていることや特に大きな学びとなったことなどのエピソードを列挙し、整理しておく。 ・実習の総括や自己評価により、今後の学習に向けた、自分の課題や目標を自分なりに整理しておく。

テキスト

- ・横浜女子短期大学 実習テキスト

学生に対する評価

実習評価表(40%)、記録日誌(60%)を基本配分としたうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行(里親支援事業等)
スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員(アメリカ)

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 保育実習指導 I (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 /	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 2 単位 開講期： 1・2 学年 通年	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
授業の概要 保育所及び施設実習の事前・事後の学習を中心に行う。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての心構えおよび保育者としての倫理について学ぶ。また、事後指導において実習の総括と評価の理解、それによる課題の明確化を図れるようにする。実習の記録の仕方など実習に臨むにあたって求められるスキルも身に付けられるようにする。また、保育者になるための学びとして、各自が「私の実習ノート」を仕上げる。						
授業の到達目標 ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
① 授業計画表：保育実習指導 I (保育所)						
回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容				
第 1 回	授業オリエンテーション ・実習の意義と目的および本学での実習のあり方	事前学習：テキスト PP4-5 を熟読しておく 事後学習：実習の意義・目的について要点をまとめ、説明できるようにする。				
第 2 回	保育園の生活① ・デイリープログラムに基に、乳児の生活と遊びについて学ぶ—DVD 視聴を通して—	事前学習：0 歳児の発達について調べておく 事後学習：発達に基づく生活と遊びを整理しておく				
第 3 回	保育園の生活② ・デイリープログラムに基に、1～3 歳未満児の生活と遊びについて学ぶ—DVD 視聴を通して—	事前学習：1～3 歳未満児の発達を調べておく 事後学習：発達に基づく生活と遊びを整理しておく				
第 4 回	保育園 1 日見学	事前学習：配属園の資料を読み込んでおく 事後学習：見学してきた中で気づいたことの要点をまとめておく				
第 5 回	保育園 1 日見学： ・事後学習：学生同士の情報の共有	事前学習：保育園の機能について調べ、まとめておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめておく				
第 6 回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方① おやつ・食事場面：1～2 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：1～2 歳児の食事に関する発達について調べ、まとめておく 事後学習：食事場面での 1～2 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく				
第 7 回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方② 排泄場面：0 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：0 歳児の排泄に関する発達について調べ、まとめておく 事後学習：排泄場面での 0 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく				
第 8 回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方③ 遊び場面 1～2 歳児の DVD 視聴を基に	事前学習：1～2 歳児の遊びに関する発達について調べ、まとめておく 事後学習：遊び場面での 1～2 歳児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく				

第9回	観察と記録の方法：実習日誌の書き方④ 午睡場面：乳児・3歳未満児のDVD視聴を基に	事前学習：睡眠に関する乳児・幼児の発達について調べ、まとめておく 事後学習：午睡場面での乳児・幼児の発達の姿を日誌に書き加え、内容を深めていく
第10回	観察と記録の方法：実習日誌の書き方⑤ 考察および一日のまとめの書き方	事前学習：幼稚園実習日誌を読み返し、考察およびまとめにおける問題点を挙げておく 事後学習：考察および一日のまとめの書き方の要点を整理しておく
第11回	実習事前学習① 課題の立て方	事前学習：実習で何を学んでくるのかテキストの学習内容を基にまとめておく 事後学習：課題を整理⇒まとめ⇒提出（テキストの用紙・日誌）
第12回	実習事前学習② 日々の目標の立て方	事前学習：自分が立てた課題をより細分化させた日々の目標を考えておく 事後学習：テキストの1日のまとめの用紙に実習の日数分の目標を記載し、再検討する
第13回	実習事前学習③ ・実習日誌等の確認 ・指導案立案の方法の確認	事前学習：実習日誌に添付する園の概要を含む4点をまとめておく。 「カリキュラム論」で学んだ指導案立案の基本的な書き方を確認しておく。 事後学習：部分実習指導案を立案する
第14回	実習オリエンテーション① ・実習の心構え、倫理綱領、提出物の確認	事前学習：テキストPP29-31を熟読しておく 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく事柄を列記しておく
第15回	実習オリエンテーション② ・実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本などを読み込み、注意事項を挙げておく 事後学習：授業で受けた指摘を確認し、それらを指導案に反映する

② 授業計画表：保育実習指導Ⅰ（施設）

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
1年後期 第1回	授業オリエンテーション 保育実習Ⅰ（施設）の実施概要	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、学生便覧の該当箇所に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第2回	<実習施設を知る>① 児童養護施設の概要（県内の実習園について） 児童相談所との関係（措置制度への理解も）	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した児童養護施設の資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第3回	<実習施設を知る>② 設備運営基準（職員配置基準、必置の職種など） 施設のケア形態（特にユニット制について詳しく） グループホームについてなど	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、『保育福祉六法』の該当箇所に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第4回	<実習施設を知る>③ 児童養護施設運営指針に目を通す	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、インターネットで運営指針を検索してみる 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第5回	<実習施設の子どもを知る>① 入所児の現況について 一時保護、児相の担当者、自立支援計画など	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する

第6回	<実習施設の子どもを知る>② 虐待等を受けた施設の子どものもつ傾向・特徴 (愛着形成の不備からくる問題性、試し行動など)	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第7回	<実習施設の保育の者の援助内容・方法を知る>① 施設保育士の仕事内容(全体像)の確認 (実習では見えにくい内容への理解のため)	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第8回	<実習施設の保育の者の援助内容・方法を知る>② 施設保育士の役割について 全国児童養護施設協議会倫理綱領を読む	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第9回	<実習のための準備学習> 実習課題の立て方について	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第10回	<実習のための準備学習> 実習日誌の書き方について	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第11回	実習のための事前諸準備 日誌のファイル・用紙の配布、実習生調書の記入等	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第12回	<全体オリエンテーション> 実習での留意点、各園の事前オリエンテーション等について	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、実習テキストに目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
2年通年 第13回	<全体オリエンテーション> 実習の学習内容(4つの柱)に関して	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、配布した資料や実習テキストに目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第14回	<実習時期ごとに行う事前オリエンテーション> 全6回実施の予定	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、前回のオリエンテーション資料に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
第15回	<実習時期ごとに行う事後指導> 全6回実施の予定	事前学習：授業内容をシラバスで確認し、実習園の資料等に目を通す 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを確認・整理する
テキスト		
<ul style="list-style-type: none"> ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府 		
課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったりうで返却する。 		
学生に対する評価		
授業参加態度(20%)、提出物(マイノートも含む)(40%)、実習報告会(40%)		

実務経験

岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業等）

スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）

滝口節子 保育所の保育士

鶴野澤武美 幼稚園の教諭・園長

平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 保育実習指導（Ⅱ） （専門教育科目）	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
	選択		必修	開講期： 2学年 通年		

授業の概要

保育実習Ⅱの事前・事後の学習を中心に行います。保育所での具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育所の子どもと保育、保護者支援、指導計画の作成から評価までの過程、保育士の業務内容や職業倫理について理解し、併せて実習における自己の課題を明確化します。

また、2年間を通して、保育者になるための実習による学びの記録として、各自が創意工夫の基、実習の「マイノート」を仕上げます。

授業の到達目標

- ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。
- ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。
- ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表

回数	内容・方法	事前（準備）・事後学習の内容
第1回	保育実習Ⅰ（保育所）の事後学習 保育実習Ⅱの授業のオリエンテーション	<u>事前学習</u> ：授業のテーマに合わせてテキスト、保育実習Ⅰの日誌等からまとめておく。各回の内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を熟読し、不明な点を明確にしておく。 <u>事後学習</u> ：授業で行ったまとめの内容を整理する。テキスト、ノート等を見返し、わからなかったところを調べて、整理する
第2回	保育実習Ⅱ 事前学習①（日誌）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト、ノートを読んで理解しておく。 <u>事後学習</u> ：授業でまとめたノート、プリントを整理し理解を深め復習する。
第3回	保育実習Ⅱ 事前学習②（指導案）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また、調べておく。 <u>事後学習</u> ：授業で学んだこと、指導案見返し復習する。
第4回	保育実習Ⅱ 事前学習③（学ぶべきこと・課題と目標）	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで、事前にまとめておく。 <u>事後学習</u> ：授業で学んだことを、復習する。課題の整理をする。
第5回	実習オリエンテーション（夏期集中）：責任実習指導案の作成・ロールプレイ	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また、調べておく。 <u>事後学習</u> ：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで責任実習指導案の復習をする。
第6回	実習オリエンテーション（夏期集中）：実習の心得など	<u>事前学習</u> ：授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。「実習の心得」テキストを熟読しておく。

		事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで復習する。
第7回	実習オリエンテーション（夏期集中）：保育実技（ペーパーサート、パネルシアターなど）	事前学習：授業に合わせたテーマで事前に実技練習を行っておく。 事後学習：授業で行った実践を振り返り反省点を振り返り、問題点をまとめて復習する。
第8回	保育実習Ⅱ 事後学習① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）	事前学習：授業のテーマに合わせてテキスト、保育実習の日誌等からまとめておく。授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また、調べておく。 事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで復習する。
第9回	保育実習Ⅱ 事後学習②	事前学習：授業のテーマに合わせてテキスト、保育実習の日誌等からまとめておく。授業に合わせたテーマを、テキスト等を読んで理解しておく。また、調べておく。 事後学習：授業で学んだことをテキスト、まとめたプリントで復習する。
第10回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）①	事前学習：これまでの実習において、特に印象に残ったエピソードを複数挙げておく 事後学習：記入したプリントの内容を再度見返す
第11回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）②	事前学習：ポスター原稿の大まかなデザインを考えておく 事後学習：自分のポスターの内容をさらに推敲する
第12回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③	事前学習：ポスター原稿をパソコンで打つための準備をする 事後学習：パソコンで打ったポスター原稿を仕上げていく
第13回	実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）④	事前学習：自分の作成したポスター原稿を再読する 事後学習：見て回った皆のポスター原稿の中で、特に印象に残った内容を振り返ってみる
第14回	実習報告会	事前学習：これまでの実習において、特に自分の学びとなったこととは何かを考えてみる 事後学習：今日の実習報告会の発表内容を振り返ってみる
第15回	1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1年・2年合同）	事前学習：2年間の実習における、自分のこれまでの学びを振り返る 事後学習：これまでの学びを通して、自分のもつ強みや課題について自己省察しまとめる
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府 		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房</p>		
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法</p>		

・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。

学生に対する評価

授業参加態度（20%）、提出物（マイノートを含む）（40%）、実習報告会（40%）

実務経験

岡本真幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）

スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員（アメリカ）

滝口節子 保育所の保育士

鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長

平澤順子 保育所の保育士

実務経験を活かした教育内容

教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。

授業科目名 保育実習指導 (Ⅲ) (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子 石山 直樹
	選択		選択必修	開講期： 2学年 通年		

授業の概要

保育実習Ⅲの事前・事後の学習を中心に行います。施設での具体的な実践を通して、施設の役割と機能、支援の実際(受容・共感の態度、子ども理解、個別支援計画策定、家庭関係調整、施設内外の連携等)、保育士の業務と職業倫理について理解し、自己の課題を明確化します。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、保育者になるための実習による学びの記録として、各自が「私の実習ノート」を仕上げます。

授業の到達目標

- ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。
- ・施設の保育者の専門性(価値・知識・技術)と職業倫理について理解できる。
- ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する自己の課題や認識を明確化できる。

ディプロマポリシーとの関連

DPⅡ①②③④

授業計画表

回数	内容・方法	事前(準備)・事後学習の内容
第1回	保育実習Ⅰ(保育所)の事後指導 授業のオリエンテーション	<u>事前学習</u> : 保育実習Ⅰ(保育所)の体験を振り返り、自分の感想等をまとめておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第2回	保育実習Ⅲ 事前学習①(学習内容: 4つの柱について)	<u>事前学習</u> : シラバスを確認し、テキストの該当箇所を熟読しておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第3回	保育実習Ⅲ 事前学習②(日誌の書き方)	<u>事前学習</u> : 当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第4回	保育実習Ⅲ 事前学習③(実習課題・日々の目標の立て方j)	<u>事前学習</u> : 当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第5回	実習オリエンテーション(夏期集中)①: 実習施設を知る	<u>事前学習</u> : 実習施設のホームページの施設概要の箇所を事前にチェックしておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第6回	実習オリエンテーション(夏期集中)②: 施設の子どもの理解を深める	<u>事前学習</u> : 当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第7回	実習オリエンテーション(夏期集中)③: 施設の保育者の援助方法の理解	<u>事前学習</u> : 当該授業内容に関する、以前に配布した資料に目を通しておく <u>事後学習</u> : テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する

第8回	保育実習Ⅲ 事後指導① 実習体験の振り返り(観察力・着眼点・行動等の自己評価)	事前学習：保育実習Ⅲの体験を振り返り、自分の感想等をまとめておく 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第9回	保育実習Ⅲ 事後指導②	事前学習：自分の書いた実習報告書①・②の内容に目を通しておく 事後学習：テキスト、ノート等を見返し、ポイントを整理する
第10回	実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)①	事前学習：これまでの実習において、特に印象に残ったエピソードを複数挙げておく 事後学習：記入したプリントの内容を再度見返す
第11回	実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)②	事前学習：ポスター原稿の大まかなデザインを考えておく 事後学習：自分のポスターの内容をさらに推敲する
第12回	実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)③	事前学習：ポスター原稿をパソコンで打つための準備をする 事後学習：パソコンで打ったポスター原稿を仕上げていく
第13回	実習体験のまとめ(実習報告会に向けて)④	事前学習：自分の作成したポスター原稿を再読する 事後学習：見て回った皆のポスター原稿の中で、特に印象に残った内容を振り返ってみる
第14回	実習報告会	事前学習：これまでの実習において、特に自分の学びとなったこととは何かを考えてみる 事後学習：今日の実習報告会の発表内容を振り返ってみる
第15回	実習報告会を含め、これまでの学びの振り返りと、まとめ	事前学習：2年間の実習における、自分のこれまでの学びを振り返る 事後学習：これまでの学びを通して、自分のもつ強みや課題について自己省察しまとめる
<p>テキスト</p> <p>横浜女子短期大学 実習テキスト</p> <p>説明用資料を授業内で配布。</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>河合高鋭・石山直樹 編集『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』みらい 『保育福祉小六法(2021年度版)』(株)みらい</p>		
<p>課題等(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</p> <p>理解度を確認するための小テストや課題等については、各回の授業時に解説を行ったうえで返却する。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>授業参加態度(20%)、提出物(マイノートを含む)(40%)、実習報告会(40%)</p>		
<p>実務経験</p> <p>岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行(里親支援事業等) スティーブントムソン 児童心理治療施設の児童指導員(アメリカ) 滝口節子 保育所の保育士 鶴野澤武美 幼稚園の幼稚園教諭・園長 平澤順子 保育所の保育士</p>		
<p>実務経験を活かした教育内容</p> <p>教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。</p>		

授業科目名 教育実習 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 実習 単位数： 4単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子
	選択	必修		開講期： 1・2学年 通年		
授業の概要 幼稚園における実習（1年次10日間、2年次15日間）を行う。実習園において担当保育者の指導を受けつつ「参与観察実習」「参加実習」「部分実習」「責任実習」を体験する。						
授業の到達目標 ・幼稚園の機能や特色、幼稚園教諭の役割について理解を深める。 ・子どもの実態を把握し、担当保育者が行う保育を観察する中で、その事実に即した記録方法を習得する。 ・幼稚園教育要領をふまえ、各年齢の発達に即した指導計画を立案し実践する。						
ディプロマポリシーとの関連 DPⅡ①②③④						
授業計画表						
回数	学習内容	事前（準備）・事後学習の内容				
1年次 10日間	1年次教育実習 1. 幼稚園の機能を学ぶ (1) クラス編成の様子を知る (2) 職員の仕事の分担や役割を知る (3) 安全に関する園の約束事を知る 2. 幼稚園における幼児の理解を深める (1) 幼稚園における幼児の遊びや生活の実態について知る (2) 子ども心身の発達について知る 3. 幼稚園における保育者の保育方法・内容を理解する (1) 幼稚園の1日の流れを知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 担当保育者の指示を受けながら、保育の補助的・部分的な仕事に参加する 4. 実習への姿勢を向上させる (1) 基本的な実習態度を身に付ける (2) 指導者からの助言を素直に受ける 2年次教育実習 1. 幼稚園の機能を学ぶ (1) 保育者と保護者の関わり方を知る (2) 預かり保育など特別な保育について知る (3) 地域との連携の実際について知る 2. 幼稚園における幼児の理解を深める (1) 幼児の個人差について理解する (2) クラス集団としての子どもを知る 3. 幼稚園における保育者の保育方法・内容を理解する (1) 発達に応じた保育内容や方法を知る (2) 保育者の関わり方や配慮を知る (3) 保育計画を立案し、部分実習、責任実習を体験する 4. 実習への姿勢を向上させる (1) 幼稚園教諭としての使命感を育む (2) 幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確にする	事前学習： 実習テキスト、各教科の教科書を熟読しておく 部分実習・責任実習に備え、指導計画の立案、教材研究や保育素材の準備をする 事後学習： 実習での学びを振り返り、実習記録日誌を整理しておく 担当保育者から受けた指導をふまえ、自己課題を明確にする				
・教育実習（幼稚園）として1年次の9月に10日間、2年次の6月に15日間の実習を行う。 ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。						

テキスト

- ・横浜女子短期大学 実習テキスト
- ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省
- ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省
- ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府

参考書・参考資料等

「保育用語辞典」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

実習評価表（40%）、日誌（60%）を基本配分したうえで、提出物・巡回指導を総合的に評価する

実務経験

岡本真幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業）

滝口節子 保育所の保育士

鵜野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士

平澤順子 保育所の保育士

授業科目名 教育実習指導 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：実習 単位数：1単位	学術 ・ 実務	担当教員名 岡本 眞幸 滝口 節子 鵜野澤 武美 平澤 順子
	選択	必修		開講期：1・2学年 通年		
授業の概要						
<p>教育実習の事前・事後の学習を中心に行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。特に各実習の事後指導で、報告書を提出させ、教育実習生としての観察力・着眼点・行動等について自己評価を行います。</p> <p>また、保育者になるための実習による学びの記録として、各自が「私の実習ノート」を仕上げます。</p>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化する。 						
ディプロマポリシーとの関連						
DPⅡ①②③④						
授業計画表						
回数	内容・方法			事前（準備）・事後学習の内容		
第1回	授業オリエンテーション 実習の意義と目的 本学で行う実習			事前学習：テキストP.2～6、P.18～28を熟読しておく 事後学習：授業を振り返り、実習の意義と目的を整理しまとめる		
第2回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方① 時系列型日誌の記録の理解			事前学習：テキストP.16、P.67を読んでおく 事後学習：授業を振り返り、日誌の各項目に記録する内容を整理しておく		
第3回	附属幼稚園園長先生の話 附属幼稚園の概要 一日の流れの理解			事前学習：附属幼稚園のHPを閲覧しておく 事後学習：附属幼稚園見学実習までに、園の概要を記入しておく		
第4回	附属幼稚園一日実習 事前学習① 幼稚園についての理解 附属幼稚園一日実習の学習内容 実習生としての心得			事前学習：テキストP.7、P.14を読んでおく 事後学習：実習の心得について理解し、実習当日までに準備を整えておく		
第5回	附属幼稚園一日実習 事後学習① 実習報告書の記入 実習体験の共有			事前学習：附属幼稚園一日実習のまとめを記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめておく		
第6回	附属幼稚園一日実習 事後学習② 附属幼稚園1日実習の日誌返却 評価表について 日誌の書き方の振り返り			事前学習：時系列型日誌について振り返り、各項目に記入することを理解しておく 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく		
第7回	1年次教育実習 事前学習① 実習オリエンテーションについて 実習関連書類の書き方について			事前学習：テキストP.29～31を読んでおく 事後学習：実習に必要な書類を記入し整えておく		
第8回	1年次教育実習 事前学習② 1年次教育実習の学習内容 実習課題の立て方			事前学習：テキストP.14～15「学習内容」を読み、実習で学ぶべき内容を理解しておく 事後学習：授業内容を振り返り、実習課題を立てる		
第9回	1年次教育実習 事前学習③ 部分実習指導案の作成について 部分実習とは何か			事前学習：テキストP.69を読み、内容を理解しておく 事後学習：部分実習指導案を作成する		

	指導案の作成方法	
第10回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方② 日々の目標の立て方 考察の書き方	事前学習：時系列型日誌について振り返り、各項目に記入することを理解しておく 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく
第8回	1年次教育実習オリエンテーション① 実習の心構え、提出物の確認	事前学習：実習生の心得を、テキストを読み返し確認しておく 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく頃柄を列記しておく
第9回	1年次教育実習オリエンテーション② 実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本や紙芝居を図書館で選び準備をしておく 事後学習：実習に向けて提出書類や実習日誌を整えておく
第10回	1年次教育実習 事後学習① 実習報告書に基づくグループ討議 全体での情報共有	事前学習：実習報告書①②を記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめておく
第11回	1年次教育実習 事後学習② 実習の日誌返却 日誌の書き方の振り返り 実習園からの評価表開示と自己評価の検討	事前学習：実習で学んだことをまとめる 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく
第12回	観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方③ 実習における「気付き」の記録方法	事前学習：授業で学んだことを振り返り、今までの日誌を読み返しておく 事後学習：
第13回	2年次教育実習 事前学習① 責任実習指導案の作成について 責任実習とは何か 指導案の作成方法	事前学習：指導案立案の基本的な書き方を確認しておく 事後学習：責任実習指導案を作成する
第14回	2年次教育実習 事前学習② 1年次教育実習の学習内容 実習課題の立て方	事前学習：テキストP.14～15「学習内容」を読み、実習で学ぶべき内容を理解しておく 事後学習：授業を振り返り、実習課題を立てる
第15回	2年次教育実習オリエンテーション① 実習の心構え、提出物の確認	事前学習：実習生の心得を、テキストを読み返し確認しておく 事後学習：授業内容を基に、実習までに準備しておく頃柄を列記しておく
第16回	2年次教育実習オリエンテーション② 実習に向けての実技指導	事前学習：実習で実施する絵本や紙芝居を図書館で選び準備をしておく 事後学習：実習に向けて提出書類や実習日誌を整えておく
第17回	2年次教育実習 事後学習① 実習報告書に基づくグループ討議 全体での情報共有	事前学習：実習報告書①②を記入しておく 事後学習：共有し合った情報を整理し、まとめておく
第18回	2年次教育実習 事後学習②	事前学習：実習で学んだことをまとめる 事後学習：評価表と日誌を照らし合わせ、自己の問題点を確認しておく
<ul style="list-style-type: none"> ・夏期集中オリエンテーション ・実習後に、実習体験（観察力・着眼点・行動等の自己評価）の振り返りを行う。 		
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜女子短期大学 実習テキスト ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府 		

<p>参考書・参考資料等 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房</p>
<p>課題等（試験やレポート等）に対するフィードバック方法 ・理解度を確認するための小テストや課題等については、各回授業時に解説を行ったうえで返却する。</p>
<p>学生に対する評価 授業参加態度（20%）、提出物（マイノートを含む）（40%）、実習報告会（40%）、</p>
<p>実務経験 岡本眞幸 児童養護施設の主任児童指導員・家庭養育支援センター長代行（里親支援事業） 滝口節子 保育所の保育士 鶴野澤武美 幼稚園の教諭・園長、認定こども園園長、保育士 平澤順子 保育所の保育士</p>
<p>実務経験を活かした教育内容 教員がそれぞれの実務経験を活かした視点で、理論・技術及び心根を講義し演習の中に掲示する。</p>

カリキュラムマップ

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）1年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-1※	キリスト教の精神Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L2-1※	教養演習（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L5-1※	英語Ⅰ（卒業必修）	1年通年	1年通年		
L6-1※	体育実技（卒業必修）	1年通年	1年通年		
D5-1	保育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	1年通年	1年通年		
L3-1	哲学	1年前期	3科目中 1科目選択必修		
L3-2	心理学	1年前期			
L3-3	生物学	1年前期			
L4-1	日本国憲法（幼免必修）	1年前期			
L4-2	情報機器の操作（幼免必修）	1年前期or後期	1年前期or後期		
L6-2※	体育講義(卒業必修)	1年前期			
D1-1※	保育原理（卒業必修）	1年前期			
D1-2	教育原理	1年前期			
D1-4※	社会福祉（卒業必修）	1年前期			
D1-5※	子ども家庭福祉（卒業必修）	1年前期			
D3-5※	子どもの保健（卒業必修）	1年前期			
D3-9※	乳児保育Ⅰ（卒業必修）	1年前期			
D3-11※	保育の心理学（発達）（卒業必修）	1年前期			
D4-5※	音楽表現（卒業必修）	1年前期			
D4-7※	造形表現（卒業必修）	1年前期			
D4-16※	人間関係（卒業必修）	1年前期			
D4-18※	環境（卒業必修）	1年前期			
D4-20※	言葉（卒業必修）	1年前期			
D1-6※	社会的養護Ⅰ（卒業必修）		1年後期		
D2-1	子ども家庭支援論		1年後期		
D3-1	カリキュラム論		1年後期		
D3-7※	子どもの食と栄養A（卒業必修）		1年後期		
D3-10	乳児保育Ⅱ		1年後期		
D3-12	保育の心理学（学習）		1年後期		
D3-14	子どもの理解と援助		1年後期		
D4-6	音楽表現の指導法		1年後期		
D4-8	造形表現の指導法		1年後期		
D4-12	保育内容総論		1年後期		
D4-14※	健康（卒業必修）		1年後期		
D4-17	人間関係の指導法		1年後期		
D4-19	環境の指導法		1年後期		
D4-21	言葉の指導法		1年後期		

標準的履修モデル（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状所得用の履修パターン）2年次用

科目コード	科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L1-2※	キリスト教の精神Ⅱ（卒業必修）			2年通年	2年通年
L2-2※	保育総合演習（卒業必修）			2年通年	2年通年
L5-2	英語Ⅱ			2年通年	2年通年
D5-1	保育実習指導Ⅰ（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-1	保育実習Ⅰ	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-3(1・2)	教育実習指導（1年次・2年次）	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D6-3	教育実習	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年	1～2年通年
D5-2	保育実習指導（2年次）			2年通年	2年通年
D6-2A/2B	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	どちらか1科目を選択		2年通年	2年通年
D3-3	特別支援教育の基礎と方法			2年通年	2年通年
D3-4	障害児保育			2年通年	2年通年
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ			2年通年	2年通年
D1-3	保育者論			2年前期	
D2-3	社会的養護Ⅱ			2年前期	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学			2年前期	
D3-6	子どもの健康と安全			2年前期	
D3-8	子どもの食と栄養B			2年前期	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ			2年前期	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ			2年前期	
D4-13	保育内容研究（※通年科目）				2年後期（2コマ）
D2-2	子育て支援				2年後期
D3-2	保育方法論				2年後期
D3-13	教育相談				2年後期
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ				2年後期
D4-15	健康の指導法				2年後期
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）				2年後期

各科目と関連するディプロマポリシーの主な領域

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L1-1	キリスト教の精神Ⅰ	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
L1-2	キリスト教の精神Ⅱ	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
L2-1	教養演習	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L2-2	保育総合演習	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L3-1	哲学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L3-2	心理学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
L3-3	生物学	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L4-1	日本国憲法	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
L4-2	情報機器の操作	D P I -1 人としての基本的資質 (①②③) D P I -2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	教養科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
L5-1	英語Ⅰ	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L5-2	英語Ⅱ	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-1	体育実技	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
L6-2	体育講義	DPⅠ-1 人としての基本的資質 (①②③) DPⅠ-2 社会人としての3つの基礎力 (①②③) DPⅡ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

教養科目に関しては、ディプロマポリシーのⅠ、人として求められる基礎的資質・能力の育成に加えて、その学習成果が、Ⅱ、保育者となるために必要な資質・能力のどの領域と主に結びつくものであるかを示している。

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D1-1	保育原理	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D1-2	教育原理	
D1-3	保育者論	
D1-4	社会福祉	
D1-5	子ども家庭福祉	
D1-6	社会的養護Ⅰ	
D5-1	保育実習指導（1年次）	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D5-2	保育実習指導（2年次）	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
D5-3	教育実習指導（1年次）	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D5-4	教育実習指導（2年次）	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-1	子ども家庭支援論	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D2-2	子育て支援	
D2-3	社会的養護Ⅱ	
D2-4	子どもの家庭支援の心理学	
D6-1	保育実習Ⅰ	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情
D6-2A/2B	保育実習Ⅱ／保育実習Ⅲ	D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力
		D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D6-3	教育実習	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

科目コード	専門教育科目の名称	関連するディプロマポリシーの主な領域※
D3-1	カリキュラム論	D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能
D3-2	保育方法論	
D3-3	特別支援教育の基礎と方法	
D3-4	障害児保育	
D3-5	子どもの保健	
D3-6	子どもの健康と安全	
D3-7	子どもの食と栄養A	
D3-8	子どもの食と栄養B	
D3-9	乳児保育Ⅰ	
D3-10	乳児保育Ⅱ	
D3-11	保育の心理学（発達）	
D3-12	保育の心理学（学習）	
D3-13	教育相談	
D3-14	子どもの理解と援助	
D4-1	保育環境構成技術（音楽）Ⅰ	D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能
D4-2	保育環境構成技術（音楽）Ⅱ	
D4-5	音楽表現	
D4-6	音楽表現の指導法	
D4-7	造形表現	
D4-8	造形表現の指導法	
D4-9	子どもの生活と遊びⅠ	
D4-10	子どもの生活と遊びⅡ	
D4-11	子どもの生活と遊びⅢ	
D4-12	保育内容総論	
D4-13	保育内容研究	
D4-14	健康	
D4-15	健康の指導法	
D4-16	人間関係	
D4-17	人間関係の指導法	
D4-18	環境	
D4-19	環境の指導法	
D4-20	言葉	
D4-21	言葉の指導法	
D4-22	保育・教職実践演習（幼稚園）	D P II ①保育者としての基本的使命感・責任感、教育的愛情 D P II ②保育者としての基本的な対人関係能力 D P II ③保育者に必要な幼児理解や学級経営の基礎理解と技能 D P II ④保育内容等の基本的な理解、指導力、支援技能

※学生便覧P4の卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー「どのような人材を育成するのか」を参照のこと。授業内容に表記する「DP」は、「ディプロマポリシー」を略記したもの。

発行 横浜女子短期大学
〒234-0054
横浜市港南区港南台4-4-5
TEL 045-833-7100 (代表)
FAX 045-832-7246
発行日 2022年4月1日